

令和3年度

岩手県立博物館
年報

岩手県立博物館令和3年度年報



総来館者数300万人達成記念セレモニー
令和3年11月13日(土)

目で見る岩手県立博物館この1年



テーマ展 縄文いわての環状列石
令和3年3月23日(火)～5月9日(日)



テーマ展 縄文いわての環状列石 ストーンサークルゲーム
令和3年4月18日(日)



国際博物館の日記念 県博バックヤードツアー
令和3年5月16日(日)



第81回自然観察会
令和3年5月30日(日)



開館40周年記念特別展 みる！しる！わかる！三陸再発見
令和3年6月12日(土)～8月15日(日)



第81回地質観察会
令和3年6月26日(土)



高校生による郷土芸能特別公演
岩手県立岩泉高等学校 郷土芸能同好会
令和3年7月31日(土)



開館40周年記念特別展
みる！しる！わかる！三陸再発見 展示解説会
令和3年8月1日(日)



教員のための博物館の日
アンモナイトのストラップづくり
令和3年8月6日(金)～7日(土)



館園実習
令和3年8月19日(木)～26日(木)



移動展 みる!しる!わかる!三陸再発見 in 宮古
令和3年9月25日(土)～10月24日(日)
於、岩手県立水産科学館(宮古市)



秋のまなびイベント 生き物探偵
令和3年10月9日(土)



第82回自然観察会
令和3年10月24日(土)



秋のまなびイベント たんけん! 岩石園
令和3年11月3日(水・祝)



ICOM-DRMC エクスカーション 当館視察
令和3年11月5日(金)



ICOM-DRMC 陸前高田シンポジウム
令和3年11月6日(土)



秋のまなびイベント たいけん！むかしの暮らし
令和3年11月21日（日）



干支展 寅・虎・とら
令和3年12月21日（火）～4年2月6日（日）



文化財等取扱講習会
令和4年1月27日（木）～1月28日（金）



小学校での県博出前講座「むかしの暮らし」
令和4年2月16日（水）



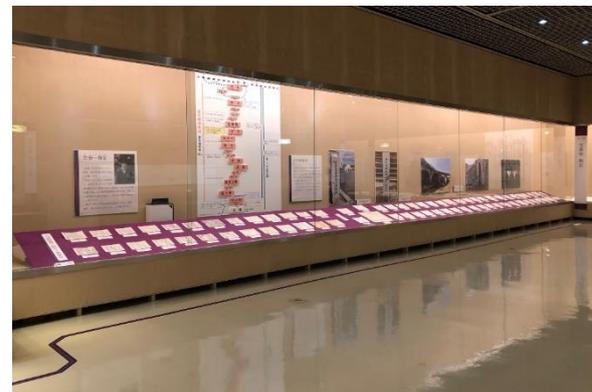
テーマ展 教科書と違う岩手の歴史-岩手の弥生～古墳時代-
令和3年11月23日（火・祝）～4年2月6日（日）



ワクワク！子どもツアー
令和4年1月9日（日）



平館高等学校との博学連携プロジェクト
人形（成果品）引渡し式
令和4年1月31日（月）



テーマ展 金田一家収蔵資料展-金田一勝定を中心に-
令和4年3月5日（土）～5月8日（日）

目次

目で見る岩手県立博物館この1年	- 前付 -
1 沿革	- 3 -
2 施設の概要	
(1) 建築の概要	- 5 -
(2) 施設配置図・展示室等平面図	- 5 -
(3) 各室面積表	- 6 -
3 博物館協議会	- 7 -
4 予算	- 8 -
5 事業の概要	
(1) 展示活動	- 9 -
(2) 教育普及活動	- 20 -
(3) 調査研究活動	- 41 -
(4) 資料収集保管活動	- 50 -
(5) 総務企画調整	- 59 -
(6) 新型コロナウイルスへの対応について	- 64 -

6 被災文化財等再生活動

- (1) はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 67 -
- (2) 被災文化財の再生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 67 -
- (3) 文化復興へ向けた被災文化財等の活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 68 -
- (4) 今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 69 -

7 文化財の不適切行為事案について

- (1) 本事案の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 70 -
- (2) 再発防止の更なる対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 71 -

8 岩手県立博物館友の会

- (1) 概要・・ - 72 -
- (2) 会員数・・ - 72 -
- (3) 主催事業・・ - 72 -

9 博物館利用者入館状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 74 -

10 令和3年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織・・・・・・・・・・・・・・ - 77 -

11 岩手県立博物館使命書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 78 -

12 関係条例・規則等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 79 -

1 沿革

- 昭和48年 4月 県教育委員会事務局社会教育課に博物館準備係（3名）を設置
- 昭和48年 5月 県庁内に副知事を委員長とし関係部長等を委員とする博物館調査委員会を設置
- 昭和48年 6月 博物館資料調査委員（委員22名）を委嘱
- 昭和48年 7月 民意集約機構として博物館建設調査協議会（委員25名）を設置
- 昭和48年 8月 展示内容等の専門的指導助言を得るため、博物館専門委員会（委員20名）を設置
- 昭和49年 4月 県教育委員会事務局に博物館開設準備室（庶務係、学芸班10名）を設置
- 昭和50年 5月 博物館建設調査事務終了に伴い、引続き県立博物館建設委員会（委員6名）を設置
- 昭和51年 1月 県立博物館の建設地を、盛岡市上田字松屋敷四十四田公園地内に決定
- 昭和51年 10月 建設基本設計の委託を株式会社佐藤武夫設計事務所（東京都）に決定
- 昭和52年 4月 博物館開設準備室を廃し、博物館建設事務所（総務課、学芸課、工務課、17名）を設置
- 昭和53年 6月 起工式
- 昭和53年 10月 展示工事着手、民家の移築復元工事を財団法人文化財建造物保存技術協会に委託
- 昭和54年 11月 定礎式
- 昭和55年 7月 博物館条例公布、館の名称を岩手県立博物館 と決定
- 昭和55年 7月 コンパニオン（非常勤専門職員15名）任用
- 昭和55年 10月 岩手県立博物館設置
- 昭和55年 10月 落成記念式典及びマイヨール作「三人の妖精」除幕式（4日）
- 昭和55年 10月 岩手県立博物館開館（5日）
- 昭和55年 10月 日本博物館協会、全国科学博物館協議会加盟
- 昭和56年 3月 第1回岩手県立博物館協議会開催
- 昭和59年 10月 皇太子同妃両殿下ご来館（14日）
- 昭和60年 4月 財団法人岩手県文化振興事業団発足、岩手県立博物館管理運営を委託
- 昭和62年 5月 入館者100万人を突破（1日）
- 平成元年 3月 地質総合展示室改修完了
- 平成2年 5月 岩手県立博物館友の会設立（1日）
- 平成2年 7月 歴史古代展示室改修完了
- 平成2年 10月 開館10周年記念特別企画展「北の鉄文化」開催
- 平成3年 2月 入館者、県民人口を超える（14日）
- 平成3年 11月 入館者、150万人を達成（1日）
- 平成3年 12月 歴史中世展示室改修完了
- 平成4年 1月 コンパニオンを「解説員」に改称
- 平成5年 2月 秋篠宮同妃両殿下ご来館（5日）
- 平成5年 3月 現勢展示室イヌワシの山改修完了
- 平成5年 10月 国民文化祭いわて'93記念展「じょうもん発信」開催
- 平成5年 10月 皇太子殿下ご夫妻ご来館（10日）
- 平成6年 1月 「中尊寺黄金秘宝展」開催
- 平成6年 12月 屋上改修工事完了
- 平成8年 4月 重要文化財勸告出品館となる

平成 9 年 12 月 文化振興事業団 10 周年記念「柳之御所遺跡発掘調査展」開催
 平成 9 年 2 月 重要文化財公開承認施設となる
 平成 9 年 7 月 入館者、200 万人を達成 (16 日)
 平成 10 年 1 月 ハイビジョン室設置
 平成 12 年 3 月 収蔵庫等改修工事完了
 平成 12 年 3 月 企画展第 50 回目を迎える (「岩手の経塚」)
 平成 12 年 10 月 開館 20 周年記念特別企画展「北の馬文化」開催
 平成 13 年 5 月 近代美術展示閉鎖 (美術館へ移管)
 平成 14 年 3 月 マメンキサウルス (モシリユウ) 全身骨格複製標本展示
 平成 18 年 4 月 施設等の管理部門に「指定管理者制度」導入。(財)岩手県文化振興事業団が指定管理者となる
 平成 21 年 1 月 入館者、250 万人を達成 (10 日)
 平成 21 年 4 月 (財)岩手県文化振興事業団が 2 期目の指定管理者となる
 平成 22 年 1 月 外部階段改修工事完了
 平成 22 年 10 月 開館 30 周年記念特別企画展「いわての漆」開催
 平成 23 年 3 月 美化事業完了
 平成 24 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が 3 期目の指定管理者となる
 平成 24 年 12 月 秋篠宮同妃両殿下ご来館 (20 日)
 平成 25 年 1 月 岩手県議会商工文教委員会現地調査(22 日)
 平成 26 年 3 月 文部科学大臣から科学研究費補助金規程に規定する研究機関に指定される(20 日)
 平成 26 年 3 月 仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設設置 (建築面積 115.22 m²、延床面積 230.44 m²)
 平成 26 年 5 月 仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設開所 (可視化により一般公開)
 平成 27 年 1 月 岩手県議会商工文教委員会現地調査(14 日)
 平成 27 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が 4 期目の指定管理者となる
 平成 28 年 1 月 文化庁巡回展「発掘された日本列島 2015」、特別展「海に生きた歴史」開催
 平成 29 年 3 月 中央監視システム更新工事完了
 平成 29 年 3 月 旧佐々木家・旧藤野家住宅保存修理 (屋根) 工事完了
 平成 29 年 3 月 正面入口案内看板設置
 平成 29 年 8 月 ボイラー更新工事完了
 平成 30 年 2 月 岩手山眺望確保のための樹木剪定
 平成 30 年 3 月 昇降機改修工事完了
 平成 30 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が 5 期目の指定管理者となる
 平成 30 年 12 月 マメンキサウルス補修工事完了
 平成 31 年 1 月 不活性ガス消火設備更新工事完了
 令和 元年 12 月 非常用発電機更新工事完了
 令和 2 年 3 月 冷却塔更新工事完了
 令和 2 年 10 月 開館 40 周年を迎える (新型コロナウイルス感染拡大により記念特別展延期)
 令和 3 年 6 月 県立博物館 開館 40 周年記念特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」開催
 (6 月 12 日～8 月 15 日)
 令和 3 年 11 月 入館者、300 万人を達成 (13 日)
 令和 4 年 2 月 直流電源装置更新工事完了

2 施設の概要

(1) 建築の概要

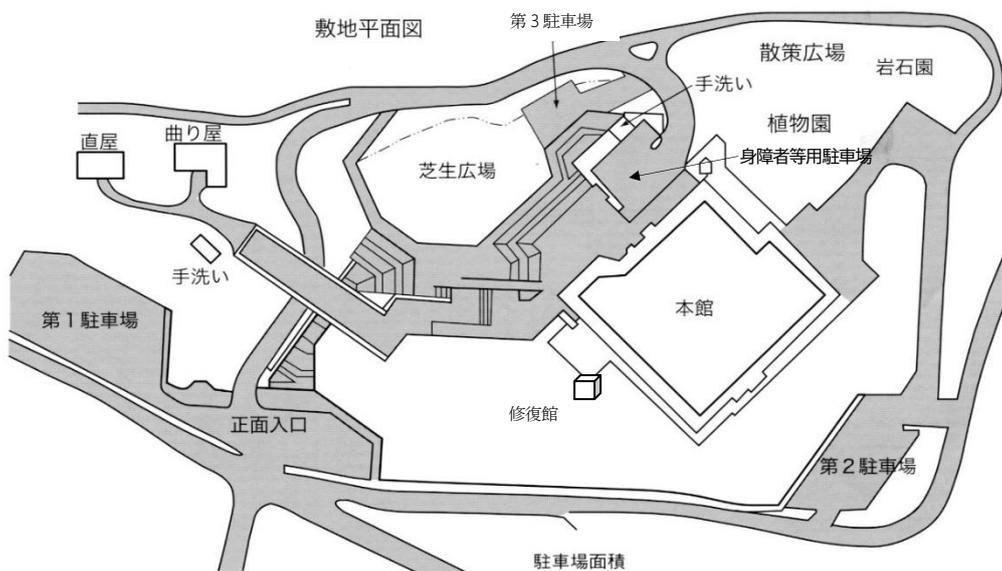
〈総工事費〉 44億3,000万円

〈工期〉 ●着工 昭和53年3月15日 ●完成 昭和55年9月30日

〈建築概要〉 ●敷地面積 53,112.78㎡ ●建築面積 5,192㎡ ●延床面積 12,051.56㎡

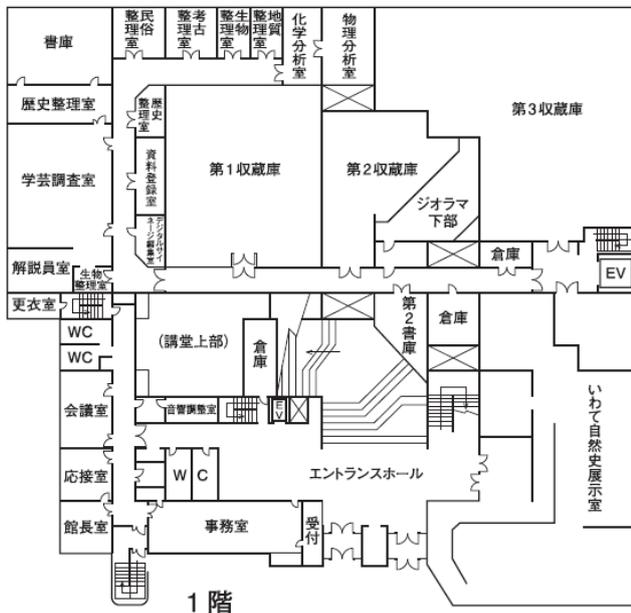
※仮施設の面積等は含んでいない

(2) 配置図・展示室等平面図

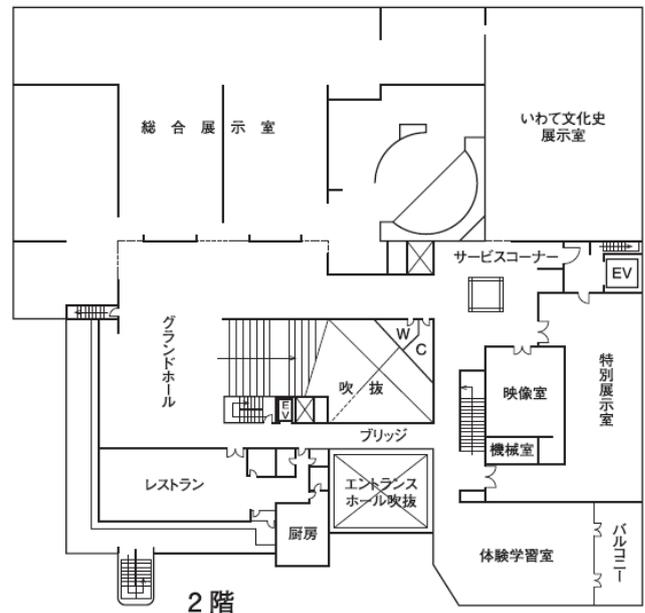


駐車场面積

第1駐車場	2,804.4㎡	普通車62台
第2駐車場	1,251㎡	普通車12台、大型バス14台
第3駐車場	410.9㎡	普通車8台
身障者等用駐車場	93.5㎡	普通車5台



1階



2階



(3) 各室面積表

部屋名	面積 (㎡)
空調機械室	766.09
発電電気室	50.26
蓄電気室	9.71
ボイラー室	64.36
中央監視室	64.67
電話交換機室	8.89
電気室	142.54
ハロンポンペ室	37.86
消火栓ポンプ室	17.14
エレベーター機械室	20.52
第4収蔵庫	464.48
第5収蔵庫(液浸)	39.72
エレベーターシャフト	18.24
車庫	38.33
器具庫	25.24
消毒室	37.86
工作室	35.90
暗室	11.91
作業室	4.06
写真室	52.94
荷受場	79.63
荷解場	113.75
用務員室	26.39
守衛室	18.00
宿直室	21.17
湯沸室	3.81
浴室	5.71
便所	6.75
タラップ室	6.75
フォークリフト置場	12.75
廊下・階段・その他	280.32
小計	2,485.75
いす保管庫	98.61
外部用倉庫	20.38
教室	81.07
準備室	22.83
実技室	115.66
便所	29.02
講堂	164.09
効果室	14.50
ホワイエ	68.29
タラップ室	5.14
廊下・その他	232.78
小計	852.37

部屋名	面積 (㎡)
いわて自然史展示室	729.27
パネル倉庫	35.56
風除室	3.21
受付	18.65
印刷室	8.50
事務室	116.01
館長室	43.33
応接室	41.40
会議室	64.23
倉庫	14.25
身障者便所	6.47
No.3 便所	43.85
No.2 便所	39.67
音響調整室	20.84
同上前室	10.28
予備室	32.07
ロッカー室	10.45
女子更衣室	20.55
学芸調査室	236.04
歴史整理室	59.21
書庫	113.36
民俗整理室	35.84
考古整理室	35.84
生物整理室	25.10
地質整理室	25.20
歴史整理室	35.43
第1資料登録室	21.90
化学分析室	41.66
物理分析室	53.94
デジタルサイネージ編集室	20.72
第1収蔵庫	365.15
第2収蔵庫	188.25
第3収蔵庫	608.38
倉庫	9.18
第2書庫	42.69
ジオラマ下部	119.13
グランドホール	133.19
ロビー1	101.79
ロビー2	35.84
階段・廊下・その他	888.10
小計	4,454.53

部屋名	面積 (㎡)
総合展示室	1,553.85
県土の誕生	102.35
いわての夜明け	187.60
いわてのあゆみ	743.20
庶民のくらし	210.00
いわての今	310.70
いわて文化史展示室	489.07
ミニプラザ(1)	210.42
ミニプラザ(2)	129.50
特別展示室	292.20
映像室	124.00
No.4 便所	30.11
体験学習室	217.17
厨房	54.93
休憩室	160.08
休憩室便所	10.98
厨房事務室	10.24
厨房便所	4.16
食品庫	6.90
グランドホール	213.66
階段・廊下・その他	618.20
小計	4,125.47
塔屋	133.44
合計	12,051.56

- 展示面積 3,404.31 ㎡
- 収蔵庫面積 1665.98 ㎡
- 学芸調査室 236.04 ㎡
- 研究室 274.91 ㎡

3 博物館協議会

岩手県立博物館協議会は、館長の諮問に応じ、博物館の運営に関し調査審議するとともに、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。令和3年度の開催期日・協議事項は次のとおりである。

- 期日：令和4年1月26日（水）
- 場所：岩手県立博物館講堂
- 報告・協議事項
 - ・ 令和2年度 岩手県立博物館協議会の意見等への対応状況について
 - ・ 令和3年度 岩手県立博物館 事業実施状況について
 - ・ 令和4年度 岩手県立博物館 事業計画(案)について

岩手県立博物館協議会委員名簿（任期 令和5年6月22日まで）

氏名	職	分野
阿部 真一	盛岡市立緑が丘小学校長	学校教育 県小学校長会
小野寺 哲男	盛岡市立下橋中学校長	学校教育 県中学校長会
上 柿 剛	岩手県立盛岡第四高等学校長	学校教育 県高等学校長協会
松田 恵美子	岩手県青年団体協議会会長	社会教育
大 坊 邦子	特定非営利法人岩手県地域婦人団体協議会理事	社会教育
下川原 章勝	一般社団法人岩手県PTA連合会副会長	社会教育
福 島 茜	もりおか歴史文化館学芸員	学識経験者 県博物館等連絡協議会
星 俊也	八幡平市教育委員会教育長	学識経験者 県市町村教育委員会協議会
細越 千絵子	岩手県立博物館友の会会員	学識経験者 県立博物館友の会
黒 田 大 介	(株)岩手日報社編集局学芸部次長	学識経験者
松 政 正 俊	岩手医科大学教授	学識経験者
菅 野 文 夫	岩手大学名誉教授	学識経験者
山 本 玲 子	啄木研究家（元石川啄木記念館学芸員）	学識経験者
石 川 京 子	盛岡ふるさとガイドの会会員	学識経験者
丸 山 ちはや	盛岡大学短期大学部助教	学識経験者

（令和4年3月31日現在）

4 予算

(単位:千円)

項目	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
管理運営費	170,462							
総務企画調整費	5,243	3,759	4,172	3,945	3,782	5,317	4,471	3,984
展示活動費	11,673	10,074	7,090	10,826	8,115	3,949	7,443	6,619
資料収集保管活動費	40,319	29,894	27,599	21,846	21,983	22,817	20,911	21,109
調査研究活動費	7,273	7,326	7,585	7,276	7,304	7,556	6,921	6,703
教育普及活動費	1,987	1,633	1,683	1,798	1,558	1,616	1,664	1,770
業務管理費		37,699	34,282	34,155	33,251	32,439	32,122	32,529
指定管理者事業費		127,861	130,034	129,269	132,832	131,395	132,600	130,502
計	236,957	218,246	212,445	209,115	208,825	205,089	206,132	203,216

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
総務企画調整費	3,807	3,442	3,882	3,401	3,380	3,328	3,152	4,082
展示活動費	6,811	7,589	9,686	11,321	8,262	6,198	10,095	16,253
資料収集保管活動費	21,446	19,911	20,086	18,304	18,951	18,342	31,125	37,095
調査研究活動費	6,611	5,956	4,986	3,438	3,428	3,460	3,339	3,936
教育普及活動費	1,515	1,295	1,275	444	454	507	493	471
業務管理費	33,880	35,950	36,277	34,449	34,735	32,085	41,130	43,448
指定管理者事業費	130,401	133,050	132,345	134,334	134,146	136,914	138,015	139,213
計	204,471	207,193	208,537	205,691	203,356	200,834	227,349	244,498

項目	令和3年度
総務企画調整費	4,099
展示活動費	7,416
資料収集保管活動費	16,925
調査研究活動費	3,450
教育普及活動費	460
業務管理費	43,730
指定管理者事業費	137,271
計	213,351

- ※ 1 職員の人件費を除く。
- 2 予算は、いずれも各年度の当初予算であるが、平成27年度は特別展「近代へのとびら」展、平成28年度は特別展「スポーツ博覧会いわて」展開催に係る特別予算を加算した。
- 3 総務企画調整は平成17年度から項目を起こした。
- 4 平成18年度から、指定管理者制度が導入されたことにより業務管理費・指定管理者事業費の項目を起こした。
- 5 令和2年度・3年度予算のうち展示活動費には、40周年特別展の開催経費全体が含まれる。(当該事業は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2年度から3年度に延期となった。)

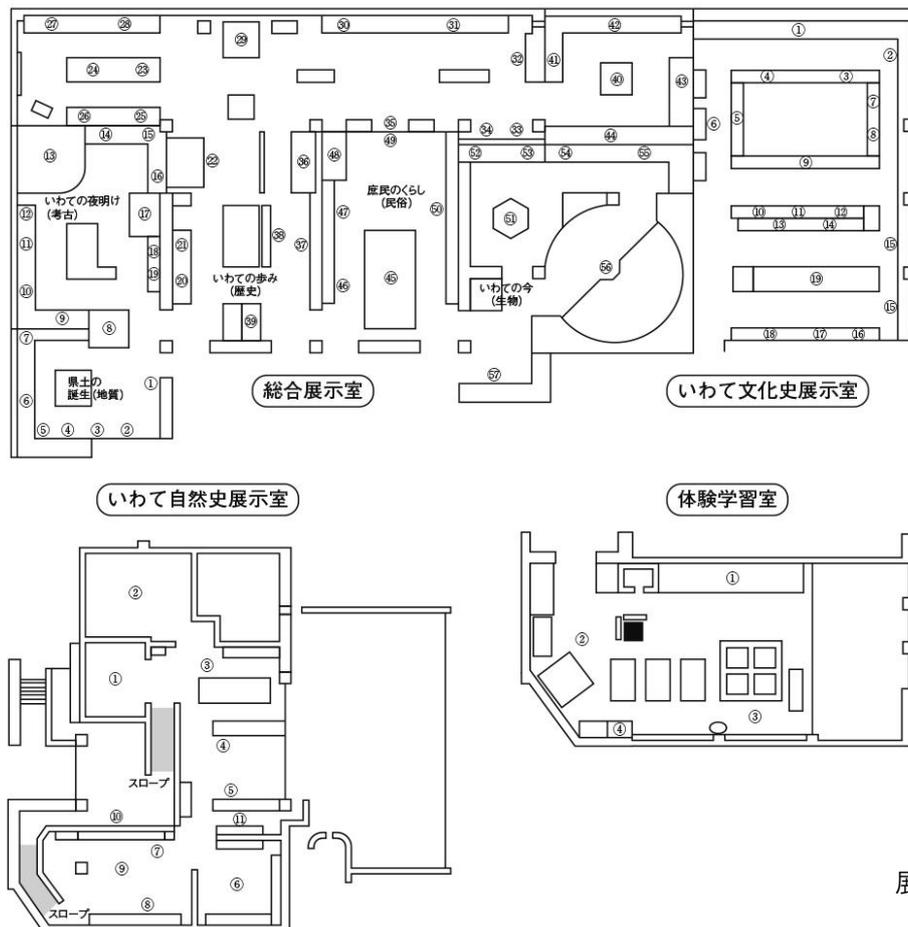
5 事業の概要

(1) 展示活動

開館以来、県民の皆様からの寄贈資料や学芸員が自ら収集した資料をはじめ、入手困難なものについては購入等による資料収集活動を行ってきたが、令和3年度末（2022年3月31日）までに収蔵されている博物館資料の総点数は、347,298点に及んでいる（表5(4)-1）。その中でも、常設で展示されるものはわずか2,000点に過ぎず、この他の資料は5つの収蔵庫に保管されたままの状態となっている。これらについては、季節や年中行事にあわせた展示替え、トピック展示やコラム展示の際に活用し、より多くの県民の目に触れることが出来るよう心がけている（表5(1)-1）。

総合展示室では、地質・考古・歴史・民俗・生物の各部門、いわて文化史展示室には民俗・歴史・考古に関連する人文系資料、いわて自然史展示室には地質・生物など、自然史に関する専門的な資料が展示されている。この他に、2階グランドホールやミニプラザでトピック展示を行うなど、展示の機会を増やすよう努力している。

令和3年度は、一年遅れとなったが開館40周年記念特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」を開催することができた。その他、考古部門「縄文いわての環状列石」、同「教科書と違う岩手の歴史—岩手の弥生～古墳時代—」、歴史部門「金田一家収蔵資料展—金田一勝定を中心に—」の3本のテーマ展を順次開催した（表5(1)-2）。令和3年度後半は新型コロナウイルス感染症も縮小傾向にあったが、それ以外の時期を中心に、会期の短縮等、前年度ほどではないが影響は続いた（令和3年8月16日～9月17日まで臨時休館）。



展示室配置図

ア. 展示構成

エントランスホール

- ・兜跋毘沙門天立像
- ・モシリユウとマメンキサウルス
- ・岩手山の眺望

総合展示室

● 県土の誕生(地質)

- 1 県土のおいたち
 - (1) 東北地方の地下断面
 - (2) 気仙隕石
 - (3) 岩手県の地質と岩石
- 2 いわての古生物相の変遷
 - (4) 生命史以前
 - (5) 古生代の生きもの
 - (6) 中生代の生きもの
 - (7) 古第三紀～新第三紀の生きもの
 - (8) 鮮新世～第四紀の生きもの

● いわての夜明け(考古)

- 3 旧石器時代
 - (9) 氷河期の人びと
- 4 土器の時代
 - (10) 岩手の縄文土器
 - (11) 貝塚の形成
 - (12) 埋葬と装飾品
 - (13) 縄文人の暮らし
 - (14) 大洞文化

- 5 稲作を始めた時代
 - (15) 弥生文化と岩手

- 6 古墳を築いた時代
 - (16) 拓かれる北上平野
 - (17) 群集墳
 - (18) 集落と住居
 - (19) 生産技術の変革

● いわての歩み(歴史)

- 7 蝦夷から奥州藤原氏へ(古代)
 - (20) 古代の城柵
 - (21) 安倍氏の台頭
 - (22) 奥州平泉とその文化
- 8 戦乱の時代とその文化(中世)
 - (23) 文治五年奥州合戦
 - (24) 豪族たちの動きと庶民
 - (25) 新しい仏教文化
 - (26) 九戸政実の乱
- 9 藩制時代の人々(近世)
 - (27) 藩政の確立
 - (28) 凶作と一揆
 - (29) 盛岡城と町づくり
 - (30) 産金と製鉄

- (31) 南部と馬
 - (32) 街道と舟運
 - (33) 藩学と寺子屋
 - (34) 先駆者たち
 - (35) 維新前夜
- 10 進む近代化(近代)
 - (36) 生活の洋風化
 - (37) 岩手県の誕生
 - (38) 明治時代から大正時代へ
 - (39) 太平洋戦争

- 11 古美術
 - (40) 鐺
 - (41) 絵画・工芸
 - (42) 刀剣
 - (43) 絵画・工芸
 - (44) 絵画

● 庶民の暮らし(民俗)

- 12 家の暮らし
 - (45) いろいろ
 - (46) 正月の行事
 - (47) 庶民の信仰
- 13 働く人びと
 - (48) 農村の人びと
 - (49) 漁村の人びと
 - (50) 山村の人びと

- 14 まつりと芸能

● いわての今(現勢・生物)

- 15 わたしたちの郷土いわて
 - (51) 岩手県地形模型
 - (52) 岩手の四季
 - (53) 県の鳥・木・花
- 16 恵まれた自然
 - (54) 岩手の風土
 - (55) 山や川の生き物
 - (56) イヌワシの山
 - (57) 豊かな海

いわて自然史展示室

- (1) 大地の中の小さな輝き
ー鉱物コレクションー
- (2) 地球史の中の岩手の自然
- (3) 海にもどって大進化
- (4) 海の哺乳類
- (5) 空に向かって大進化
- (6) 水辺の生きもの
- (7) 日本のキツツキと希少な鳥獣
- (8) 早池峰山の自然
- (9) 大空の覇者ワシ・タカの世界

- (10) 写真でみる岩手の自然
- (11) 東日本大震災と
被災文化財等救援活動

いわて文化史展示室

考古

- (1) 岩手の土器
- (2) 北上山系の洞穴遺跡
- (3) 岩手の石器と鉄器
- (4) 三陸の貝塚
- (5) 豊岡遺跡
- (6) 柳之御所遺跡

歴史

- (7) かたな・刀装具の世界～鐺～
- (8) かたな・刀装具の世界～鐺～
- (9) 利剛公と明子姫
- (10) かたな・刀装具の世界～鐺～
- (11) かたな・刀装具の世界～鐺～
- (12) かたな・刀装具の世界～鐺～

民俗

- (13) 森口多里コレクション
- (14) オシラサマ
絹と麻・いわての養蚕
- (15) いわての暮らし
- (16) いわての民芸
- (17) 郷土料理
- (18) 南部絵暦
- (19) むかしの暮らし大図鑑

体験学習室

- (1) 身につける
鎧、夜会服、野良着等
- (2) ためす
虫の鳴き声ボックス、機織等
- (3) あそぶ
かるた、板がえし等
- (4) よむ

屋外展示

民家

- ・直屋 旧藤野家住宅(重文)
奥州市江刺伊手御堂
- ・曲屋 旧佐々木家住宅(重文)
下閉伊郡岩泉町指畑

散策広場

- ・植物園
県内の植物等 345 種
- ・岩石園
火山岩、変成岩、堆積岩 49 種

イ. 常設展示の展示替え及び展示コーナー

長期間の展示による資料の劣化・退色防止、および季節や年中行事などにあわせた展示とするため、常設展示では不定期に展示替えを行っている。さらに、企画展やテーマ展に間接的に関わる資料や、夏休み・冬休みを主体として子供向けの資料をトピック展示した。

また、今年度は令和4年の干支である「寅」にちなんだトピック展「寅・虎・トラ」を企画し、考古・歴史・民俗・地質・生物全部門から関連する収蔵資料を出品した。

その他、利用者に親しまれる魅力的な常設展示の充実一分かりやすく、親しみやすい説明・解説等の工夫を図るため、総合展示室の一部にパネルを増設した。

表5(1)-1 令和3年度の主な展示替え・トピック展

No.	担当	展示場所	種別	テーマ	展示資料	期日
1	民俗 (近藤)	総合展示室 (民俗)	展示替え	五月人形	土人形ほか 27 点	4.6～5.19
2	歴史 (菅野)	総合展示室 (古美術)	展示替え		本堂蘭室筆「群鶴図屏風」1 点	4.7～
3	共通 (近藤)	グランドホール	トピック展	第1回写真コンテスト 「私の岩手山」応募作品展示	第1回写真コンテストの応募作品展示	4.20～5.30
4	共通 (鈴木)	いわて自然史展示室	トピック展	40年前(開館当時)の博物館の風景 1980～1981年のフィルムから	1980年～1981年に当館職員が撮影した博物館周辺の風景写真	4.20～6.27
5	共通 (近藤)	グランドホール	トピック展	第1回写真コンテスト 優秀作品展示会	第1回写真コンテストの優秀作品展示	6.19～8.22
6	文化財科学 (山崎)	いわて自然史展示室	展示替え	東日本大震災と被災文化財等救援活動	染織資料の再生活動(女子美術大学)パネル	6.29～
7	生物 (高橋)	いわて自然史展示室	展示替え		ニホンイヌワシの親子	7.6～
8	地質 (望月)	階段ホール及び総合展示室	展示替え		ティラノサウルスの歯(複製)ほか	7.8～
9	文化財科学 (山崎)	いわて自然史展示室	展示替え	東日本大震災と被災文化財等救援活動	被災土器の安定化処理(岩手県立博物館)パネル	7.13～
10	生物 (渡辺)	いわて自然史展示室	トピック展	岩手と世界のカブトムシ・クワガタムシ	岩手県産及び外国産カブトムシ・クワガタムシ標本	7.6～8.31
11	生物 (高橋)	総合展示室 (生物)	展示替え		森の中の夜行性の鳥類	8.7～
12	歴史 (菅野)	総合展示室 (歴史)	展示替え		卯花威紅羅紗地唐獅子牡丹文二枚胴具足	8.24～
13	地質 (望月)	総合展示室 (地質)	展示替え		ドレライトほか	9.18～
14	歴史 (菅野)	総合展示室 (歴史)	展示替え		銅造観音菩薩立像	9.18～9.28
15	民俗 (川向)	総合展示室 (民俗)	展示替え		大漁着、野良着	9.27～
16	生物 (高橋)	いわて自然史展示室	トピック展	博物館でくらす動物たち	本剥製、写真パネル	10.1～2.22
17	民俗 (川向)	いわて文化史展示室	展示替え	おしらさま	おしらさま、行事風景パネル	10.1～
18	民俗 (近藤)	いわて文化史展示室	展示替え	いわての暮らし	森口多里写真 coll.	10.1～3.7
19	歴史 (菅野)	いわて文化史展示室	展示替え	気仙三十三観音	写真パネル	10.1～
20	歴史 (目時)	いわて文化史展示室	トピック展	コロナ禍における祈りの造形	アマビエ図像(老松小学校児童制作)、南部鉄器製アマビエほか	10.1～

No.	担当	展示場所	種別	テーマ	展示資料	期日
21	考古 (米田)	ミニプラザ	トピック展	縄文時代前期-中期の大きなうつわ	北上市鳩岡崎遺跡出土土器	10.12~2.6
22	民俗 (川向)	総合展示室 (民俗)	展示替え	農村コーナー	わら人形ほか	10.20~12.19
23	民俗 (近藤)	ミニプラザ	トピック展	稲の収穫	唐箕、万石、箕などの脱穀・調整農具	10.26~12.19
24	民俗 (近藤)	いわて文化史展示室	展示替え	むかしのくらし大図鑑	照明器具	10.26~1.18
25	民俗 (木戸口)	グランドホール	トピック展	追悼 寂聴さん	瀬戸内寂聴氏関連資料	11.18~12.19
26	歴史 (工藤)	総合展示室 (古美術)	展示替え		川口月嶺筆「虎図」ほか	12.18~
27	共通 (渡辺)	ミニプラザ・グランドホール	トピック展	寅・虎・トラ	トラの剥製ほか、トラに関する考古、歴史、民俗、生物、地質資料	12.21~2.6
28	民俗 (川向)	総合展示室 (民俗)	トピック展	冬のあそび	竹スキーほか	12.21~2.6
29	民俗 (近藤)	いわて文化史展示室	展示替え	むかしのくらし大図鑑	あたたまるための道具	1.19~
30	歴史 (菅野)	総合展示室 (古美術)	展示替え		雛人形	1.28~
31	民俗 (近藤)	ミニプラザ	トピック展	おひなさま	花巻人形、くくり雛ほか	2.6~4.12
32	民俗 (木戸口)	ミニプラザ	トピック展	江戸時代の操り人形	操り人形、指遣い人形	2.10~3.26
33	生物 (高橋)	総合展示室 (生物)	展示替え		三陸の海鳥	2.11~
34	地質 (望月)	いわて自然史展示室	展示替え		クビナガリュウの腹肋骨ほか	2.13~
35	考古 (濱田)	いわて文化史展示室	トピック展	注ぎ口のついた土器	小田島コレクション	2.6~
36	歴史 (菅野)	総合展示室 (古美術)	展示替え	金田一コレクション	享保雛、狩野存信筆「桜之図」ほか	2.8~
37	民俗 (川向)	総合展示室 (民俗)	展示替え		大漁着、仕事着、夜着、まいるのほとけ	2.20~
38	生物 (鈴木)	いわて自然史展示室	トピック展	早池峰山でくらす動物たち	2020~21年に早池峰山でセンサーカメラを用いて撮影した写真	2.22~4.10
39	共通 (菅野)	グランドホール	トピック展	小林陵侑選手ジャンプスーツ	小林陵侑選手ジャンプスーツ	2.23~
40	民俗 (川向)	いわて文化史展示室	展示替え	いわての暮らし	森口多里写真 coll.	3.8~
41	民俗 (川向)	いわて文化史展示室	展示替え	郷土料理コーナー	笹まきとくるみみそつけたんぼのレプリカ増設	3.11~
42	地質 (望月)	総合展示室及びいわて自然史展示室ほか	展示替え		ムカシナミガイ、植物の球果ほか	3.11~
43	地質 (望月)	いわて自然史展示室(地質)	展示替え		アナバキディスカス、ディプロミスタス	3.25~

ウ. 特別展示の概要

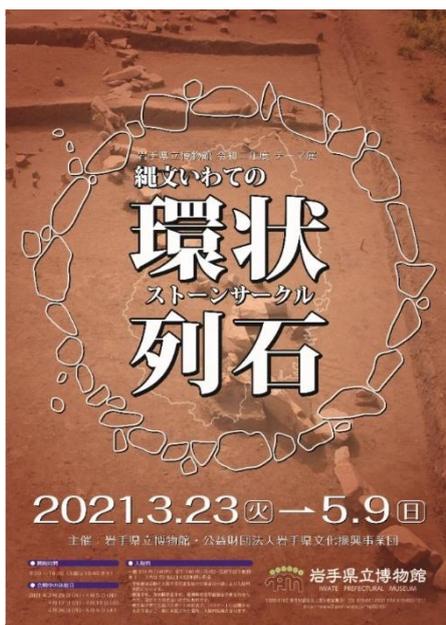
今年度もコロナ禍であったが、予定どおり下記の特別展（開館40周年展）1本、移動展（同左）1本、テーマ展3本を実施することができた（表5(1)-2）。

ただし、夏季に開催された開館40周年記念特別展は、県独自の緊急事態宣言により一時休館となったため会期が当初予定より一週間短くなっている。なお、展示解説会は感染リスク軽減のため、いずれも定員を15名以内とした。また、関連講座も人数制限を行った。

表5(1)-2 令和3年度の特別展示

種別	名称	会期	会期中の来場者数
テーマ展	「縄文いわての環状列石」	令和3年3月23日(火) ～5月9日(日)	4,183
特別展	開館40周年記念特別展 「みる！しる！わかる！三陸再発見」	令和3年6月12日(土) ～8月15日(日)	8,103
移動展	「みる！しる！わかる！三陸再発見 in 宮古」	令和3年9月25日(土) ～10月24日(日)	653
テーマ展	「教科書と違う岩手の歴史ー岩手の弥生ー古墳時代ー」	令和3年11月23日(火・祝) ～令和4年2月6日(日)	5,695
テーマ展	「金田一家収蔵資料展ー金田一勝定を中心にー」	令和4年3月5日(土) ～5月8日(日)	1,887 (3/31時点)
その他	岩手県民共済 Presents「いわて大恐竜展ーティラノサウルスの進化の謎ー」 於、岩手県民会館(当館協力)	令和4年3月18日(金) ～5月8日(日)	9,352 (3/31時点)

(ア) テーマ展「縄文いわての環状列石」



縄文時代後期初頭から前葉（今から3,700～4,000年前）にかけて、北海道・北東北につくられた環状列石。太平洋岸には存在しないとされていた環状列石が、ここ岩手の沿岸部にも確認された。平成26・27年度の2ヵ年にわたり実施された洋野町「西平内I遺跡」の発掘調査と、その後28年度に洋野町教育委員会が行ったボーリング調査の成果を交えながら、岩手の環状列石、配石遺構にスポットをあてた展示を行い、ストーンサークルの謎と今に引き継がれる精神世界・精神文化について考える機会とした。

会期：令和3年3月23日(火)～5月9日(日)
実開催日数42日

会場：特別展示室
会期中の来場者数：4,183名

〔展示内容〕

プロローグ 環状列石とは

第1章 縄文いわての環状列石

- ・太平洋岸に唯一 ～西平内I遺跡～
- ・西に谷地山を望む ～湯舟沢環状列石～
- ・上下が接合した土偶 ～松尾釜石環状列石～

第2章 石にまつわる岩手の縄文遺跡

第3章 石に込められた願いー近年の調査成果と館蔵品からー

エピローグ 今に伝わる石の文化

〔関連事業〕

(1) 関連講座（県博日曜講座）

- ① 令和3年4月11日（日） 13:30～15:00 講堂 参加者 64名
演題：「西平内I遺跡の調査でわかったこと」
講師：千田 政博 氏（洋野町教育委員会）・濱田 宏（展覧会担当学芸員）
- ② 令和3年4月25日（日） 13:30～15:00 講堂 参加者 71名
演題：「北東北のストーンサークル」
講師：熊谷 常正 氏（盛岡大学文学部 名誉教授）

(2) 展示解説会（計2回） 各回 14:30～15:30 特別展示室

- ① 令和3年4月17日（土） 参加者 13名
- ② 令和3年5月2日（日） 参加者 15名 合計 28名

(3) 環状列石模擬体験（ストーンサークル・ゲーム）

令和3年4月18日（日） 13:30～16:00 参加者 15名

〔印刷物〕

ポスター B2判、カラー印刷、500部
リーフレット A4判、両面カラー印刷、10,000部

(イ) 開館40周年記念特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」



三陸とはどのような地域であるのかを、自然史・文化史の観点から多角的に紹介し、三陸の多様かつ奥深い魅力を示しつつ旅へと誘う展覧会とした。

また東日本大震災から10年を経過するにあたり、月日とともに薄れがちな防災・減災意識を再び高める契機とした。

会 期：令和3年6月12日（土）～8月15日（日）
実開催日数 58日

（※新型コロナウイルス感染症岩手緊急事態宣言のため8月16日から臨時休館）

会 場：特別展示室・いわて文化史展示室・ミニプラザ
会期中の来場者数：8,103名

〔展示内容〕

第1章 大地の歴史

三陸産出の古生物化石、カンブリア紀・オルドビス紀の岩石、深海魚の液浸標本、ウミツバメ類の剥製、三陸海岸・海底地形立体模型（製作）など。

第2章 自然の恵み

巻貝形土器、閉伊街道図、漁具類聚（県指定）、主要水産魚種標本、琥珀、鉄鉱石など。

第3章 災害とくらし

災害史年表、津波堆積物剥ぎ取り標本（野田村）、「定留」（吉田家文書・県指定）、「雑書」（県指定）、明治三陸津波写真乾板など。

第4章 信仰とまつり

長谷寺十一面観音菩薩立像（大船渡市・県指定）、大漁バンテン、船絵馬、スネカ関連資料など。

第5章 三陸の旅

「蓑虫山人絵日記」、富本繁太夫『筆満可勢』（宮城県立図書館蔵）、吉田初三郎「岩手県観光鳥瞰図原図」など。

〔関連事業〕

（1）関連講座（県博日曜講座）

- ① 令和3年6月13日（日） 13:30～15:00 講堂 参加者 32名
演題：「三陸のウミガメは寒冷地仕様？－北限のウミガメ研究でわかったこと－」
講師：木下 千尋 氏（東京大学大気海洋研究所 特別研究員）
- ② 令和3年6月27日（日） 13:30～15:00 講堂 参加者 49名
演題：「三陸海岸にサンゴ礁があった！ 豊かな生物に彩られた1億年前の海」
講師：大路 樹生 氏（名古屋大学博物館 教授）
- ③ 令和3年7月11日（日） 13:30～15:00 講堂 参加者 51名
演題：「三陸の400年～宮古港を中心に～」
講師：假屋雄一郎 氏（宮古市教育委員会事務局・文化課 宮古市史編さん室室長）
- ④ 令和3年7月25日（日） 13:30～15:00 講堂 参加者 26名
演題：「津波浸水域の水辺の希少植物」
講師：島田 直明 氏（岩手県立大学総合政策学部 准教授）
- ⑤ 令和3年8月8日（日） この回のみ 13:30～15:30 講堂 参加者 55名
演題：「三陸の鮭のふしぎにせまる－鮭の生態と民俗－」
講師：北川 貴士 氏（東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター 准教授）
吉村 健司 氏（同 特任研究員）
- ⑥ 令和3年8月22日（日） 13:30～15:00 講堂 ※臨時休館のため中止
演題：「縄文の逸品『巻貝形土器』からみえてくる三陸の豊かさ」
講師：長谷川 真 氏（宮古市崎山貝塚縄文の森ミュージアム 主査）

（2）展示解説会（計5回） 各回 14:30～15:30 ※8月21日の回は臨時休館のため中止

- ① 令和3年6月20日（日） 参加者 3名
- ② 令和3年7月4日（日） 参加者 10名
- ③ 令和3年7月18日（日） 参加者 12名
- ④ 令和3年8月1日（日） 参加者 10名 合計 35名
- ⑤ 令和3年8月21日（土） ※臨時休館のため中止

（3）高校生による郷土芸能特別公演 各回 13:30～

- ① 令和3年7月24日（土） 岩手県立釜石商工高等学校「商工虎舞」
岩手県立宮古水産高等学校「宮水太鼓」 参加者 68名
- ② 令和3年7月31日（土） 岩手県立岩泉高等学校「中野七頭舞」
岩手県立大船渡東高等学校「太鼓」 参加者 76名

〔印刷物〕

ポスター B2、カラー印刷 500部

リーフレット A4、両面カラー印刷 30,000部

(ウ) 移動展「みる！しる！わかる！三陸再発見 in 宮古」

特別展の内容から宮古市に関する資料を中心に抜粋再構成し、宮古市において移動展を開催した。

会期：令和3年9月25日（土）～10月24日（日） 実開催日数 26 日間

会場：岩手県立水産科学館（宮古市）

会期中の来場者数：653 名

〔展示内容〕

第1章 大地の歴史

花崗岩類、壺の沢変成岩、三陸海岸・海底地形立体模型（製作）、宮古層群アンモナイト化石群、野田層群植物化石群など。

第2章 自然の恵み

ハマベゾウムシ（陸前高田市立博物館蔵）、クロコシジロウミツバメ、石灰岩（住田町）、灰礬柘榴石（住田町 松森鉱山）、砂鉄など。

第3章 災害とくらし

錦絵「明治丙申三陸大海嘯之實況」、明治三陸津波写真乾板など。

第4章 信仰とまつり

大漁バンテン（岩手県立水産科学館蔵）、「寄り鯨」の骨（個人蔵）、又兵衛まつりの人形など。

第5章 三陸の旅

芸妓たちのアルバム収録写真（みやこわがまち編集部）、錦絵「岩手県陸中宮古浦景」など。

〔関連事業〕

(1) 展示解説会

① 令和3年9月25日（土）10:00～10:30 参加者 4 名

② 令和3年10月24日（日）14:00～14:30 参加者 10 名 合計 14 名

(エ) テーマ展「教科書と違う岩手の歴史 —岩手の弥生～古墳時代—」



教科書では、弥生時代に本格的な稲作が始まり、長く保存できるという米の特長によって社会に格差が生じ、やがて権力の象徴として巨大な墓を作る古墳時代に移行したと説明されている。

しかし、岩手県には、明確な弥生時代の水田はまだ確認されておらず、最北の前方後円墳が一つ奥州市で発見されているだけである。ヤマセが吹き夏の高温が保証されない岩手の地では、稲作中心の時代は不利であった。当時の最先端の技術が伝わる朝鮮半島から最も遠いという地理的位置も不利であった。

さらに、弥生時代後半～古墳時代は、「古墳寒冷期」と呼ばれる地球規模の寒冷期で、このことがゲルマン民族の大移動や後漢王朝の滅亡などの要因になったと言われる。東北地方北部の大部分では稲作をあきらめて狩猟採集で暮らし、寒冷気候にうまく適応していた北海道との往来が盛んになった。その歴史がアイヌ語地名として残された可能性がある。

あまり知られていない教科書と違う岩手の弥生～古墳時代を紹介する。

会 期：令和3年11月23日（火・祝）～令和4年2月6日（日） 実開催日数76日

会 場：特別展示室

会期中の来場者数：5,695名

〔展示内容〕

プロローグー問題提起ー

第1章 教科書に書かれている弥生～古墳時代

第2章 縄文時代の岩手

第3章 弥生時代前半の岩手

第4章 弥生時代後半の岩手

第5章 弥生時代終末～古墳時代初頭の岩手

第6章 古墳時代の岩手

第7章 その後の岩手

1 7世紀（飛鳥時代）の岩手

2 エミシから奥州藤原氏の時代へ

3 その後の岩手

岩手の弥生時代人ーアバちゃんー

続縄文文化ー北海道の弥生～古墳時代ー

東北北部は、続縄文文化か弥生文化か

〔関連事業〕

(1) 文化講演会

令和3年11月27日（土） 13:30～15:00 講堂 参加者52名

演題：「卑弥呼の時代ーその頃の岩手ー」

講師：石川日出志 氏（明治大学文学部 教授）

(2) 考古学セミナー（講演会と現地見学会の二本立て）

① 講演会

令和3年10月16日（土） 13:30～15:00 講堂 参加者18名

演題：「遺跡から見た盛岡の弥生～古墳時代」

講師：津嶋 知弘 氏（盛岡市遺跡の学び館）

② 現地見学会「中津川流域の弥生～古墳時代遺跡を歩く」 参加者13名

令和3年10月23日（土） 9:45～12:15

当該期の著名な遺跡の一つ、盛岡市永福寺山遺跡を中心に、近接する同時期の堰根遺跡、薬師社脇遺跡まで歩く遠足会を実施した（のべ2km弱）。現地集合（山岸駅）、現地解散（駐車場なし）。

(3) 県博日曜講座（計4回） 13:30～15:00 講堂

① 令和3年12月12日（日） 参加者76名

演題：「教科書と違う岩手の弥生時代」

講師：金子 昭彦（当館学芸員）

② 令和3年12月26日（日） 参加者50名

演題：「北と南からみた岩手の古墳時代」

講師：井上 雅孝 氏（滝沢市教育委員会）

③ 令和4年1月9日（日） 参加者74名

演題：「角塚古墳はなぜ作られたのか？ー古墳文化北進の背景ー」

講師：高木 晃 氏（（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）

④ 令和4年1月23日(日) 参加者62名

演題:「教科書に載っていない! 古墳~飛鳥時代における東北北部の産物~琥珀・皮革・海産物から探る交流史~」

講師:米田 寛(当館学芸員)

※北上川水源地域セミナーを兼ねる

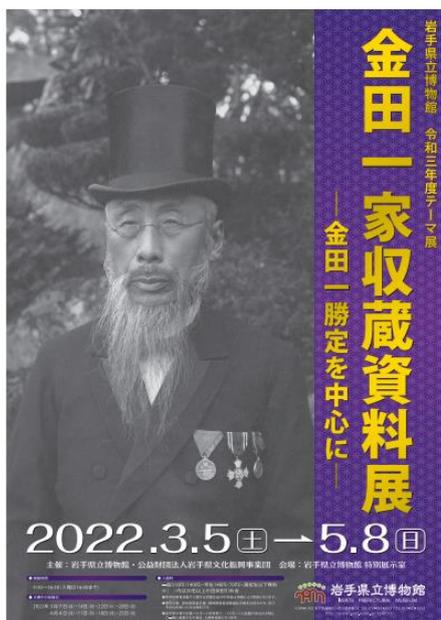
(4) 展示解説会 各回14:30~15:30

① 令和3年11月23日(火・祝) 参加者16名

② 令和3年12月25日(土) 参加者4名

③ 令和4年1月16日(日) 参加者2名 合計22名

(オ) テーマ展「金田一家収蔵資料展—金田一勝定を中心に—」



平成14年度から金田一家(金田一駐車場)より資料寄贈していただき、現在まで1392点を登録してきた。

金田一家は盛岡銀行(現在の岩手銀行赤レンガ館)、岩手軽便鉄道を創業した金田一勝定、その娘婿で花巻温泉の創業など県内35事業の役職に就いた金田一国土を輩出した名家である。

今回のテーマ展で博物館活動の根幹である資料収集・調査研究の成果を幅広く公表した。

会期:令和4年3月5日(土)~5月8日(日)
実公開日数58日

会場:特別展示室

会期中の来場者数:1,887名/23日間

(令和4年3月31日時点)

[展示内容]

第1章 金田一勝定の業績(展示資料75点)

金田一勝定肖像写真、フロックコート、当選証書15点(県議会議員、盛岡市議会議員等)、金田一勝定への辞令・委嘱状11点(日本赤十字社等)、金田一勝定への感謝状45点(日本赤十字社、岩手県教育会、岩手公園費寄付、明治神宮奉賛会など)

第2章 実業家 勝定(展示資料24点)

金穀出納帳(出金六十銭、京助へ御年玉の菓子代)、大福帳(二高時代の京助への学資送金など)、算盤(金田一勝定の名入り)、盃(盛岡銀行など)

第3章 勝定を偲ぶ(7点)

金田一勝定葬儀目録(原敬など)、弔文4点(大蔵大臣高橋是清、渋沢栄一、山屋他人など)、弔慰者芳名録(原敬・高橋是清・渋沢栄一)

第4章 金田一家秘蔵写真(15点)

金田一勝定6点、金田一国土9点

第5章 勝定の甥 金田一京助(3点)

金田一京助作文「各々汝が志をいへ」、「ク」(習字断簡)、手紙(封書)

[関連事業]

(1) 県博日曜講座 (計2回) 13:30~15:00 講堂

① 令和4年3月13日(日) 参加者44名
演題:「世界の中の岩手—金田—国土の時代—」
講師:工藤 健(当館学芸員)

② 令和4年3月27日(日) 参加者55名
演題:「金田—勝定と国土が現在に残したもの」
講師:菅野 誠喜(当館学芸員)

(2) 展示解説会 (計2回) 14:30~15:30 特別展示室

① 令和4年3月5日(土) 参加者12名
② 令和4年3月19日(土) 参加者3名 合計15名

〔印刷物〕

ポスター B2判、カラー印刷、500部

リーフレット A4判、両面カラー印刷、10,000部

(カ) 岩手県民共済 Presents いわて大恐竜展—ティラノサウルスの進化の謎— (当館協力)

恐竜の中でも特に人気の高いティラノサウルスのなかまにスポットをあて、ティラノサウルス類の起源と進化について実物化石標本や全身復元骨格などを用いて解説し、最新の研究成果から明らかになった生態を紹介する展示である。当館からは、岩手県内の中生代白亜紀の地層から産出した多様な生物化石標本のほか、国内初の恐竜化石であるモシリユウの上腕骨(複製標本)や久慈市で見つかった竜脚形類恐竜の歯の化石(複製標本)など約30点を貸し出し、岩手の恐竜や化石が見つかった地層について理解を深めるコーナー(第8章)を作成した。

主 催:テレビ岩手、読売新聞社

協 力:岩手県立博物館、久慈琥珀博物館

会 期:令和4年3月18日(金)~5月8日(日) 実公開日数50日

会 場:岩手県民会館 展示室

会期中の来場者数:9,352名(令和4年3月31日時点)

〔展示内容〕

第1章 プロローグ~地球生命史で恐竜時代を知ろう!~

第2章 恐竜誕生前夜ワールド~恐竜時代以前の世界を知ろう!~

第3章 三畳紀ワールド~恐竜の誕生を知ろう!~

第4章 ジュラ紀ワールド1~恐竜巨大化を知ろう!~

第5章 ジュラ紀ワールド2~ティラノサウルス類の起源を知ろう!~

第6章 白亜紀ワールド1~羽毛をもつティラノサウルス類を知ろう!~

第7章 白亜紀ワールド2~最強の肉食恐竜ティラノサウルスを知ろう!~

第8章 エピローグ~岩手県の恐竜を知ろう!~

(2) 教育普及活動

令和3年度も前年度と同様に新型コロナウイルス感染症対応に追われながら、教育普及活動として33件の事業を行った。中止した事業は、「ゴールデンウィークスペシャルイベント」と「ヒストリックカー&クラシックカーミーティング in 岩手県立博物館」のみである。

小中学校の長期休業中の子供向け展示解説会（「夏・冬・春休みスペシャル ワクワク！こどもツアー」）は、冬休み期間中は実施できたが、夏期は「夏休みスペシャル ワークシート」（開館40周年記念特別展クイズシート）に代替した。また、春期は若年層を中心とした感染拡大により中止せざるを得なかった。「博物館まつり」は、規模を縮小して6つの代替事業を分散開催した。5名に減じていた「たいけん教室～みんなでためそう～」の定員は冬に感染症が縮小したのに伴い10名に増員したが、年明けの「岩手緊急事態宣言」により再び5名に減じている。

その他の事業も、主に夏に発出された「岩手緊急事態宣言」に伴う休館（令和3年8月16日～9月17日）により多少の影響を受けた。特に、子供向けイベントのひとつ「チャレンジ！はくぶつかん」（展示に関する月替わりのクイズシート）では、皆勤賞を目指すチャレンジャー（リピーター）の気をもませることになってしまった。

開館40周年記念特別展に伴う関連事業としては、三陸沿岸に立地する4校を招聘し「高校生による郷土芸能特別公演」を開催した。また、会期中の県博日曜講座も、外部講師による関連テーマでの連続講演会を実施した。

講座・観察会としては、ほかに自然観察会、地質観察会、考古学セミナー（講演会、現地見学会各1回）等を開催している。令和元年度まで（令和2年度はコロナ禍で中止）実施していた歴史部門の「古文書講座」は、「博物館で学ぶ岩手の歴史講座」にリニューアルをして開催した。

毎月第1土曜日には「ミュージアムシアター」で様々なプログラムを上映し、ご年配の方から子供たちまで、幅広い年代の皆さんにご利用いただいた。

また、今年度も人気の「冬休みワクワク！ワークショップ」を年明けに規模を縮小して開催した。

学習支援や社会教育事業は例年よりも件数が減ったままであるが、小中学校・高等学校・大学・幼稚園・各種団体等からの団体利用や教材貸し出し、学校への出前授業に対応した。

当館講堂で実施する「ミュージアムコンサート」では、コロナ禍で機会の少なくなった学校に発表の場を提供することにもつながったようである。

ア. 開催事業

(ア) 展示付帯事業（入館料を要する区域〔展示室内〕での事業）

表5.(2)-1 令和3年度展示付帯事業別参加者詳細

■学芸員による展示解説会（展覧会／定時）					延べ113名
	期日		講師等	演題・イベント名ほか	参加人数
1	4月17日	土	濱田 宏	テーマ展「縄文いわての環状列石」	12
2	5月2日	土			15
3	6月20日	日	鈴木まほろ 他	特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」	3
4	7月4日	日			10

	期日		講師等	演題・イベント名ほか	参加人数
5	7月18日	日	鈴木まほろ 他	特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」	12
6	8月1日	日			10
-	8月21日	土			中止
7	9月25日	土	目時 和哉 他	移動展「みる！しる！わかる！三陸再発見 in 宮古」	4
8	10月24日	日			10
9	11月23日	火/祝	金子 昭彦	テーマ展「教科書と違う岩手の歴史」	16
10	12月25日	土			4
11	1月16日	日			2
12	3月5日	土	菅野 誠喜	テーマ展「金田一家収蔵資料展」	12
13	3月19日	土			3

※感染症対策の一環で、いずれも定員を先着 15 名に定めた。

※8月21日（日）は臨時休館に伴い中止となった。

■解説員による定時解説（常設展示室/定時）

ニーズとコストのバランスを考え、さらに新型コロナウイルス感染症を勘案し依頼解説に集約させた。

■解説員による依頼解説（常設展示室/随時）

延べ 479 名

実施日	参加者数		解説場所										講師	団体数	
			総合展示室					いわて文化史展示室			いわて自然史展示室				
			地質	考古	歴史	民俗	現勢生物	考古	歴史	民俗	地質	生物			
4月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	解説員	0	
	一般	3	1	1	1	1	1	0	0	0	1	1		3	
5月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0
	一般	11	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0		1	
6月	学校等	137	4	5	2	1	3	0	0	0	0	0		6	
	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
7月	学校等	25	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0		1	
	一般	38	1	2	1	1	1	0	0	0	0	0		2	
8月	学校等	18	2	1	1	1	1	0	0	0	2	1		2	
	一般	8	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0		1	
9月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
10月	学校等	39	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	2		
	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
11月	学校等	62	3	3	2	1	2	0	0	0	0	0	4		
	一般	34	1	2	2	1	1	0	0	0	0	0	2		
12月	学校等	25	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
	一般	42	2	3	4	4	3	0	0	1	1	1	7		
1月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	一般	14	3	3	2	1	1	0	0	0	0	1	4		
2月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	一般	5	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1		
3月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	一般	18	3	3	3	3	3	0	0	0	0	0	4		
計		479	25	25	20	18	21	0	0	1	4	4	41		

※来館者の依頼により解説員が展示資料の解説を行う。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策として解説員による解説付きの団体見学の上限は 30 名程度までとし、30 分以内の解説時間と定めた。また、1 人の来館者に対し 1 人の解説員が対応できる時間を 10 分程度に制限した。

■ナイトミュージアム（常設展示室／定時）

延べ 38 名

	期日	曜日	時間	会場	講師・運営	参加者数
1	8月6日	金	16:30~17:30	総合展示室・いわて自然史展示室	博物館全職員	21
2	8月7日	土	16:30~17:30			17

※平成 28 年度から実施。閉館後、照明を落とした展示室をツアーガイドにしたがって見学し、各部門学芸員が解説する。

※事前申込制。

■ワクワク！子どもツアー（常設展示室／定時）

延べ 55 名

	期日	曜日	演題	講師等	参加者数	備考
1	12月19日	日	化石	望月 貴史	12	小学生以下 5、中学生 2
2	12月21日	火	化石・石など	解説員（那須）	4	小学生以下 2
3	12月22日	水	化石・石など	解説員（石川）	2	小学生 1
4	12月23日	木	化石・石など	解説員（三河）	0	不成立
5	12月24日	金	化石・石など	解説員（菊地）	2	小学生以下 1
6	12月25日	土	南部絵巻	川向富貴子	0	不成立
7	12月26日	日	野鳥	高橋 雅雄	3	小学生以下 1
8	12月28日	火	化石・石など	解説員（小原）	6	子ども 3
9	1月4日	火	化石・石など	解説員（乙部）	6	子ども 3
10	1月5日	水	化石・石など	解説員（四ツ家）	8	小学生以下 4
11	1月6日	木	化石・石など	解説員（大葛）	2	小学生以下 1
12	1月7日	金	化石・石など	解説員（伊藤）	0	不成立
13	1月8日	土	古銭・鎧	菅野 誠喜	5	子ども 3
14	1月9日	日	石器・黒曜石	米田 寛	4	子ども 3
15	1月10日	月/祝	テーマ展	金子 昭彦	1	子ども 1

※平成 28 年度から実施している子ども向け定時解説。新型コロナウイルス感染症拡大により、夏は代替事業（夏休みスタディーシート）、春は中止した。冬も定員減・時間短縮により実施した。

■民家 de 写真展（民家）

延べ 509 名

期日	テーマ	会場	運営	参加者数	備考
4月1日～5月9日の開館日 (34日間)	山と環状列石	佐々木家住宅	考古部門	509	前年度からの継続

※参加者数は民家訪問者数。

■チャレンジ！はくぶつかん（常設展示室ほか／随時）

延べ 2202 名

	期日	曜日	テーマ	シート作成	参加者数 (保護者込)	月別総数 (保護者込)	備考
1	4月10日	土	鳥（とり）	高橋 雅雄	35	230	大人 13
2	4月11日	日			39		大人 18
3	4月17日	土			84		大人 41
4	4月18日	日			72		大人 34
5	5月8日	土	緑(みどり)	昆 浩之	43	194	大人 21
6	5月9日	日			47		大人 23
7	5月15日	土			5		大人 1
8	5月16日	日			99		大人 45
9	6月12日	土	六(ろく)	佐藤修一郎	31	177	大人 16
10	6月13日	日			48		大人 20
11	6月19日	土			58		大人 23
12	6月20日	日			40		大人 17
13	7月10日	土	世界(せかい)	目時 和哉	64	228	大人 29
14	7月11日	日			79		大人 43

	期日	曜日	テーマ	シート作成	参加者数 (保護者込)	月別総数 (保護者込)	備考
15	7月17日	土			28		大人15
16	7月18日	日			57		大人27
17	8月14日	土	技(わざ)	工藤 健	41	89	大人22
18	8月15日	日			48		大人23
19	8月21日	土			-		中止
20	8月22日	日			-		中止
21	9月18日	土			西(にし)		金子 昭彦
22	9月19日	日	28	大人14			
23	9月20日	月/祝	42	大人18			
24	9月25日	土	21	大人9			
25	9月26日	日	13	大人6			
26	10月9日	土	祭(まつり)	近藤 良子		40	
27	10月10日	日			83	大人36	
28	10月16日	土			27	大人13	
29	10月17日	日			74	大人37	
30	11月13日	土	空(そら)	渡辺 修二	35	169	大人15
31	11月14日	日			76		大人36
32	11月20日	土			11		大人5
33	11月21日	日			47		大人23
34	12月11日	土	寒い(さむい)	菅野 誠喜	26	162	大人12
35	12月12日	日			79		大人35
36	12月18日	土			20		大人9
37	12月19日	日			37		大人34
38	1月8日	土	北(きた)	川向富貴子	37	221	大人18
39	1月9日	日			65		大人29
40	1月10日	月			38		大人17
41	1月15日	土			17		大人8
42	1月16日	日			64		大人28
43	2月12日	土	黒(くろ)	米田 寛	40	177	大人18
44	2月13日	日			45		大人21
45	2月19日	土			25		大人13
46	2月20日	日			67		大人33
47	3月12日	土	底(そこ)	望月 貴史	39	177	大人17
48	3月13日	日			45		大人21
49	3月19日	土			16		大人8
50	3月20日	日			49		大人26
51	3月21日	月			28		大人13

※平成15年度から実施。今年度は22名の最優秀チャレンジャー(12ヶ月すべての回に参加した皆勤賞、通算5回目1名・4回目5名・3回目7名・2回目1名・1回目8名)が誕生した。

※8月21～22日は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う県独自の緊急事態宣言により臨時休館となり中止した。

■ワードパズル(常設展示室/随時)

延べ957名

期日	回数	テーマ	シート作成	参加者数
7月20日(火)～8月13日(金)の開館日	24	かんたん	川向富貴子	292
	24	ふつう		276
12月21日(火)～1月7日(金)の開館日	14	かんたん	川向富貴子	48
	14	ふつう		51
	14	むずかしい		58

期日	回数	テーマ	シート作成	参加者数
3月23日(水)～3月31日(木)の開館日	8	石・化石	佐藤修一郎 高橋 雅雄 川向富貴子	86
	8	生き物		74
	8	歴史		72

※公益財団法人岩手県文化振興事業団自主事業として、平成27年度から実施しているワークシート。

■夏休みスタディーシート（特別展示室ほか/随時） 延べ625名

期日	回数	テーマ	シート作成	参加者数
7月20日(火)～8月13日(金)の開館日	24	生きものクイズ	高橋 雅雄	372
	26	40周年展ワークシート きがるに5問	川向富貴子	135
	26	40周年展ワークシート じっくり10問	川向富貴子	118

※ワクワク！こどもツアー中止に伴う代替事業として実施した。40周年記念特別展会場にはワークシートと連動した子供向けの解説パネルを設置した。

■展示資料解説「けんぱくものしりシート」

	テーマ			シート作成者（当館解説員）
1	4月	民俗	火のし	小原みどり
2	5月	生物	カワセミ	乙部佳寿代
3	6月	体験学習室	だるまおとし	三河 綾乃
4	7月	地質	気仙隕石	菊地 希子
5	8月	考古	縄文人の食生活	草島千香子
6	9月	歴史	陸奥の土風	川崎 智子
7	10月	民俗	えんぶりのエボシ	那須優香子
8	11月	生物	キジ	小原みどり
9	12月	体験学習室	水干	石川 依子
10	1月	地質	バラ輝石	齋藤菜穂美
11	2月	考古	ヒスイの装しよく品	大葛 文恵
12	3月	歴史	聖観音菩薩立像	四ツ家絵里

※当館解説員が毎月作成している展示資料解説カード。館内で配布するとともに、当館HPに掲載している。

(イ) 教育普及事業（無料または実費負担事業）

表5.(2)-2 令和3年度教育普及事業別参加者詳細

■文化講演会（講演会）

期日	曜日	演題・イベント名ほか	講師等		参加者数
			名前	所属等	
11月27日	土	卑弥呼の時代～その頃の岩手～	石川日出志 氏	明治大学文学部	52

※テーマ展関連事業として実施。

※感染症対策の一環として事前申込制とし、定員数を制限した。

■北上川水源地域セミナー（講演会）

期日	曜日	演題・イベント名ほか	講師等		参加者数
			名前	所属等	
1月23日	日	教科書に載っていない！古墳～飛鳥時代における東北北部の産物～琥珀・皮革・海産物から探る交流史～	米田 寛	当館学芸員	62

※平成25年度から開始した北上川水源地域交流会との共催によるセミナー（北上川「流域圏」フォーラム実行委員会後援）。当館は会場を提供し当日の運営補助を担当した。当館職員が部門持ち回りで講師を務めており、今年度は考古部門が担当した。

※今年度は県博日曜講座を兼ねた。

■岩手県立博物館友の会話のサロン（講演会）

延べ50名

	期日	曜日	演題・イベント名ほか	講師等		参加者数
				名前	所属等	
1	5月22日	土	貞享3年岩手山噴火の復元ー古文書に記録された噴火ー	土井 宣夫 氏	岩手大学客員教授	30
2	2月19日	土	ピアクの戦いと遺骨収集の現状	小原 守夫 氏	NPO 法人太平洋戦史館 専務理事	20

■県博日曜講座（講演会）

延べ981名

	期日	曜日	演題・イベント名ほか	講師等		参加者数
				名前	所属等	
1	4月11日	日	西平内I遺跡の調査でわかったこと *テーマ展関連講座	千田 政博 氏 濱田 宏	洋野町教育委員会 当館学芸員	64
2	4月25日	日	北東北のストーンサークル *テーマ展関連講座	熊谷 常正 氏	盛岡大学	71
3	5月9日	日	生命史をひもとくージュラ期ー	望月 貴史	当館学芸員	33
4	5月23日	日	被災資料再生の10年	丸山 浩治	当館学芸員	23
5	6月13日	日	三陸のウミガメは寒冷地仕様？ー北限のウミガメ研究でわかったことー *40周年展関連講座	木下 千尋 氏	東京大学大気海洋研究所	32
6	6月27日	日	三陸沿岸にサンゴ礁があった！豊かな生物に彩られた1億年前の海 *40周年展関連講座	大路 樹生 氏	名古屋大学	49
7	7月11日	日	三陸の400年～宮古港を中心に～ *40周年展関連講座	假屋雄一郎 氏	宮古市教育委員会事務局文化課	51
8	7月25日	日	津波浸水域の水辺の希少生物 *40周年展関連講座	島田 直明 氏	岩手県立大学総合政策学部	26
9	8月8日	日	三陸の鮭のふしぎー鮭の生態と民俗ー *40周年展関連講座	北川 貴士 氏 吉村 健司 氏	東京大学大気海洋研究所	55
10	8月22日	日	縄文の逸品『巻貝土器』からみえてくる三陸の豊かさ *40周年展関連講座	長谷川 真 氏	宮古市教育委員会事務局	中止
11	9月12日	日	石碑に刻まれた三陸津波の記憶	日時 和哉	当館学芸員	中止
12	9月26日	日	前川善兵衛家の出自について	昆 浩之	当館学芸員	45
13	10月24日	日	先祖をまつる～岩手の祖先供養～	川向富貴子	当館学芸員	32
14	11月14日	日	岩手のワスレナグモは変わり者？	渡辺 修二	当館学芸員	21
15	11月28日	日	鳥類学者がアートを語る-花鳥画家渡辺省亭の超絶技巧-	高橋 雅雄	当館学芸員	31
16	12月12日	日	教科書と違う岩手の弥生時代 *テーマ展関連講座	金子 昭彦	当館学芸課長	76
17	12月26日	日	北と南からみた岩手の古墳時代 *テーマ展関連講座	井上 雅孝 氏	滝沢市埋蔵文化財センター	50
18	1月9日	日	角塚古墳はなぜ作られたのか？ *テーマ展関連講座	高木 晃 氏	(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	74
19	1月23日	日	教科書に載っていない！古墳～飛鳥時代における東北北部の産物～琥珀・皮革・海産物から探る交流史～ *テーマ展関連講座	米田 寛	当館学芸員	62
20	2月13日	日	南部藩領内の温泉-湯治の文化誌-	近藤 良子	当館学芸員	38
21	2月27日	日	高山を利用するニホンジカの行動	鈴木まほろ	当館学芸員	49
22	3月13日	日	世界の中の岩手ー金田一国土の時代ー *テーマ展関連講座	工藤 健	当館学芸員	44
23	3月27日	日	金田一勝定と国土が現在に残したもの *テーマ展関連講座	菅野 誠喜	当館学芸員	55

※8月22日と9月12日は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う岩手緊急事態宣言により臨時休館となり中止した。

※感染症対策の一環として、いずれも定員数を制限した。

■ミュージアムシアター（鑑賞会）

延べ106名

	期日	曜日	概要	運営	参加者数
1	4月3日	土	①『花いっぱいになあれ』 ②『ピノキオ』	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会	11
2	5月1日	土	①『はなかつばの交通安全』 ②『やめて！ライターあそび』 ③『金のおの』 ④『ねぎぼうずのあさたろう』	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会	5
3	6月5日	土	『紅い襷』	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会	12
4	7月3日	土	①『ぞくぞく村のオバケたち』 ②『ガリバー旅行記』	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会	16
5	8月7日	土	『夏休みの地図』	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会	13
6	10月2日	土	『ああ栄冠は君に輝く』	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会	13
7	11月6日	土	①『かあちゃん』 ②『がんばれ たえちゃん』	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会	10
8	12月4日	土	①『トムとジェリー』 ②『かさこ地ぞう』 ③『つるのおんがえし』	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会	12
9	2月5日	土	『ゆずり葉の頃』	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会	12
10	3月5日	土	①『山に輝くガイド犬 平治号』 ②『よっちゃんの不思議なクレヨン』 ③『ぞくぞく村のオバケたち』	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会	2

※平成14年度から実施する16mmフィルムまたはDVD上映会。盛岡教育事務所中央視聴覚ライブラリーとの共催。

■高校生による郷土芸能特別公演（鑑賞会）

延べ144名

	期日	曜日	演題・イベント名ほか	会場	講師等	参加者数
1	7月24日	土	商工虎舞演舞 宮水太鼓演舞	正面玄関アプローチ前	岩手県立釜石商工高等学校虎舞委員会 岩手県立宮古水産高等学校太鼓部	68
2	7月31日	土	中野七頭舞演舞 太鼓演舞	正面玄関アプローチ前	岩手県立岩泉高等学校郷土芸能同好会 岩手県立大船渡東高等学校太鼓部	76

※開館40周年記念特別展開連事業として、三陸沿岸地方に立地する高等学校が伝承する郷土芸能の公演を行った。

■イワテミュージアムコンサート（鑑賞会）

	期日	曜日	演題・イベント名ほか	講師等	参加者数
	1月15日	土	マンドリンとギターの調べ	岩手県立盛岡第二高等学校マンドリン・ギター部	61

※公益財団法人岩手県文化振興事業団自主事業として平成28年度から実施。

※感染症対策の一環として事前申込制とし、定員数を制限した。

■県博バックヤードツアー（見学会）

延べ11名

	期日	曜日	概要	会場	講師等	参加者数
1	5月16日	日	自然史コース	第2・4・5収蔵庫	学芸職員	6
2			歴史コース	第1・3・4収蔵庫		5

※5月18日の国際博物館の日記念イベントとして平成18年度から実施。これまで1コース10人の定員で実施していたが、今年度は5人に減じた（令和2年度は中止）。このほか、5月18日（火）を入館無料とした。

※事前申込制。

■自然観察会（見学会）

延べ35名

	期日	曜日	イベント名	会場	講師等		参加者数
					名前	所属等	
1	5月30日	日	第81回自然観察会： 干潟の生き物を観察しよう	宮古市金浜	松政 正俊 氏ほか	岩手医科大学	20
2	11月21日	日	第82回自然観察会： ハクチョウとカモ類を観察しよう	盛岡市高松公園	高橋 雅雄 ほか	当館学芸員	15

※事前申込制。

※第81回は（公財）藤原ナチュラルヒストリー振興財団共催。同財団設立40周年記念事業を兼ねる。

■地質観察会（見学会）

延べ60名

	期日	曜日	イベント名ほか	会場	講師等		参加者数
					名前	所属等	
1	6月26日	土	第81回地質観察会： 1億年前のサンゴ礁の海を見てみよう！	田野畑村	大路 樹生 氏	名古屋大学博物館	38
2	10月31日	日	第82回地質観察会： 三畳紀の魚竜・モノティス産地：日本最初の三畳紀化石発見の地を探る	宮城県南三陸町歌津周辺	永広 昌之 氏	東北大学総合学術博物館	22

※事前申込制。

※第81回は（公財）藤原ナチュラルヒストリー振興財団共催。同財団設立40周年記念事業を兼ねる。

■考古学セミナー（講演会と見学会）

延べ31名

	期日	曜日	演題・イベント名ほか	会場	講師等		参加者数
					名前	所属等	
1	10月16日	土	遺跡から見た盛岡の弥生～古墳時代(講演会)	当館講堂	津嶋 知弘 氏	盛岡市遺跡の学び館	18
2	10月23日	土	中津川流域の弥生～古墳時代遺跡を歩く(現地見学会)	盛岡市山岸～浅岸	津嶋 知弘 氏	盛岡市遺跡の学び館	13

※現地見学会は事前申込制。

■博物館で学ぶ岩手の歴史講座（実習・講習会）

延べ37名

	期日	曜日	内容	講師等		参加者数
				名前	所属等	
1	10月16日	土	はじめての歴史学	目時 和哉	当館学芸員	6
2	10月23日	土	史料から読み解く古代～中世の岩手	目時 和哉	当館学芸員	6
3	10月30日	土	はじめての近世史	昆 浩之	当館学芸員	5
4	11月6日	土	史料から読み解く近世の岩手	昆 浩之	当館学芸員	7
5	11月13日	土	はじめての近現代史	工藤 健	当館学芸員	7
6	11月20日	土	史料から読み解く近現代の岩手	菅野 誠喜	当館学芸員	6

※今年度から実施。歴史を専門的に学んだことのない方や基礎から学びなおしたいと考えている方を主な対象として、古代から現在までの本県及び本国の歴史展開の概説と、くずし字や和様漢文の初歩的読解法を含む史料の取扱法の解説を主な内容とするリレー講座。

※事前申込制。

■教員のための博物館の日（実習・講習会）

受講者9名

期日	曜日	講師		講座内容	受講者数
		名前	所属等		
8月6～7日	金・土	望月 貴史	当館学芸員	アンモナイトのストラップづくり	9
		渡辺 修二	当館学芸員	骨から分かる生物の進化	
		近藤 良子	当館学芸員	授業で役立つ昔のくらし	

※公益財団法人岩手県文化振興事業団自主事業。

※学校との連携を深める目的として平成28年度から実施。講座以外に参加者から博物館の利用法について相談を受けた。受講者の子ども同伴可としており、子どもを含めると13名の参加となった。

■館園実習（実習・講習会）

受講者5名

回数	期日	曜日	講師	講座内容	受講者数
1	8月19日	木	高橋 廣至 館長	実習にあたって	5
2			学芸第一課長	岩手県立博物館概要説明	
3			実習担当	施設見学	
4			学芸第三課長	講義「地方博物館の使命と役割」	
5			総務課	博物館管理業務の実務	
6	8月20日	金	学芸第二課	博物館資料管理の実務	5
7			40周年展担当	博物館展示の実務（企画展を例に・40周年展）	
8			文化財科学部門	博物館資料保存の実務	
9			解説員	展示資料解説の実務（解説会）	
10		文化財科学部門	博物館資料保存の実務		
11	8月21日	土	学芸第三課	博物館事業広報の実務	5
12			歴史部門	博物館展示の実務	
13			実習担当	博物館展示の実務	
14			民俗部門	博物館教育普及の実務（民家清掃）	
15			学芸第一課	博物館展示の実務・博物館管理業務の実務 （ケース・演示具組立、メンテナンス）	
16	8月22日	日	生物部門	博物館展示の実務・博物館資料整理の実務（自然史系）	5
17			解説員	博物館教育普及の実務（たいけん教室の体験）	
18			生物部門	博物館資料整理の実務（自然史系）	
19	8月24日	火	歴史部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務（鎧の展示替え）	5
20			民俗部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務（動画制作準備）	
21			民俗部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務（動画制作）	
22	8月25日	水	考古部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務	5
23			地質部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務	
24			地質部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務（レプリカの型の整理・クリーニング）	
25	8月26日	木	考古部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務（人文系）	5
26			歴史部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務（人文系）	
27			学芸第一課長	実習終了にあたって	

※今年度は、盛岡大学、東北芸術工科大学から合計5名を受け入れた。新型コロナウイルス感染症策に伴う岩手緊急事態宣言発令により休館中の実習となった。その影響で普及イベントの補助を中心に組んでいた土日のカリキュラムが変更された。

■文化財等取扱講習会（実習・講習会）

受講者19名

月日	時間	A班	B班
1月 27日 （木）	20分	受付	
		〔講堂前〕 9:40～10:00	
		開講式・オリエンテーション	
		〔講堂〕 10:00～	

月日	時間	A 班	B 班
		【資料及び環境管理】文化財科学 〔 講堂・展示室 〕 10:30～	
		【資料及び環境管理】文化財科学 〔 講堂・展示室 〕	
	60分	昼食（ 教室・実技室 ） 12：00-13：00	
	70分	【人文系資料取扱基礎①】考古 〔 講堂 〕 13:00～	【人文系資料取扱基礎①】歴史 〔 第1収蔵庫 〕 13:00～
	30分	【自然史資料取扱基礎①】生物 〔 第2収蔵庫 〕 14:20～	【自然史資料取扱基礎①】地質 〔 第4収蔵庫 〕 14:20～
	70分	【人文系資料取扱基礎②】歴史 〔 第1収蔵庫 〕 15:05～	【人文系資料取扱基礎②】考古 〔 講堂 〕 15:05～
1月28日 (金)		受付 〔講堂前〕 9:40～9:55 【連絡】〔 講堂 〕	
	30分	【自然史資料取扱基礎②】地質 〔 第4収蔵庫 〕 10:00～	【自然史資料取扱基礎②】生物 〔 第2収蔵庫 〕 10:00～
	70分	【人文系資料取扱基礎③】民俗 〔 講堂・第3収蔵庫 〕 10:40～	【人文系資料取扱基礎③】古美術 〔 第1収蔵庫 〕 10:40～
	60分	昼食（ 教室・実技室 ） 12：00-13：00	
	70分	【人文系資料取扱基礎④】古美術 〔 第1収蔵庫 〕 13:00～	【人文系資料取扱基礎④】民俗 〔 講堂・第3収蔵庫 〕 13:00～
		【意見交換】 〔 講堂 〕 14:25～	
		閉講式 〔 講堂 〕 15:30～15:40	

※事前申込制。

※新型コロナウイルス感染症の拡大により5名不参加。

■たいけん教室～みんなのためそう～

延べ428名

	期日	曜日	演題・イベント名ほか	講師	参加者 実数	参加者総数 (保護者込)
1	4月11日	日	スライムであそぼう	当館解説員	5	11
2	4月18日	日	勾玉アクセサリー	当館解説員	5	10
3	4月25日	日	こいのぼりづくり	当館解説員	5	10
4	5月2日	日	土器づくり	当館解説員	5	10
5	5月9日	日	アンモナイトの消しゴムづくり	当館解説員	5	7
6	5月16日	日	カラフルクモづくり	当館解説員	5	8
7	5月23日	日	化石のレプリカ	当館解説員	5	9
8	5月30日	日	草花のそめもの	当館解説員	5	9
9	6月6日	日	チャグチャグ馬コづくり	当館解説員	5	9
10	6月13日	日	ばねのキツツキおもちゃ	当館解説員	4	7
11	6月20日	日	手づくり万華鏡	当館解説員	5	9
12	6月27日	日	ウォータードームづくり	当館解説員	5	10
13	7月4日	日	スライムであそぼう	当館解説員	5	10
14	7月11日	日	まが玉アクセサリー	当館解説員	3	5
15	7月18日	日	カラフルクモづくり	当館解説員	5	10
16	7月25日	日	(午前) ミニさんさだいこ	当館解説員	5	11
17	7月25日	日	(午後) ミニさんさだいこ	当館解説員	5	10
18	8月1日	日	(午前) ちぎり絵のうちわ	当館解説員	4	8
19	8月1日	日	(午後) ちぎり絵のうちわ	当館解説員	5	9
20	8月8日	日	(午前) 天然石のフォトフレーム	当館解説員	5	10

	期日	曜日	演題・イベント名ほか	講師	参加者 実数	参加者総数 (保護者込)
21	8月8日	日	(午後)天然石のフォトフレーム	当館解説員	5	11
22	8月15日	日	化石レプリカ	当館解説員	※臨時休館のため中止	
23	8月22日	日	3Dメガネで万華鏡	当館解説員	※臨時休館のため中止	
24	8月29日	日	オリジナル卵をつくろう	当館解説員	※臨時休館のため中止	
25	10月3日	日	猫絵馬づくり	当館解説員	5	9
26	10月17日	日	スライムであそぼう	当館解説員	5	9
27	10月24日	日	砂絵	当館解説員	5	7
28	10月31日	日	カラフルクモづくり	当館解説員	3	6
29	11月7日	日	化石のレプリカ	当館解説員	5	10
30	11月14日	日	手づくり万華鏡	当館解説員	5	9
31	11月21日	日	お絵かきはんこ	当館解説員	4	8
32	11月28日	日	松ぼっくりのXmasツリー	当館解説員	5	9
33	12月5日	日	松ぼっくりのXmasツリー	当館解説員	8	8
34	12月12日	日	まゆで干支づくり(寅)	当館解説員	10	19
35	12月19日	日	かんたん門松	当館解説員	10	18
36	12月26日	日	まゆで干支づくり(寅)	当館解説員	9	16
37	1月9日	日	たこづくり	当館解説員	9	16
38	1月16日	日	木のこまの絵つけ	当館解説員	9	16
39	1月23日	日	まが玉アクセサリ	当館解説員	5	10
40	1月30日	日	紙コップのあやつり人形	当館解説員	4	8
41	2月6日	日	土偶づくり	当館解説員	5	10
42	2月13日	日	化石のレプリカ	当館解説員	5	9
43	2月20日	日	おひなさまづくり	当館解説員	4	7
44	2月27日	日	スライムであそぼう	当館解説員	5	8
45	3月13日	日	オリジナル卵をつくろう	当館解説員	5	9
46	3月20日	日	天然石のフォトフレーム	当館解説員	5	10
47	3月27日	日	手づくり万華鏡	当館解説員	2	4

※昭和56年度から実施している当館解説員によるワークショップ。

※定員はプログラムごとに20～30名の範囲で設定してきたが、令和2年度からは感染症対策として5名とした。今年度は感染症が縮小傾向となった12月から原則10名(テーマによっては5名のまま)に増員したが、再び拡大し「岩手緊急事態宣言」発令後の参加募集となった1月30日以降は5名に戻している。なお、8月15、22、29日は県独自の緊急事態宣言による休館のため中止とした。

■冬のワクワク！ワークショップ

期日	曜日	演題・イベント名ほか	講師等	参加者 実数	参加者総数 (保護者込)
1月8日	土	化石のレプリカづくり (AM 2回、PM 2回)	当館解説員 ほか	32	56

※平成24年度から実施している当館解説員によるワークショップ。コロナ禍で事前予約制としたが、定員に満たなかった場合は当日受付可とした。参加者は保護者を含め56名。

■博物館まつり

10月11日(日)に予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止とした。

※公益財団法人岩手県文化振興事業団自主事業。

■秋のまなびイベント(博物館まつり代替イベント)

延べ163名

	期日	曜日	イベント名	講師等	参加者 実数	参加者総数 (保護者込)
1	10月9日	土	生きもの探偵	生物部門	17	29
2	10月10日	日	スライム時計づくり	歴史部門、解説員	41	74

	期日	曜日	イベント名	講師等	参加者 実数	参加者総数 (保護者込)
3	11月3日	水/祝	たんけん!岩石園	地質部門	7	15
4	11月21日	日	たいけん!むかしのくらし	民俗部門ほか	21	45

※公益財団法人岩手県文化振興事業団自主事業。

※「生きもの探偵」は、博物館の敷地内で生物の生活痕（フィールドサイン）を観察するプログラム。「たんけん!岩石園」は、屋外の散策広場に展示している岩石を観察するプログラム。「たいけん!むかしのくらし」は脱穀調整のための民具（千歯扱き、足踏み脱穀機、唐箕、箕、木摺臼、石臼）、サイカチの実と洗濯板、照明器具（がんどう、燭台など）の体験プログラム。

※事前申込制。

■開館記念日イベント（博物館まつり代替イベント）

期日	曜日	イベント名	参加者数
10月1日～10月10日の開館日	金～日	誕生日を祝い隊	3

※公益財団法人岩手県文化振興事業団自主事業。

※40周年記念特別展の開催年度であることにちなみ、当館の開館日である10月5日が誕生日の方へ記念品を配布した。

■文化の日イベント（博物館まつり代替イベント）

期日	曜日	演題・イベント名ほか	会場	参加者 実数	参加者総数 (保護者込)
11月3日	水/祝	たかはし館長とじゃんけん大会	屋外芝生広場	110	210

※公益財団法人岩手県文化振興事業団自主事業。

※特賞は岩手県で活動する似顔絵師ユニット「さがかが」による当館オリジナル台紙の似顔絵を贈呈した。2等は館内バックヤードツアー、残念賞は「ちょんまげかつら」「砂絵」「スライム」「注連縄」などの工作・実験キットを贈呈した。

■環状列石模擬体験（ストーンサークル・ゲーム）

期日	曜日	イベント名	参加者 実数	参加者総数 (保護者込)
4月18日	日	テーマ展「岩手の環状列石」関連事業	6	23

※テーマ展「縄文いわての環状列石」関連事業。小学校5年生以上を対象として箱庭での模擬体験を実施。

※事前申込制。

■ゴールデンウィークスペシャルイベント

5月2日（日）と3日（月）に予定していたゴールデンウィークスペシャルイベント「ふれあい動物園」は、コロナウイルス感染症対策のため中止とした。

※公益財団法人岩手県文化振興事業団自主事業。

■ヒストリックカー&クラシックカーミーティング in 岩手県立博物館

10月24日（日）に予定していたが、コロナウイルス感染症対策により中止とした。

※公益財団法人岩手県文化振興事業団自主事業。

■第1回写真コンテスト

写真撮影を楽しむ作品を気軽に発表できる機会を提供するために『私の岩手山』をテーマに公募を行い、292点（応募者数121名）の作品が寄せられた。

〔募集期間〕令和2年6月16日～令和3年2月26日

〔応募者数と作品数〕121名・292点

〔作品展示〕<I期：全作品>令和3年4月20日～令和3年5月30日

<II期：入賞作品>令和3年6月19日～令和3年8月15日

〔入賞者〕入賞者数36名、入賞作品数42点（重複入賞あり）

内訳：理事長賞2点、博物館長賞3点、佳作29点、特別賞8点

※公益財団法人岩手県文化振興事業団自主事業。

■第2回写真コンテスト

写真撮影を楽しみ作品を気軽に発表できる機会を提供するために『私の岩手山』をテーマに公募を行った。

〔募集期間〕令和3年6月19日～令和4年2月25日

〔応募者数と作品数〕25名・53点

※作品展示と入賞者は令和4年度年報にて報告する。

※公益財団法人岩手県文化振興事業団自主事業。

■県博出前講座

※延べ755名

	期日	曜日	派遣職員	演題・イベント名ほか	依頼者（主催者）	参加者数
1	5月28日	金	高橋 雅雄	滝沢森林公園の鳥類	岩手県立大学	9
2	6月16日	水	木戸口俊子 米田 寛	博学連携事業概要説明、操り人形の歴史	岩手県立平舘高等学校	5
3	6月25日	金	鈴木まほろ	学校の周りの植物	八幡平市立柏台小学校	16
4	8月27日	金	木戸口俊子	岩手の食文化	岩手県立伊保内高等学校	14
5	9月21日	火	渡辺 修二	岩手のカワシンジュガイと生物多様性ー岩手の自然と人との共生ー	盛岡市立仙北小学校	113
6	9月29日	水	鈴木まほろ	岩手の絶滅危惧植物	盛岡市立仙北小学校	113
7	10月15日	金	高橋 雅雄	田んぼの鳥を守ること	盛岡市立仙北小学校	113
8	10月26日	火	望月 貴史	岩手の化石	盛岡市立下橋中学校	88
9	12月10日	金	望月 貴史	岩手の化石・生命の進化	岩手県立盛岡となん支援学校	14
10	12月15日	水	木戸口俊子 米田 寛	博学連携事業～人形の頭製作指導	岩手県立平舘高等学校	2
11	12月26日	日	望月 貴史	いわてのかせき・化石のレプリカ作り	北上市立黒沢尻東小学校 20区1班なかよし子供会	30
12	1月17日	月	丸山 浩治	津波で被災した資料の再生	岩手県立岩谷堂高等学校	38
13	2月3日	木	近藤 良子 川向富貴子	むかしのくらし	八幡平市立柏台小学校	8
14	2月16日	水	近藤 良子 川向富貴子	むかしのくらし	盛岡市立上田小学校	58
15	2月18日	金	近藤 良子 川向富貴子	むかしのくらし	滝沢市立滝沢小学校	134

※県内の学生・生徒・児童を対象とし、当館が講師派遣に係る実費を負担したもの。

(ウ) 講演会・講座に係る職員派遣

表5.(2)-3 令和3年度職員派遣

延べ434名 ※一部（放送やオンライン）をのぞく

	期日	曜日	派遣職員	演題・イベント名ほか	依頼者（主催者）	参加者数
1	6月24日	木	菅野 誠喜	岩手のウォール街「中ノ橋通」とお金の話	盛岡の歴史を語る会 於、盛岡市総合福祉センター	89
2	7月6日	火	金子 昭彦	松園地区公民館成人教育「松園を学ぶ①」	松園地区公民館 於、当館展示室	7
3	7月13日	火	高橋 雅雄	松園地区公民館成人教育「松園を学ぶ②」	松園地区公民館 於、当館展示室	3
4	7月24日	土	望月 貴史	三陸の成り立ちから見るジオパークの魅力	大船渡市商工会議所 於、同所	7

	期日	曜日	派遣職員	演題・イベント名ほか	依頼者（主催者）	参加者数
5	8月1日	日	望月 貴史	三陸の成り立ちから見るジオパークの魅力	宮古市民総合体育館 於、同館	16
6	8月4日	水	渡辺 修二	令和3年度岩手県高等学校文化連盟自然科学専門部高校生セミナーサポート事業「研究論文作成支援セミナー」	岩手県高等学校教育研究会理科部会岩手県高等学校文化連盟自然科学専門部 於、当館	21
7	8月7日	土	菅野 誠喜	「近世・近代史講座」戊辰戦争から岩手県の誕生	盛岡市西部公民館 於、同館	55
8	8月8日	日	渡辺 修二	キッズ観察会	たきざわ環境パートナー会議 於、滝沢市穴口木賊川遊水地	16
9	9月30日	木	高橋 雅雄	野鳥の絶滅・野鳥の復活～人間と歩んだ歴史～	盛岡市中央公民館 於、同館	97
10	11月12日	金	望月 貴史 佐藤修一郎	応用理学研究会野外見学会	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部 於、釜石市栗林町周辺地域	18
11	11月13日	土	望月 貴史 佐藤修一郎	岩手県高等学校教育研究会理科部会地学部会研修会	岩手県高等学校教育研究会 於、釜石市栗林町周辺地域	6
12	11月19日	金	高橋 雅雄	令和3年度盛岡ゆうゆう大学ラジオ講座 水辺の鳥・街なかの鳥～生物多様性を守るために～	盛岡ゆうゆう大学・トラベルリンク株式会社 於、ラヂオもりおか	放送
13	12月3日	金	金子 昭彦	令和3年度埋蔵文化財発掘調査技術講習会「編年の技術と県内土偶の編年」	岩手県立埋蔵文化財センター・（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 於、岩手県立博物館	38
14	2月16日	水	金子 昭彦 望月 貴史	三陸ジオパークの縄文遺跡を深く知るオンラインセミナー	三陸ジオパーク推進協議会 於、浄土ヶ浜ビジターセンター	61
15	2月25日	金	高橋 雅雄	鳥ゼミ「絶滅危惧種オオセッカはどこで越冬するか」	日本野鳥の会 ※オンライン	オンライン
16	3月8日	火	鈴木まほろ	歴史文化資料保全コーディネーター講座「様々な資料の保全5 生物系資料」	歴史資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大学拠点 ※オンライン	84

※依頼者が講師派遣に係る実費を負担、もしくは共同プロジェクトとして実施したもの。

イ. 学校教育との連携

(ア) 博物館展示活動を活用した学習利用の受け入れ

今年度の教育機関の来館状況は、下記のとおりである。合計で128校5,126人（前年度は91校3,217人）が来館した。

表5.(2)-4 令和3年度学習利用状況（区分別）

a. 幼稚園・保育園等

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	幼児	引率	合計
1	5月20日	岩手	盛大附属松園・厨川幼稚園	親子遠足	37	9	46
2	5月21日	岩手	認定こども園めぐみ幼稚園	親子遠足	25	8	33
3	5月28日	岩手	愛育園	親子遠足	26	3	29
4	6月29日	岩手	沼宮内保育所	遠足	27	7	34

5	7月2日	岩手	盛岡市社会福祉事業団ながい保育園	親子レク	23	3	26
6	8月17日	岩手	MH ナーサリー	園外保育	21	5	26
7	10月6日	岩手	認定こども園めぐみ幼稚園	親子遠足	27	5	32
8	10月12日	岩手	ふじなでしこども園	園外保育	71	11	82
9	10月19日	岩手	なでしこども園	園外保育	85	10	95
10	11月2日	岩手	MH ナーサリー	園外保育	21	5	26
11	12月3日	岩手	うえだ保育園	博物館見学	22	4	26
12	2月22日	岩手	二葉幼稚園	卒園遠足	13	2	15
13	2月22日	岩手	青葉幼稚園	卒園遠足	55	3	58
小計					453	75	528

b. 小学校

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	児童	引率	合計
1	6月3日	岩手	花巻市立宮野目小学校	修学旅行	66	5	71
2	6月3日	岩手	陸前高田市立広田小学校	修学旅行	20	4	24
3	6月3日	岩手	大船渡市立立根小学校	修学旅行	31	4	35
4	6月4日	岩手	北上市立和賀西・笠松小学校	授業	28	4	32
5	6月4日	岩手	田野畑村立田野畑小学校	修学旅行	16	3	19
6	6月4日	岩手	盛岡市立青山小学校	修学旅行	104	7	111
7	6月4日	岩手	奥州市立姉帯小学校	修学旅行	35	5	40
8	6月9日	岩手	一関市立興田小学校	学習の一環	15	3	18
9	6月10日	岩手	奥州市立太田代小学校	修学旅行	2	3	5
10	6月10日	宮城	仙台市立南光台小学校	修学旅行	113	7	120
11	6月10日	岩手	奥州市立南都田小学校	修学旅行	31	5	36
12	6月10日	岩手	一関市立黄海小学校	修学旅行	16	4	20
13	6月11日	岩手	一関市立藤沢小学校	修学旅行	35	5	40
14	6月11日	岩手	山田町立船越小学校	修学旅行	24	5	29
15	6月11日	岩手	一関市立老松小学校	修学旅行	17	4	21
16	6月11日	岩手	一関市立室根東小学校	修学旅行	13	3	16
17	6月16日	岩手	遠野市立青笹小学校	修学旅行	22	3	25
18	6月17日	宮城	仙台市立泉ヶ丘小学校	修学旅行	35	5	40
19	6月17日	宮城	気仙沼市立新城小学校	修学旅行	44	5	49
20	6月17日	岩手	大船渡市立大船渡小学校	修学旅行	22	3	25
21	6月17日	岩手	金ヶ崎町立西小学校	修学旅行	15	4	19
22	6月18日	岩手	宮古市立花輪小学校	修学旅行	32	3	35
23	6月18日	青森	六戸町立六戸小学校	修学旅行	40	4	44
24	6月18日	岩手	陸前高田市立米崎小学校	修学旅行	39	3	42
25	6月24日	岩手	八幡平市立寄木小学校	修学旅行	15	3	18
26	6月24日	岩手	大船渡市立末崎小学校	修学旅行	25	4	29
27	6月25日	岩手	金ヶ崎町立三ヶ尻小学校	修学旅行	17	4	21
28	6月25日	青森	七戸町立天間林小学校	修学旅行	45	7	52
29	6月25日	青森	六戸町立大曲小学校	修学旅行	53	5	58
30	6月25日	岩手	金ヶ崎町立三ヶ尻小学校	修学旅行	17	4	21
31	6月25日	岩手	奥州市立江刺愛宕小学校	修学旅行	47	5	52
32	6月25日	岩手	奥州市立岩谷堂小学校	修学旅行	97	8	105
33	6月25日	岩手	一関市立大東小学校	修学旅行	40	4	44
34	7月1日	岩手	一関市立一関小学校	学習の一環	102	8	110
35	7月2日	岩手	奥州市立黒石小学校	修学旅行	7	3	10
36	7月2日	岩手	岩泉町立岩泉小学校	社会科見学	28	2	30

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	児童	引率	合計
37	7月2日	青森	横浜町立横浜小学校	修学旅行	24	5	29
38	7月9日	青森	青森市立古川小学校	修学旅行	21	3	24
39	8月10日	岩手	奥州市立前沢小学校	部活動	24	1	25
40	9月16日	宮城	名取市立那智が丘小学校	修学旅行	39	4	43
41	9月17日	岩手	普代村立普代小学校	修学旅行	21	5	26
42	9月22日	岩手	釜石市立甲子小学校	校外学習	46	3	49
43	9月22日	岩手	一関市立興田小学校	学習の一環	15	3	18
44	9月22日	岩手	盛岡市立永井小学校	校外学習	53	3	56
45	9月28日	岩手	盛岡市立緑が丘小学校	授業の一環	3	107	110
46	9月29日	岩手	盛岡市立洪民小学校	授業	45	4	49
47	9月29日	青森	八戸市立大館小学校	修学旅行	30	3	33
48	9月30日	岩手	金ヶ崎町立第一小学校	修学旅行	16	4	20
49	10月1日	岩手	八幡平市立平館小学校	授業の一環	20	2	22
50	10月1日	青森	六ヶ所村立尾駈小学校	修学旅行	30	5	35
51	10月1日	岩手	紫波町立日詰小学校	校外学習	26	8	34
52	10月6日	岩手	盛岡市立中野小学校	社会科見学	89	5	94
53	10月8日	岩手	一関市立滝沢小学校	修学旅行	31	4	35
54	10月8日	岩手	住田町立世田米小学校	修学旅行	19	3	22
55	10月8日	岩手	盛岡市立太田東小学校	社会科見学	54	3	57
56	10月8日	岩手	紫波町立彦部小学校	社会科見学	6	2	8
57	10月22日	岩手	盛岡市立好摩小学校	社会科学習	24	2	26
58	10月28日	宮城	名取市立那智が丘小学校	修学旅行	39	4	43
59	10月29日	岩手	宮古市立田老第一小学校	修学旅行	17	3	20
60	10月29日	青森	十和田市立南小学校	修学旅行	83	6	89
61	11月5日	岩手	盛岡市立杜陵小学校	社会科見学	45	3	48
62	11月5日	岩手	一関市立滝沢小学校	修学旅行	31	4	35
63	11月6日	青森	佐井村立佐井小学校	修学旅行	9	3	12
64	11月9日	岩手	盛岡市立洪民小学校	社会科見学	43	3	46
65	11月11日	岩手	盛岡市立見前小学校	修学旅行	79	8	87
66	11月12日	岩手	花巻市立笹間第二小学校	修学旅行	5	3	8
67	11月12日	岩手	花巻市立笹間第一小学校	修学旅行	23	4	27
68	11月17日	岩手	一関市立興田小学校	学習の一環	15	3	18
69	11月17日	宮城	大崎市立敷玉小学校	修学旅行	20	4	24
70	11月18日	宮城	仙台市立柳生小学校	修学旅行	107	6	113
71	11月25日	岩手	奥州市立佐倉河小学校	校外学習	47	4	51
72	11月26日	岩手	久慈市立小久慈小学校	修学旅行	25	3	28
73	12月1日	宮城	大崎市立大貫小学校	修学旅行	22	3	25
74	1月26日	岩手	盛岡市立青山小学校	授業の一環	87	4	91
75	2月16日	岩手	盛岡市立厨川小学校	社会科学習	56	4	60
				小計	2,697	409	3,106

c. 中学校

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	生徒	引率	合計
1	4月23日	北海道	八雲町立熊石中学校	修学旅行	9	3	12
2	5月11日	宮城	栗原市立築館中学校	宿泊研修の一環	143	10	153
3	6月19日	岩手	盛岡市立松園中学校	部活動	28	2	30
4	7月1日	青森	青森市立戸山中学校	修学旅行	64	6	70
5	8月4日	岩手	盛岡市立松園中学校	部活動	28	2	30

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	生徒	引率	合計
6	10月5日	岩手	花巻市立西南中学校	修学旅行	44	6	50
7	10月14日	東京	桐朋中学校	修学旅行	62	4	66
8	10月20日	宮城	栗原市立栗駒中学校	修学旅行	81	7	88
9	10月22日	宮城	塩竈市立第一中学校	修学旅行	123	10	133
10	11月2日	岩手	九戸町立九戸中学校	宿泊研修	38	4	42
11	11月2日	岩手	九戸町立九戸中学校	宿泊研修	38	4	42
12	11月4日	岩手	久慈市立侍浜中学校	宿泊研修	14	5	19
13	11月11日	宮城	仙台市立高砂中学校	修学旅行	15		15
14	11月11日	岩手	釜石市立釜石中学校	研修	58	4	62
15	11月16日	岩手	奥州市立水沢中学校	修学旅行	29	2	31
				小計	774	69	843

d. 高等学校

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	生徒	引率	合計
1	5月29日	岩手	岩手県立久慈高等学校	施設見学	10	1	11
2	6月18日	岩手	星北高等学園	芸術鑑賞	47	7	54
3	6月22日	岩手	岩手県立盛岡第三高等学校	修学旅行	41	2	43
4	6月22日	岩手	岩手県立盛岡第三高等学校	修学旅行	82	4	86
5	7月9日	岩手	岩手県立福岡高等学校	委員会活動	28	2	30
6	7月15日	岩手	岩手県立平舘高等学校	授業	50	4	54
7	7月27日	岩手	岩手県立宮古北高等学校	学習旅行	21	3	24
8	10月5日	東京	桐朋女子高等学校	修学旅行	40	1	41
9	10月6日	岩手	盛岡中央高等学校	授業	20		20
10	10月14日	岩手	岩手県立盛岡第二高等学校	授業	20		20
11	10月16日	岩手	岩手県立黒沢尻北高等学校	授業の一環	20		20
12	11月16日	岩手	岩手県立久慈東高等学校	部活動	12	1	13
13	11月18日	岩手	岩手県立種市高等学校	学習の一環	13	2	15
14	11月30日	岩手	岩手県立前沢高等学校	修学旅行	50	4	54
15	1月15日	岩手	岩手県立盛岡第二高等学校	部活動	19	1	20
				小計	473	32	505

e. 大学・専門学校・専修学校等

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	学生	引率	合計
1	7月30日	岩手	上野法律ビジネス専門学校	授業	17	4	21
2	7月31日	岩手	盛岡大学	授業	23	1	24
3	12月4日	青森	弘前大学日本考古学ゼミナール	ゼミの一環	9	1	10
				小計	49	6	55

f. 支援学校等

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	生徒	引率	合計
1	11月12日	岩手	岩手県立盛岡青松支援学校	授業	1	1	2
2	12月2日	岩手	岩手県立盛岡青松支援学校	校外学習	1	1	2
3	12月3日	宮城	宮城県立気仙沼支援学校	修学旅行	12	11	23
4	3月3日	岩手	岩手県立盛岡聴覚支援学校	学習の一環	3	2	5
				小計	17	15	32

g. その他（児童デイサービス等）

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	児童	引率	合計
1	8月10日	岩手	アニマート青山	見学	25	8	33
2	11月13日	岩手	Ambi デイ教室	課外活動	16	8	24
				小計	41	16	57

表 5.(2)-5 令和3年度都道府県別学習利用状況（都道府県別校数）

岩手県	青森県	宮城県	北海道	東京	合計
100	11	14	1	2	128

表 5.(2)-6 令和3年度区分別学習利用状況（区分別校数）

幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等学校	大学	専門学校 専修学校	支援学校	その他	合計
13	75	16	15	2	1	4	2	128

表 5.(2)-7 令和3年度都道府県別学習利用状況（都道府県別・区分別受入人数）

	県内	秋田	宮城	青森	他	合計
小学校	2,273	0	457	376	0	3,106
中学校	306	0	389	70	78	843
高等学校	464	0	0	0	41	505
特別支援学校	9	0	23	0	0	32
大学	24	0	0	10	0	34
幼稚園・保育園	528	0	0	0	0	528
専門・専修学校	21	0	0	0	0	21
その他	57	0	0	0	0	57
	3,682	0	869	456	119	5,126

※下見は含まない

(イ) 教材貸出

昨年度は5件44点の貸出を行なったが、今年度は1件24点と少ない貸出となった。しかしながら、貸出資料一覧にない資料の貸出を相談されるケースが増えており、これは部門毎に対応しており件数には入っていない。貸出可能な資料の再選定も含め、メニューの充実を図りたい。

表 5.(2)-8 令和3年度の教材貸出

貸出日	貸出先	点数	資料
2月17日	IBC 岩手放送	24	縄文土器(3) 縄文土器片(10) 石器類(10) 大形土偶模造品(1)

(ウ) 展示資料目録ならびに新学習指導要領対照目録の改訂

今年度は小学校の学習指導要領改訂に合わせ、展示資料目録ならびに新学習指導要領対照目録の一部更新を行った。改訂版は令和4年4月1日に当館ホームページで公開した。

(エ) 県内高等学校との博学連携プロジェクト

a. 岩手県立平舘高等学校

当館では平成27年度から平舘高等学校との共同プロジェクトを立ち上げ、体験学習室や貸出用の教材を製作している。7年目となる今年度は、家政科学科3年生の2名が人形芝居の「操り人形」1体を製作した。成果品を体験学習室に設置した。以下に経過を記す。

令和3年6月 岩手県における操り人形の歴史に係る講義

講師：当館学芸第二課長 木戸口俊子

令和3年7月 (株)東亜へ指導教員を派遣しての技術指導

講師：(株)東亜指導員 藤原智恵美氏

令和3年8月 倉沢人形歌舞伎伝承館（花巻市東和町）にて操り人形の実見と聞き取り

講師：倉沢人形歌舞伎保存会幹事長 下林 育男氏

令和3年11月 外部講師を招聘しての講義と技術指導

講師：(株)東亜指導員 浅野 千津氏

令和3年12月 人形の頭製作指導

講師：当館学芸第二課長 木戸口俊子

令和4年1月 平舘高等学校にて引渡し式

令和4年3月 体験学習室に設置



図5.(2)-1 倉沢人形歌舞伎伝承館にて



図5.(2)-2 (株)東亜指導員による技術指導

b. 岩手県立盛岡峰南高等支援学校

当館では平成26年度から盛岡峰南高等支援学校へ体験学習室の教材や白布などのクリーニングを依頼している。今年度は、展示用養生マットのクリーニングを依頼した。

c. 岩手県立盛岡農業高等学校

今年度は「連携」まで至らなかったが、11月に開催した秋のまなびイベント「たいけん！むかしのくらし」の脱穀体験に用いる稲を提供いただいた。イベントに合わせて実施したトピック展「稲の収穫」では、同校植物科学科作物研究班が取り組んでいる合鴨を使った無農薬での水稻栽培をパネルで紹介した。



図5.(2)-3 トピック展「稲の収穫」展示風景

(オ) 博物館館園実習

学芸員資格取得に係る館務実習について、当館の実習生受入方針に基づいて実施した。当館における実習は、主に県内大学に在学する者、または本県出身者を対象としている。例年、地質・考古・歴史・民俗・生物・文化財科学に係る博物館資料の整理や展示作業、教育普及事業の実務などの実習、及び社会教育機関としての博物館の役割についての講義等を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う県独自

の「緊急事態宣言」発出による休館中の受入れとなり、一部カリキュラムを変更して実施した。実習・講義の内容については「6. (1) ア. (イ) 教育普及事業」の本項を参照のこと。実習期間と受入れ人数等は次のとおり。

○期間：令和3年8月19日（木）～26日（木） ※23日（月）をのぞく7日間

○実習生出身校と参加人数：盛岡大学4名、東北芸術工科大学1名 合計5名

ウ. 職場体験・インターンシップ

今年度は2件3名の職場体験・インターンシップの申し込みがあった

インターンシップは東北地域大学間連携インターンシップからの受け入れとして3日間で実施した。職場体験は中学校1校で実施した（表5.(2)-9）。教員の社会体験研修は8件を受け入れた（表5.(2)-10）。

表5.(2)-9 令和3年度職場体験・インターンシップ参加校

	実施日時	所属校	人数	体験内容
1	7月2日（金）	滝沢市立姥屋敷中学校	1	職場の仕事内容の説明と歴史学芸員体験、たいげん教室の準備
2	10月2日（土）、10月3日（日）、10月9日（土）	盛岡大学	2	学芸員体験、資料整理、ミュージアムシアター受付、岩石園整理
3	10月5日（火）、10月6日（水）、10月9日（土）	岩手大学	1	生物分野の資料整理・教育普及事業

表5.(2)-10 令和3年度中堅教諭等資質向上研修（社会体験研修）受入れ

	実施日時	所属校	人数	体験内容
1	7月25日	岩手大学教育学部附属中学校	1	学芸員または解説員の業務の一部
2	8月1日	盛岡市立緑が丘小学校	1	
3	8月1日	盛岡市立見前南中学校	1	
4	8月8日	岩手大学教育学部附属小学校	1	
5	11月14日	盛岡市立見前中学校	1	
6	1月23日	岩手県立盛岡青松支援学校	1	
7	2月13日	岩手県立久慈拓陽支援学校	1	
8	2月27日	岩手県立盛岡第二高等学校	1	

エ. 問い合わせ受付

学芸員がこの1年間に対応した問い合わせについて、集計を行っている。なお、この中には計画された事業に関するものや外部研究者との連絡調整等を含んでいない。質問や要望は多岐にわたり、即答が可能な場合もあれば回答に相当期間を要する場合もあり、柔軟な対応が求められる。

表5.(2)-11 令和3年度の問い合わせ受付状況

部門	件数	問合せ方法	件数	主な対応内容
地質	25	来館	12	岩石・鉱物・化石の鑑定、岩手県の地質や成り立ちについて、盛岡市周辺の化石採取地、県内の辰砂産地について、盛岡市内の鉱山について、隕石について
		電話	9	館蔵の三葉虫標本を見せてもらうことはできるか、古生物について、久慈層群玉川層の名前の由来、恐竜に関連する展示や取り組みについて、恐竜の足跡の化石から歩行速度を調べる方法、論文への引用手続きについて 他

部門	件数	問合せ方法	件数	主な対応内容
		FAX、メール、手紙、その他	4	双葉層群から産出した生痕化石について、壺の沢変成岩に含まれる鉱物の形成年代、洋野町から産出した貝化石の鑑定、第55回地質観察会の観察地について
生物	160	来館	27	当館植物園の植物について、キビタキの同定について、エゾノギンギシとノダイオウの見分け方、鳥類羽毛の鑑定、研究相談、里地・農地における有害獣対策と生物多様性の保全について 他
		電話	55	岩手県におけるキバネツノトンボの生息について、鳥類の桜花蜜の摂食行動について、仏沼での鳥類調査について、イヌワシの営巣地、高松の池の保全について、オオスズメバチ駆除後の戻りバチ等について 他
		FAX、メール、手紙、その他	78	標本資料の冷凍処理について、緑の回廊の保全指針に関する意見照会について、防災重点ため池の保全について、チョウセンアカシジミ標本の寄贈受入について、アカギツネのDNA資料の有無について、資料の写真同定 他
考古	27	来館	6	東北の弥生文化について、旧石器と新石器の違いについて、群集墳出土の瑠璃産地について、土器の時期等について、岩手に縄文時代の土笛は存在するか
		電話	19	総合展示室(考古)大橋遺跡の稜付細石刃について、岩手の土偶出土点数について、豊岡遺跡出土の遮光器土偶について、岩手県が土偶日本一の理由、北上川流域の黒曜石流通について
		FAX、メール、手紙、その他	2	大型土偶の性別について、仮面と呪術的信仰の関わりについて、縄文時代の社会形態について、縄文時代の水銀朱使用遺跡について
歴史	22	来館	9	寺子屋の時間割における性差について、津波の歴史とモニュメント群について、中国で購入した磁器について、金田一家関係資料について、日本と世界の文化の違いについて、歴史研究の手法と博物館の役割について 他
		電話	12	高水寺斯波氏に関する参考文献について、矢抜き石にまつわる鳥海弥三郎について、岩手県の古代史について、閉伊十郎について、コロナ展示の内容について、常設展で陳列している仏像について、室町期の斯波氏について 他
		FAX、メール、手紙、その他	4	盛岡藩の特徴と伝統について、旧家から発見された槍類の鑑定依頼、千石船について、北海図誌について
民俗	123	来館	23	総合展示室の厄払い人形について、吉田家住宅の屋根裏から見つかった人形について、製氷機能が付いた冷蔵庫について、氷室の歴史について、盛岡竿の材料竹について、地方の和船に関する資料の所在について 他
		電話	63	岩手で葛西氏にゆかりのある一族(柴又姓、柴股姓)の由緒について、長谷寺仏像が県指定となった理由、平館城の庭園について、盛岡竿についての歴史的な文献の存在、博物館の有形民俗文化財について 他
		FAX、メール、手紙、その他	37	下斗米文林に係る医学史資料の取り扱いについて、救荒食のヤドリギについて、館蔵の佐々木藍田資料一覧の送付依頼、大槌町現存の同資料の所在確認、岩手県内の絵馬について、大船渡市長谷寺にある岡倉天心の文化財指定書について 他
文化財科学	11	来館	1	文化財レスキューについて
		電話	9	当館のくん蒸施設と方法について、施設内の温湿度管理について、資料のカビ除去方法について、津波被災文化財再生作業の現状について、カビ消毒のためのエタノールの種類について、仏像のくん蒸について
		FAX、メール、手紙、その他	1	出土木製品の洗浄と仮保存の方法について
合計			368	

(3) 調査研究活動

博物館における調査研究活動は、展示、教育普及等を展開するうえでの基幹活動として位置づけられており、それに基づいて研究が進められる。各学芸員は、研究テーマを小テーマと小テーマを包括する大テーマに区分し、テーマに関連した調査・研究を行っているが、テーマの中には当館の研究協力員や他機関に所属する研究者と共同で進められているものもある。2月末には「令和3年度館内調査研究報告会」が行われ、全学芸員と一部の解説員から研究活動の進捗、研究成果が報告された。

なお、一定の成果が得られた研究については『岩手県立博物館研究報告』第39号へ掲載したほか、学会や学術雑誌、各種報告書等で公表している。

ア. 調査研究活動の概要

地質部門4テーマ、生物部門11テーマ、自然史部門（地質・生物）1テーマ、考古部門5テーマ、歴史部門7テーマ、民俗部門5テーマ、文化財科学部門4テーマで調査研究活動が推進された。

表5.(3)-1 令和3年度調査研究テーマとその実施状況

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	内容
地質	地域地質に関する研究 A	北上山地における地質学的資料に関する基礎的研究	望月 貴史 佐藤修一郎	釜石市栗林町周辺地域および奥州市前沢生母周辺地域に分布する上部デボン系の植物化石について、標本の採取を行うとともに種類の同定を行った。また、岩手大学工学部から寄贈を受けていた北上山地化石標本について寄贈手続を完了し、一部標本の登録を行った。
	地域地質に関する研究 B	奥羽山脈ならびに北上低地帯における地質学的資料に関する基礎的研究	佐藤修一郎 望月 貴史	北上市周辺の奥羽山脈から北上低地帯に分布する地質学的要素について調査・再検討を行った。特に和賀川下流域に中新世の良質な露頭を確認し、化石を採取した。
	古生物学的研究	古生代および中生代に関する古生物学的研究	望月 貴史	釜石市栗林町周辺地域および奥州市前沢生母周辺地域に分布する上部デボン系の植物化石について、標本の採取を行うとともに種類の同定を行った。また、福島県立博物館に収蔵されていた白亜系双葉層群から産出した生痕化石について同定を行い、その結果と考察について福島県立博物館紀要に投稿した。
	地域環境に関する研究	火山・地震・気象・災害・資源に関わる研究	佐藤修一郎	秋田県二ツ井鉱山から天然アスファルトを採取した。今後、成分の抽出を行いたい。また、県内に設置されている地震計の分布を調べている。分布図とともに地震学習の教材として活かしたい。
生物	地域生態系の研究	岩手県内の湿性草原環境の生物相の把握	鈴木 まほろ 渡辺 修二 高橋 雅雄	岩手県内の代表的な湿性草原環境である滝沢市春子谷地湿原と盛岡市高松の池芝水園において、植生・昆虫類（特にトンボ目とバッタ目）・クモ類・鳥類・哺乳類に関する生息状況調査を実施し、その結果を報告書にまとめた。
	日本産鳥類の生態学的研究	湿性草原の生物多様性保全における耕作放棄地の生態的価値：越冬鳥類を指標とした評価	高橋 雅雄	湿性草原棲の小型鳥類4種について、東北地方日本海側（秋田県・山形県）・関東地方北部・九州地方で越冬調査を実施した。また、関東地方北部にて簡易的な植生調査を行った。九州地方の調査結果について、日本鳥学会誌へ論文を投稿した。（科研費：学術研究助成基金助成金を受けて実施した）

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	内容
生物	国内および県内における鳥類分布に関する研究	鳥類におけるタヌキ溜糞場の生態的価値の解明	高橋 雅雄	県立博物館・岩手大学・高松公園・盛岡市動物公園にあるタヌキの溜糞場 4ヶ所にてセンサーカメラを用いたカメラトラップ調査を長期間実施し、出現する鳥類種を集計した。
		北東北三県の希少猛禽類の繁殖状況に関する研究	高橋 雅雄	オジロワシ（環境省 RL：VU，県 RL：C ランク）について青森県にて営巣環境に関する野外調査を実施し、投稿論文の執筆を進めた。チゴハヤブサ（県 RL：D ランク）について、岩手県・青森県・秋田県にて営巣環境と繁殖成績に関する野外調査を実施した。
		岩手県と青森県のカワウの保全管理に関する研究	高橋 雅雄	岩手県において、カワウの生息状況（特に繁殖分布と営巣数）に関する野外調査を実施し、その結果を投稿論文にまとめた。また、岩手県と青森県において駆除されたカワウから胃内寄生虫を採集し、種同定を実施した。さらに、近縁種ウミウの岩手県内の生息状況（繁殖分布と営巣数）に関する野外調査を実施し、その結果を投稿論文にまとめた。
		岩手県のケリの生息状況に関する研究	高橋 雅雄	水田環境に生息するケリ（チドリ目チドリ科，環境省 RL：DD，県 RL：C ランク）について、岩手県内の繁殖分布・営巣数・繁殖成績に関する野外調査を実施した。
		岩手県立博物館周辺の哺乳類と鳥類の生息状況に関する研究	高橋 雅雄	館周辺の雑木林において、月 1 回程度のルートセンサス・随時観察・巣箱設置を実施し、観察した鳥類を記録した。また、センサーカメラを用いたカメラトラップ調査を各季節に実施し、生息する哺乳類の種類相と季節変化を明らかにした。哺乳類の調査結果は岩手県立博物館研究報告へ投稿した。
	地域の無脊椎動物相と生態に関する研究	県内の無脊椎動物相の研究	渡辺 修二	盛岡市及び滝沢市に生息するトンボの分布状況について、岩手大学の佐々木先生との共著で当館研究報告へ投稿した。岩手県で 40 年ぶりとなるコガネグモを大船渡市で採集し、産卵等を確認したことを東京蜘蛛談話会の会誌 KISHIDAIA に投稿した。
		県内の無脊椎動物の生態に関する研究	渡辺 修二	ワスレナグモが大船渡市と陸前高田市に分布することを確認した。生息地では巣穴の傾きの様子を測定した。1 頭を採集・飼育し、巣穴形成や捕食の様子を記録した。調査した結果を日曜講座で発表した。
	地域の植物相と植物生態に関する研究	県内の絶滅危惧植物を中心とする植物の分布と生態に関する研究	鈴木まほろ	いわて RDB の改訂に向けて、県内の絶滅危惧植物の生育環境や個体数について調査を行った。結果は県自然保護課などに報告した。早池峰山の植物に対するニホンジカの影響及び早池峰山におけるニホンジカの行動を調査し、日本生態学会東北地区大会及び同全国大会においてポスター発表を行った。
		県内の植物相の研究	鈴木まほろ	『岩手県植物誌』の改訂に備え、県内の植物相について標本・文献調査を行い、情報を整理した。
	自然史（地質・生物史）	自然史標本の管理・公開に関する研究	自然史標本の管理・公開、成果の発信に関する研究	望月 貴史 佐藤修一郎 鈴木まほろ 渡辺 修二 高橋 雅雄
考古	考古学史の研究	岩手県における埋蔵文化財保護、研究のあゆみ	濱田 宏 金子 昭彦 米田 寛	当館所蔵の鳥畑壽夫コレクション、草間俊一コレクション、小岩末治コレクションを通じて、昭和 30 年代の研究動向や傾向を調査し、資料収蔵目録として公開する。

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	内容
	先史時代の考古学的研究	縄文時代の土偶の研究	金子 昭彦	本年度もコロナ渦にあり資料調査に行けなかったため、これまでの研究成果を論文としてまとめた(右題名)。「東北地方・縄文晩期の土偶(7)」。「東北地方・縄文晩期の土偶関連遺物(7)」。「縄文時代の人物画」。「遮光器型・土版型土面」。
		縄文時代の環状列石を含む配石遺構の研究	濱田 宏 金子 昭彦 米田 寛	3年目を迎えた洋野町西平内I遺跡の野外調査では、新たな集石遺構が複数確認され新たな成果が加えられた。また、配石遺構を有する県内遺跡の基礎データの収集にも着手した。当該遺跡の発掘調査報告書は、令和5年度中に発刊する予定である。
	歴史時代の考古学的研究	陥し穴状遺構についての研究	濱田 宏	溝状をなす陥し穴状遺構について、その構造に関わると思われる底面の杭穴の位置や個数等、基礎データを収集した。
		古代の琥珀研究	米田 寛	岩手県内遺跡出土琥珀の集成を行い、その流通の背景を探る。成果については日曜講座等で発表する。
歴史	古代～中世史の研究	古代・中世の東北史の研究	目時 和哉	県外での調査が制限されたため、主に文献資料の読み直しを行った。その過程で得られた新たな作業仮説(南部氏・安藤氏の相克の意義付け、常陸と陸奥国との関係性)を軸として、それらをテーマとした展覧会の実施も念頭に置きつつ、調査を継続することを予定している。
	近世史の研究	盛岡藩における商人の活動についての研究	昆 浩之	館蔵の諸資料等から盛岡藩の町人(商人・職人)の活動等について考察した。盛岡藩お抱え職人の作品の所在も今後の調査課題としたい。
	古銭・紙幣の研究	昭和の古銭・紙幣についての研究	菅野 誠喜	盛岡市内の歴史講座で江戸時代からの紙幣・岩手の銀行の変遷を紹介した。3月開催のテーマ展で岩手の銀行の変遷を大型パネルで展示した。
	岩手の地域研究	気仙地方の歴史研究	菅野 誠喜	気仙地方の歴史の痕跡をたどる調査を行い、気仙三十三観音の紹介を40周年展で展示公表した。また、文化史展示室に写真パネルを展示した。
	近代・現代史の研究	岩手から移り住んだ人たち	工藤 健	江戸時代後半から明治時代にかけての、本県出身者の北海道開拓について、個々の事例を調査した。調査した結果を他県の例と比較し、政治や社会の状況と関連付けて考察した。今後も調査を続ける予定である。
	災害史・災害文化に関する研究	岩手県の災害の歴史に関する研究	目時 和哉	東北地方沿岸部に所在する津波に関する石造文化財について追加調査を行い、青森県分の情報を研究報告紙上にて公開した。岩手県・宮城県分についても順次公開を予定している。
	被災文化財に関する研究	津波被災文化財の再生と利活用に関する研究	目時 和哉	ICOM-DRMC エクスカーションの企画・運営を通して、東日本大震災における文化財の被災と再生の過程と現状について、国内外に発信した。また、ふるさと再生プロジェクトの事業の一環として、長野市・川崎市・陸前高田市を結んだワークショップを開催することで、地域や災害種をまたいだ文化財保全活動の協働化に資するよう努めた。
	有形民俗資料に関する研究	岩手の民具一般に関する基礎研究	木戸口俊子 近藤 良子 川向富貴子	今年度の県内の民具全般における資料収集は約180点となり、10月～12月中旬にかけて農具の展示を行った。また、農具に関わる雑穀等の現地調査や聞き取りなどの調査研究も進めた。
	無形民俗資料に関する研究	岩手の無形民俗一般に関する基礎研究	木戸口俊子 近藤 良子 川向富貴子	無形民俗資料全般については、今年度計画していた音源資料のデジタル化を進めたほか、郷土資料のレプリカ作成を行い常設展示した。

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	内容
民俗	民家の保存と活用に関する研究	岩手の民家に関する研究	近藤 良子	今年度は、耐震工事に伴い民家の伝統構法について改めて研究し、工事終了後に公表方法について検討する予定だったが、未だ工事中のため検討に至っていない。工事終了後に改めて検討したい。
	民俗芸能に関わる研究	岩手の操り人形に関する研究	木戸口俊子	今年度は、当館収蔵の鈴江家の操り人形（古文書を含む）の県指定に関わって、改めて資料確認、文献調査を行った。
	画像資料の保存活用に関する研究	森口多里写真コレクションに関する研究	川向富貴子	画像を整理し文化史展示室への展示（展示替えあり）を行った。
文化財科学	文化財の保存修復に関する研究	津波被災資料の安定化処理法および抜本修復法に関する研究	丸山 浩治 山崎 遙	合板製資料に対して安定化処理を実施し、浸漬法が可能かつ極めて有効であることを確認した。
		安定化処理に使用する薬剤が資料に与える影響	山崎 遙	安定化処理工程の中で使用される薬剤(ブクキーパー)の資料に対する経過状態を観察し、その有効性を確認した。
	文化財科学的手法を用いた考古資料の含有物質に関する研究	沿岸部出土土器に残存する塩分に関する研究	丸山 浩治	陸前高田市立博物館が所蔵する津波被災土器の塩素濃度を蛍光X線分析装置を用いて測定し、基礎データの蓄積を進めた。
	文化財科学的手法を用いた前近代における物質文化の変遷に関する研究	文化財科学的手法を用いた自然災害史研究	丸山 浩治	安比川流域における動態追跡のためのデータ蓄積と分析を進めた。

表 5.(3)-2 令和3年度調査研究に関わる製作・同定

部門	事業名	内容
地質	岩石標本箱製作	木箱（浅箱）9個を作製した
	岩石薄片製作	岩石薄片10枚を作製した

Ⅰ. 館内調査研究報告会

〔日 時〕 令和4年2月28日（月） 9：30～16：30

9：30～9：35 開会行事 挨拶 高橋 廣至（館長）

I 個別調査研究

午前の部

9：45～10：00 川向富貴子「当館における博学連携の意義と課題Ⅰ—体験学習室資料の製作をとおして—」

10：00～10：15 近藤 良子「当館における博学連携の意義と課題Ⅱ—体験学習室資料の製作をとおして—」

10：15～10：30 木戸口俊子「江戸時代の操り人形」

10：30～10：45 望月 貴史「岩手県内で産出した古生代の植物化石」

11：00～11：15 佐藤修一郎「和賀川下流域から採取した植物化石に関する報告」

11：15～11：30 高橋 雅雄「県立博物館周辺に生息する哺乳類」

11：30～11：45 渡辺 修二「湿地地表を徘徊するクモと昆虫」

11：45～12：00 鈴木まほろ「早池峰山におけるニホンジカ対策」

午後の部

13：00～13：15 米田 寛「北上川流域産黒曜石の研究」

- 13：15～13：30 金子 昭彦「補修孔の評価と後北式土器の製作者—古墳時代初頭前後の北海道からの移民—」
- 13：30～13：45 濱田 宏「九戸郡洋野町『西平内 I 遺跡』調査報告 3」
- 13：45～14：00 丸山 浩治「合板製資料の安定化処理・修理」
- 14：15～14：30 山崎 遙「紙資料への脱酸処理の有効性 2」
- 14：30～14：45 工藤 健「岩手県民の北海道開拓」
- 14：45～15：00 昆 浩之「御蒔絵師山口儀作について」
- 15：15～15：30 目時 和哉「郷土の歴史を一寸だけ俯瞰してみる—教育普及事業をとおして—」
- 15：30～15：45 菅野 誠喜「実業家金田一勝定の社会福祉活動」

II 部門別調査研究

- 15：45～16：15 [地質・生物・考古・歴史・民俗・文科]
- 16：15～ 閉会行事・講評 小平 忠孝（社会教育等推進参与）
高橋 嘉行（岩手県文化振興事業団理事長）

ウ. 調査研究成果の公表

(ア) 『岩手県立博物館研究報告』第 39 号

仕様：A4 判 PDF・58 頁、発行日：令和 4 年 3 月 31 日、当館 HP にて公開

- 1 高橋 雅雄「カメラトラップ法で確認された岩手県立博物館周辺の陸棲中型・大型哺乳類相」,1-7p
- 2 佐々木 全・佐々木悠太・渡辺 修二「岩手大学キャンパスのトンボ相—準絶滅危惧種マダラヤンマの採集記録を含めて—」,7-12p
- 3 佐々木 全・佐々木悠太・渡辺 修二「岩手県滝沢市のトンボ相—大釜・篠木・大沢・鶴飼地域を調査地として—」,13-18p
- 4 目時 和哉「青森県太平洋沿岸部に所在する近代津波モニュメントの研究」,19-33p
- 5 近藤 良子・川向富貴子・米田 寛「岩手県立博物館における博学連携の意義と課題—体験学習室資料の製作をとおして—」,34-58p

(イ) 『岩手県立博物館調査研究報告書』

令和 3 年度の発行はなし

(ウ) 学会・研究会・他機関での発表、および著作（* 共同発表の際の当館職員）

a. 口頭発表等

- ・鈴木まほろ*・浅川 崇典・熊谷 賢・丸山 浩治*・目時 和哉*：岩手県陸前高田市の被災博物館資料の救出と修復に関わるネットワークについて、ICOM-DRMC 年次大会，2021 年 11 月，東京都
- ・鈴木まほろ：早池峰山塊におけるニホンジカの日周・季節移動パターン。日本生態学会東北地区会第 66 回大会，2021 年 11 月，オンライン開催
- ・鈴木まほろ：高山帯におけるニホンジカの行動パターン —高山帯でシカを捕獲できるか？—。

日本生態学会第 69 回全国大会, 2022 年 3 月, オンライン開催

- ・田部田 勉・高橋 雅雄*・穂刈 祐一・斎藤 息吹・東 淳樹: 岩手県におけるカワウとウミウの繁殖分布. 日本鳥学会 2021 年度大会, 2021 年 9 月, オンライン大会
- ・望月 貴史: 三陸の大地の成り立ち. ジオサイトから見る世界遺産「是川石器時代遺跡」と「崎山貝塚」・「気仙縄文遺跡」, 2022 年 2 月, オンライン開催

b. 論文・報文

- ・安藤 奏音・渡辺 修二* (2022) 龍泉洞観光客の観光中の行動と環境意識および観光ロイヤリティとの関係. 日本洞穴学研究所研究報告, 39: 21-40. 査読無し
- ・金子 昭彦 (2022) 東北地方・縄文晩期の土偶関連遺物(7). 岩手考古学, (33):19-26. 査読無し
- ・金子 昭彦 (2022) 東北地方・縄文晩期の土偶(7). (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要, (41): 1-24. 査読無し
- ・佐々木 全・渡辺 修二* (2022) 岩手県盛岡市「尾入野湿性植物園」のトンボ相一小学校生活科や理科における教育利用のための基礎資料として一. 岩手大学教育学部研究年報, 81: 83-95. 査読無し
- ・高橋 雅雄 (2022) 青森県八戸市中心街で繁殖するチゴハヤブサの観察. 青森自然誌研究(27):36-38. 査読あり.
- ・本多 里奈・阿部 誠一・高橋 雅雄*・東信行 (2022) 青森県におけるカワウの集団繁殖地の長期変動と創設過程. 日本鳥学会誌(71). 査読あり.
- ・目時 和哉・鈴木まほろ・丸山 浩治 (2022) 東日本大震災後の岩手県内の博物館の文化財レスキュー活動について. Musée, 128: 10-11. 査読無し
- ・望月 貴史*・猪瀬 弘瑛 (2022) 福島県いわき市の双葉層群足沢層から産出した生痕化 *Helminthopsis* について. 福島県立博物館紀要, 36: 27-31. 査読無し

c. 新聞の著作その他

- ・目時 和哉「辺境という希望―「食べる」歴史へのご招待」『岩手日報』(いわてリレーエッセー 散歩道) 2022 年 3 月 26 日
- ・読売新聞岩手版「ミュージアムレポート」
 - 望月 貴史 「岩手の化石 4 億年前の生物も」 2021 年 4 月 2 日
 - 渡辺 修二 「過去資料から再発見 クモの調査記録」 2021 年 4 月 16 日
 - 米田 寛 「黒曜石 東北の地域間交流示す」 2021 年 5 月 7 日
 - 丸山 浩治 「吉田家文書 過去の津波被害記す」 2021 年 5 月 21 日
 - 鈴木まほろ 「三陸の由来 津波沿岸を印象づける」 2021 年 6 月 4 日
 - 近藤 良子 「「エビス」豊漁の神様」 2021 年 6 月 16 日
 - 高橋 雅雄 「三陸海岸の海鳥 生物の多様性 展覧会で」 2021 年 7 月 2 日
 - 昆 浩之 「葛西氏と千葉氏 ゆかりの地 親密さ推察」 2021 年 7 月 16 日
 - 渡辺 修二 「ワスレナグモ 発見困難「忘れぬよう」」 2021 年 7 月 30 日
 - 菅野 誠喜 「一関藩と八戸藩 仙台藩・盛岡藩から分割」 2021 年 8 月 6 日
 - 山崎 遙 「文化財害虫 厄介な存在対策様々」 2021 年 8 月 20 日
 - 目時 和哉 「閉伊街道と牧庵鞭牛 難所改良に生涯捧ぐ」 2021 年 9 月 3 日
 - 望月 貴史 「ゴンドワナ大陸 化石示す大地のつながり」 2021 年 9 月 17 日
 - 濱田 宏 「青虎石製の磨製石斧 丈夫で美しい縄文石器」 2021 年 10 月 8 日
 - 川向富貴子 「お地蔵様 多様な信仰各地に」 2021 年 10 月 22 日
 - 佐藤修一郎 「津波観測網 防災へ最先端の備え」 2021 年 11 月 5 日
 - 丸山 浩治 「弥生後の石器 他地域との交流象徴」 2021 年 11 月 19 日

金子 昭彦 「教科書と違う歴史 技術や農耕地域で格差」 2021年12月3日
 工藤 健 「住所表記 「地割」の起源江戸時代に」 2021年12月17日
 米田 寛 「交易品としての琥珀」 2022年1月7日
 鈴木まほろ 「トラノオ 名に「トラ」がつく植物」 2022年1月21日
 近藤 良子 「子守神 安産や子の健康祈る」 2022年2月4日
 高橋 雅雄 「哺乳類の生息調査 多様な野生動物を撮影」 2022年2月18日
 菅野 誠喜 「金田一家 政財界で活躍名士輩出」 2022年3月4日
 木戸口俊子 「岩手の人形浄瑠璃 藩主に披露し興行権」 2022年3月18日

- ・鈴木まほろ 「東日本大震災で被災した岩手県内の自然史標本について」『第7回全国史料ネット研究交流集会 in 仙台 報告書』第7回全国史料ネット研究交流集会実行委員会（編） 2022年2月
- ・高橋 雅雄 「鳥類学から見た省亭」 山下裕二・古田亮 監修『別冊太陽 日本のこころ 296 渡辺省亭 花鳥画の絢爛』平凡社, 2022年2月
- ・渡辺 修二 「滝沢市文化財調査報告書第36集『滝沢市カワシンジュガイ生息調査報告書』」滝沢市教育委員会文化振興課 2022年3月

エ. 受託研究実施状況

岩手県立博物館では、平成2年度から文化財の自然科学的調査・保存修復に関する受託研究を実施している。平成24年度からは東日本大震災で被災した文化財等の安定化処理および修理を開始した。令和3年度の研究受託実績は表5 (3)-3 に示すとおりである。

表5(3)-3 令和3年度受託研究実施実績

受託内容	件数	委託機関
被災紙製資料安定化処理及び修理業務	1	市町村教育委員会
被災考古資料安定化処理業務	1	市町村教育委員会
被災鳥羽源藏コレクション安定化処理及び修理業務	1	市町村教育委員会
被災自然史関連資料修理業務	1	市町村教育委員会
被災昆虫標本修理業務	1	市町村教育委員会
資料の生物学的劣化防除（くん蒸）業務	10	市町村教育委員会、資料館等

オ. 研究受託事業（岩手における環状列石関連遺跡調査）

考古部門では、令和元年度に「岩手における環状列石関連遺跡調査事業」を岩手県教育委員会から受託し、九戸郡洋野町種市に所在する「西平内I遺跡」の発掘調査を、洋野町教育委員会と共同で実施してきた。本事業は5か年計画で進めているが、都合4年間を野外調査と室内整理作業にあて、その後1年かけて調査報告書を作成・発刊する予定である。

縄文時代後期前葉、北海道から北東北にかけては、環状列石をランドマークとする遺跡が複数存在し、当該期におけるこの地域の特徴の一つに数えられている。これらは、世界遺産の構成資産となった著名な遺跡群であるが、この西平内I遺跡も過去2か年にわたる本調査や、その後の各種追加調査等によって、これらに劣らない内容をもつ遺跡と捉えられている。

3回目となる今回の調査では、昨年度ハンドボーリング調査で把握していた地中の礫群の掘削と、その

検出状況から礫の広がりがあると判断された地点へのボーリング調査を実施した。その結果、予想以上の新たな礫の広がりが認められ、礫の集石体である集石遺構を 11 箇所確認した。このことから、現三陸沿岸道路を挟む南北 2 か所に集石遺構が分かれて存在していることが明らかとなった。

平成 30 年 6 月、この西平内 I 遺跡は洋野町の史跡に指定され、現在に至っているが、当事業の残された期間を有効に活用し、更なる遺跡の内容解明に努めていきたい。

カ. 自然史標本データ整備事業

独立行政法人国立科学博物館が運営する科学系博物館情報ネットワークシステムの自然史標本情報検索システムに掲載するため、当館で所蔵する生物標本資料 7,000 件について、データ整理・整形を行い、提供した。

キ. 学術研究貢献活動

当館学芸員が依頼を受けた学術雑誌の査読等、館外の学術研究活動に貢献したものを以下に示す。令和 3 年度は表 5 (3)-4 のとおり学術雑誌の査読を行った。

表 5 (3)-4 令和 3 年度学術雑誌の査読受託数

学芸員名	学術雑誌名	出版元	査読を行った時期
鈴木まほろ	保全生態学研究	日本生態学会	令和 3 年 4 月
高橋 雅雄	Ornithological Science	日本鳥学会	令和 3 年 5 月
高橋 雅雄	Bird Research	バードリサーチ	令和 3 年 6 月
高橋 雅雄	日本鳥学会誌	日本鳥学会	令和 3 年 7 月

ク. 研究協力員制度

当館の調査研究活動の増進に資するため、当館学芸員の推薦により館外研究者を研究協力員として認定し、当館の調査研究等に従事する制度を平成 11 年度から実施している。研究協力員としての活動期間は 3 年間で、申請・審査を経て更新することができる。

令和 3 年度は 1 名の新規委嘱と 1 名の更新が承認された。令和 3 年 3 月末現在で 12 名（下記一覧、順不同）となっている。

○研究協力員（新規）

- 1 山岸千人（盛岡第一高等学校教諭）：山岸定次郎資料の整理 [地質部門]

○研究協力員（継続）

- 2 吉田 充（元当館学芸第三課長・生涯学習文化財課文化財専門員）：大鉢森山周辺に分布する母岩変性岩類から産出する金属資源（金）の研究等[地質部門]
- 3 大石 雅之（元当館学芸部長）：岩手県産脊椎動物化石を中心とする古生物学的研究[地質部門]
- 4 工藤 紘一（元当館学芸第二課長）：岩手の年中行事をはじめとする民俗事象の研究 [民俗部門]
- 5 後藤 友明（岩手大学農学部准教授）：魚類分類学 [生物部門]（令和 4 年 3 月逝去）
- 6 玉山 光典（盛岡中央高等学校助教諭）：日本（特に岩手県）の変形菌相 [生物部門]

- 7 大友 令史 (岩手県病虫害防除所) : 病虫害の生態的研究 [生物部門]
- 8 藤井 千春 (元当館主任専門学芸員・前沢高等学校教諭) : 北日本における発光生物の生態学的研究 [生物部門]
- 9 吉田 裕生 (元当館学芸第二課長) : 東北地方産鉱物の記載鉱物学的研究、とくにマンガン硼酸塩・硫酸塩鉱物の研究 [地質部門]
- 10 千葉 武勝 (元岩手県病虫害防除所長) : 昆虫標本の整理、とくに鞘翅目、膜翅目昆虫の同定、標本作成、調査研究手法に関する助言 [生物部門]
- 11 沼宮内信之 (日本森林技術協会) : 北東北の植物相 (特にスゲ属) [生物部門]
- 12 佐々木康裕 (元当館専門学芸員・盛岡第一高等学校教諭) : 古代・中世における岩手と中央政治との関係に関する研究 [歴史部門]

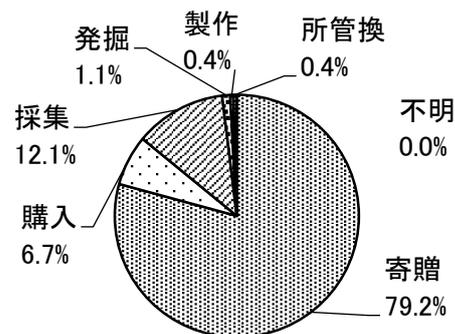
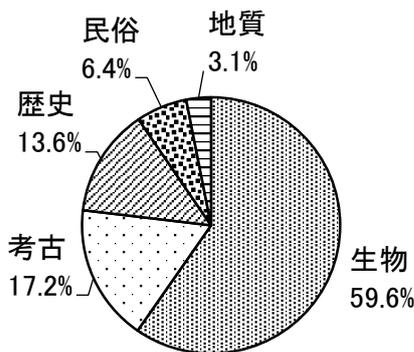
(4) 資料収集保管活動

ア. 資料の収集整理

令和3年度3月末現在の登録資料数は13,913点で、開館以降の累計は347,298点にのぼる(表5(4)-1)。県内外の方々のご厚意によって今年度当館が受贈した資料は37件、点数として明確になっているもので7,989点と昨年よりも大幅に増えている(表5(4)-2)。また、これらの寄贈資料の中では、昆虫標本が31箱、一式として受け入れたものが4件あり、点数はさらに増える見込みである。この傾向は今後も続くと思われる。収集スペースの確保が緊急課題である。

表5(4)-1 令和3年度資料登録状況

	年度区分	地質	生物	考古	歴史	民俗	区分計
採 集	令和2年度末累計	2,998	37,565	922	3	178	41,666
	令和3年度計	265	122	-	-	7	394
	累 計	3,263	37,687	922	3	185	42,060
発 掘	令和2年度末累計	209	-	3,470	-	-	3,679
	令和3年度計	-	-	-	-	-	-
	累 計	209	-	3,470	-	-	3,679
寄 贈	令和2年度末累計	5,509	149,696	55,085	32,915	18,585	261,790
	令和3年度計	247	6,829	25	6,152	167	13,420
	累 計	5,756	156,525	55,110	39,067	18,752	275,210
購 入	令和2年度末累計	1,398	12,176	267	6,975	2,520	23,336
	令和3年度計	-	-	2	-	3	5
	累 計	1,398	12,176	269	6,975	2,523	23,341
製 作	令和2年度末累計	115	551	95	114	471	1,346
	令和3年度計	-	33	-	-	34	67
	累 計	115	584	95	114	505	1,413
所管換	令和2年度末累計	1	84	-	1,104	278	1,467
	令和3年度計	-	-	-	-	-	-
	累 計	1	84	-	1,104	278	1,467
不 明	令和2年度末累計	-	101	-	-	-	101
	令和3年度計	-	-	-	-	27	27
	累 計	-	101	-	-	27	128
合 計	令和2年度末累計	10,230	200,072	59,839	41,111	22,032	333,284
	令和3年度計	512	6,984	27	6,152	238	13,913
	累 計	10,742	207,157	59,866	47,263	22,270	347,298



分野別収蔵点数の割合

受入方法別収蔵点数の割合

新規登録資料点数は生物部門が最も多く、6,984 点で全体の約 50.2%を占める。

地質部門では新生代の海生動物化石、古生代の植物化石など 512 点を、生物部門では千葉武勝氏の二戸市稲庭岳調査関連の昆虫標本、武田眞一氏のスマレ標本、令和 2, 3 年度に製作した鳥類の仮剥製など 6,984 点を、歴史部門では、金田一家旧所蔵の古貨幣など 6,152 点を、民俗部門では同年に寄贈された銭湯関係資料、祭り半てんなど 238 点を、考古部門では葛巻町出土の考古資料 27 点をそれぞれ登録した。

毎年増加する膨大な資料の登録を円滑に進め、将来的に多くの資料情報を当館ホームページ上で公開することを目指し、資料登録は平成 24 年 4 月から早稲田システム開発(株)が提供する I. B. Museum SaaS により行っている。本システムは文字情報と画像情報をデータベース上で統合できること、登録情報のうち選択した部分のみをインターネット上で公開できること、クラウド型システムのため自館でのハードの更新が不要であることなどの利点がある。また、東日本大震災でクローズアップされたクラウド型システムの利点として、登録情報が遠隔地で保管されるため、災害等によるデータ喪失の危険性が大幅に軽減されている。このシステムを使用し、現在 1,026 点の当館所蔵の資料情報を公開中である。

表 5 (4)-2 令和 3 年度の主な受贈資料

部 門	寄贈者 (敬称略)	居住地 所在地	資 料 名	数量
地 質	新沼 好一	大船渡市	大船渡市日頃市産石炭紀サンゴ化石	2
	木沢 順子	宮古市	岩泉町茂師海岸産珪化木化石	1
	岩手大学理工学部	盛岡市	岩手大学工学部標本 主として岩手県産化石	1,007
生 物	盛岡中央高校	盛岡市	変形菌標本	474
	角掛 智	盛岡市	オオフウチョウ 本剥製	1
	千田 典文	一関市	へび類 他 標本	16
	青山 之也	浦安市	チョウセンアカシジミ標本	21 箱
	佐々木悠太	滝沢市	マダラヤンマ	1
	金野 好純	一関市	オオフウチョウ 本剥製	1
	阿部 博和 佐々木あゆ 伊藤 えみ	矢巾町	カイアシ類標本	2
	高橋 護	北上市	タイマイ 剥製	1
	砂田比左男	陸前高田市	サンリクコケシマグソコガネ等	111
	伊達 功	盛岡市	昆虫標本	10 箱
	小田 公良	久慈市	蝶標本	一式
	吉田 修次	盛岡市	パノラマ写真等	一式
	神吉 隆行	大槌町	モンシロモドキ、ツシマトリノフンダマシ	2
	渋谷晃太郎	滝沢市	書籍	53
	阿部 博和	矢巾町	ミジンコ類標本、ヒモムシ	2
	歴 史	野崎 他夫	盛岡市	『婦人倶楽部』、『よみすて文庫』、『散り散らず』
樋口 壽夫		小樽市	杯 (昭和 3 年陸軍特別大演習)	1
—		—	軍帽 (近衛歩兵用) 付「栄光の近衛歩兵第一聯隊」	1
中川 正人		仙台市	盛岡市地図、盛岡市産業要覧、一関市相馬屋チラシ	3
菅原 睦子		八幡平市	戦争関係資料 (陸軍潜水輸送艇写真、腕章、帽子、国旗、部隊章ほか)	17
齋藤菜穂美		滝沢市	醫道重宝記	1
—		—	古貨幣	6,099
鈴木 啓明		盛岡市	金時絵重箱、小盆、秋草時絵半月盆、行器、盛岡電気紋入盆	23
民 俗	—	—	8 ミリ撮影機	1
	鈴木 聡子	逗子市	宝永六年銘文書 (バラ)	3
	赤坂 義悦	盛岡市	編み機	一式
	高橋 貞子	盛岡市	手あぶり、スピーカー、ラジオ、ランプ、ランプ台、赤子衣装	9

部門	寄贈者 (敬称略)	居住地 所在地	資 料 名	数量
	伊藤 佳子	北上市	ツマゴ、ワラジ、ゾウリ、エジコ編み見本	9
	—	—	捏ね鉢、片口、弁当箱	3
	—	—	民具	一式
	箱崎 安彦	紫波町	花巻人形	26
	高橋 清八	盛岡市	銭湯関係資料	31
	久保居光正	盛岡市	紡毛機、業務用アイロン、マネキン、ネクタイ掛け、アイロン台、ホームスパン背広	9
	千葉 健太	盛岡市	マッチ箱	73

計 37 件 7,989 点+31 箱ほか一式

<譲渡・移管>

受入先	資 料 名
岩手県立水沢農業高校	地質資料(岩石・化石ほか)、考古資料(土器・石器ほか)、植物標本、農業教育用教材ほか
—	民俗資料(農具・民具ほか)

表 5 (4)-3 資料の製作

部門	名 称	内 容 の 概 略
生 物	鳥類本剥製	タゲリ、タマシギ、カモメ、ホオアカ他計 12 点 令和 4 年度生物部門テーマ展「水辺の生きもの」での展示のための製作
	カエル類レプリカ	トウキョウダルマガエル、ツチガエル計 2 点 令和 4 年度生物部門テーマ展「水辺の生きもの」での展示のため製作
	鳥類仮剥製	クロロシジロウミツバメ、アオゲラ他 18 点 形態学的研究および長期保存のため製作
民 俗	郷土菓子レプリカ	きりせんしょ、雛まんじゅう、笹巻き、くるみ味噌つけタンポ他 5 種類計 18 点 常設展示資料として製作
	音源資料のデジタル化	昭和 58 年に沿岸市町村(岩泉町、大船渡市、釜石市、住田町、田野畑村、普代村、山田町)で採録した民謡のカセットテープ 計 10 本

表 5 (4)-4 機器類の保守点検と修繕

項目	部門	機器名または内容
保守点検	歴史	マイクロリーダープリンター
	文化財科学	文化財科学実験システム(文化財分析室、器具庫、X線分析室の空気清浄化システム及び局所排気装置)、表面分析装置(蛍光X線分析装置、X線回折装置)、保存処理機器(真空凍結乾燥機、真空樹脂含浸装置)、博物館資料滅菌システム
修 繕	文化財科学	気化式加湿器、ブックキーパースプレーシステム、電気給湯器
その他	文化財科学	施設くん蒸消毒、文化財科学作業環境測定、使用済薬品等廃棄処分

イ. 資料の保管管理

収集整理した資料は部門別または材質別に、第 1～5 収蔵庫で保管される。収集した資料については調査研究が行われ、学術的に重要と判定されたものが博物館資料として登録される。調査研究の過程で得られた学術データはデータベース化される。登録資料および学術データは常設展示や特別展示で公開されるほか、「収蔵資料目録」の刊行、資料貸出し等をとおり、他機関における活用にも積極的に協力している。

(ア) 資料の貸出

本年度についても、博物館や出版社をはじめとする様々な機関から、所蔵資料および写真類について多数の貸出の要請があり、実物資料については20件・186点、画像(写真)資料については58件・245点の貸出を行った。博物館関係機関はもとより、教科書および学術書への掲載を目的とする借用が多くを占めた((表5(4)-5)・表5(4)-6)。

表5(4)-5 資料の貸出

担当部門	貸出先(所在地)	資料名	数量
地質	奥州市牛の博物館	鯨類肋骨片化石、オンマイシカゲガイ化石、タカハシホタテ化石、ツメタガイの一種化石、ホソバイチョウガニ化石、広葉樹葉化石、ブナの葉化石、カバノキ?属の一種の葉化石、ヒメマスオ化石、ゴイサギガイ化石、オウシュウイヌスギ葉化石、ヒトデ類化石、センスガイの一種、生痕化石、 <i>Buccim?Nossarius sp</i>	22
	福島県立博物館	一関市東山町産の標本を含む岩手県産アンモナイト化石群	24
生物	奥州市牛の博物館	岩手の糞虫(標本箱)、マメダルマコガネ	4
	秋田県立博物館	ドバト、コジュケイ、アメリカミンクの毛皮、ヌートリア、マンダーストヘビ、ハリネズミ、マダラヒメグモ雌	7
考古	山田町教育委員会	ぴかりん(目が光る遮光器土偶模型)	1
	北上市立博物館	北上市和賀町愛宕山遺跡出土資料(当館発掘資料)	6
	八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館	赤浜貝塚骨製垂飾り、中沢浜貝塚腰飾り、貝鳥貝塚土偶 ほか	9
歴史	もりおか歴史文化館	社頭鶏図(南部利敬)、鍾馗図(南部利幹)、書(南部利敬・南部信侯)、和歌三神像(南部利敬)	7
	盛岡市先人記念館	盛岡銀行預金通帳ほか金田一家関係コレクション	58
	花巻市博物館	スケッチ帳(川口月村)、奥羽寒図記(No.1)(川口月村)、盛岡駅(川口月村)、鉄道沿線の風景画(No.1)(川口月村)	4
	盛岡市先人記念館	東京オリンピックノート	1
	石川啄木記念館	奥羽寒図記(No.2 第四~六巻)(川口月村)、スケッチ帳(川口月村)	1
	平泉世界遺産ガイダンスセンター	正音寺毘沙門天立像レプリカ、蓮華型馨、金銅懸仏ほか	7
	国立アイヌ民族博物館	アイヌ風俗画、エトロフ絵図(郷右近家資料)、エトロフ海浜図(同)	3
民俗	奥州市牛の博物館	カンマン(種子) 疱瘡御守護版木、カンマン(種子) 疱瘡御守護御札	2
	宮古市教育委員会	民謡緊急調査音源(媒体:カセットテープ)、方言収集緊急調査(媒体:カセットテープ)	24
	宮古市教育委員会文化課市史編さん室	森口多里コレクション音源(媒体:オープンリール)	1
	一関市教育委員会	村上護朗制作「明治末期の婚姻習俗」(媒体:DVD)	1
	盛岡市立上田小学校	草鞋	3
	岩手県立大学短期大学部 齋藤 愛	岩手県立博物館制作「イラクサ織~材料の採取から機織まで」(媒体: DVD)	1

計 20件 186点

表5(4)-6 画像資料の貸出(使用許可含)

部門名	貸出先	資料名	点数
地質	株式会社ムーブ	モシリユウ上腕骨(複製)、マメンキサウルス全身骨格、大船渡市産古生代シルル紀サンゴ化石、早池峰複合岩体蛇紋岩、野田玉川鉱山産バラ輝石、野田玉川鉱山産軟マンガン鉱、松尾鉱山産硫黄、白雲母ベグマタイト、玉山金山産水晶	9
	株式会社IBC 岩手放送	モシリユウ上腕骨、マメンキサウルス全身骨格、モシリユウ復元図	3
	めんこいエンタープライズ	モシリユウ復元図	1
	TBS テレビ	マメンキサウルス全身骨格	1

部門名	貸出先	資料名	点数
	合同会社デライトフル	モシリユウ復元図、マメンキサウルス全身骨格	2
	株式会社ベネッセコーポレーション	ハナイズミモリウシ全身骨格	1
	数研出版株式会社	アンモナイトの断面図	1
	株式会社テレビ岩手	モシリユウ復元図	1
	宮古市三陸ジオパーク推進協議会	蛇紋岩	1
	神栖市歴史民俗資料館	マエサワクジラ全身骨格	1
考 古	株式会社ムーブ	清水下遺跡石包丁レプリカ	1
	村上 恭通	小林家大槌製鉄絵巻	1
	中央出版株式会社	豊岡遺跡出土遮光器土偶	3
	株式会社フジテレビジョン	総合展示室「いわての夜明け」縄文時代の人々	1
	公益社団法人日本文化財保護協会	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	株式会社世界文化社	遮光器土偶	1
	岩手日報社文化部	萩内遺跡出土大型土偶頭部、東裏遺跡出土屈折像土偶、休場遺跡出土土偶（早期）	3
	読売新聞東京本社社会部中高生新聞編集室	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	細川 隆雄	岩手町豊岡遺跡出土遮光器土偶	1
	鮫島 圭代	豊岡遺跡出土遮光器土偶、HP 掲載岩手県立博物館外観・岩手山の眺め、同掲載）総合展示室「いわての夜明け」「いわての歩み」「庶民のくらし」展示室風景	6
	東北大学大学院文学研究科館内魁生	沼崎遺跡出土遺物	1
	I Kデザイン・株式会社小学館	手代森遺跡出土遮光器土偶、萩内遺跡出土大型土偶頭部	2
	佐々木清文	常設展示延鉄	1
	NHK 大阪拠点放送局	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
歴 史	株式会社ホビージャパン刀剣画報編集部	脇差 銘手柄山甲斐守正繁	2
	株式会社デーリー東北	南部氏供養塔（浄光寺）	1
	振角 卓哉	鯰尾兜	1
	近江日野商人ふるさと館（旧山中正吉邸）	鯰尾兜	1
	K & Bパブリッシャーズ	盛岡城下鳥瞰図	1
	盛岡市都南歴史民俗資料館	槍 銘 濃州之住長俊、金小札茶糸緘二枚胴具足	2
	めんこいエンタープライズ	盛岡藩参勤交代図巻	1
	もりおか歴史文化館	参勤交代行列図	1
	株式会社岩手日報社	後三年合戦絵巻 下巻（金沢柵の陥落部分）	1
	菊池 眞市	「鈴木（葛西）家文書」内「廻達等書留」所収 生保内口戦場より橋場関門迄山中之図	1
	東北「道の駅」連絡会	蓑虫山人の肖像写真	1
	株式会社平凡社	木造聖観音立像写真（天台寺蔵）	1
	石川啄木記念館	奥羽寒図記（No.2、第4～6巻）（川口月村）	1
	雫石町教育委員会事務局生涯学習スポーツ課	雫石町延宝8年（1680）の塔碑文	1
	星川 龍司	道中記（佐々木藍田）	1
	NHK 制作局 第二ユニット	「私残記」「大村氏絵家系図」	7
	横浜市歴史博物館	毛越寺復元模型	1
	東北福祉大学 下山忍	『みちのくの霊山 桂泉観音天台寺』（昭和62年刊行）口絵2頁目の「聖観音立像」	1
	高橋 進	陸奥日記（一卷～三巻）	3
	石橋 孝夫	北海図志	1

部門名	貸出先	資料名	点数
歴史	佐々木勝宏	鯨尾兜（燕尾形兜）蒲生氏郷所用	1
	もりおか歴史文化館	俵物（複製）	1
	大槌町立図書館	金沢御山大盛之図（佐々木藍田）H27（22）、H28（19）	2
	明治大学 石川日出志	中国古印	3
	株式会社平凡社	蓑虫山人肖像写真	1
民俗	株式会社スカイハイ	花巻市大迫町馬っこつなぎ、遠野市鮎貝馬っこつなぎ、田搔きの様子（森口多里写真コレクション）、野田村泉沢曲がり屋（同）、旧室根村婚礼習俗（同）、旧種市町角の浜駒踊り（同）、沼宮内の駒踊（同）	11
	株式会社IBC 岩手放送	花巻市大迫町馬っこつなぎ、遠野市鮎貝馬っこつなぎ、田搔きの様子（森口多里写真コレクション）、野田村泉沢曲がり屋（同）	6
	東海新報社	岩手県立博物館デジタルアーカイブ猫淵神社絵馬「猫図」	1
	盛岡市都南歴史民俗資料館	銀本小札紫系緞二枚胴具足、旧佐々木家住宅、旧藤野家住宅	3
	えさし郷土文化館	若柳村の田植踊り（森口多里コレ）、水沢町福原の農家（同）、於呂閉志神社の祭典（同）、稲瀬村玉里の藁馬（同）、南都田村の田植踊り（同）、出羽神社の祭典（同）、稲瀬田の神を休ませる（同）、稲瀬田の神を拜む（同）、稲瀬こびる（同）	51
	一般社団法人農山漁村文化協会	しりのげ	1
	山形史談会 下畑利蔵	安政7年田山曆	1
	渡辺 喬	南部絵曆盛岡曆金澤コレクションから嘉永8年盛岡曆、玉山地域の野良着（全身）	2
	株式会社 テレビ朝日	銚子浪分神社絵馬「猫図」	1
文化財科学	テレコムスタッフ株式会社	吉田家 20110403（いわて震災津波アーカイブ「希望」コンテンツ番号 R0000191M002D0000077	1

計 58 件 合計 245 点

（イ）資料の熟覧・撮影等

コロナ禍であったため従前よりも少なかったが、他施設の職員による展示会等の事前調査や研究者による収蔵資料の熟覧・撮影希望も 25 件・278 点あり、これらの業務に各部門で対応した（表 5(4)-7）。

表 5(4)-7 資料調査の熟覧・撮影

担当部門	資 料 名	点数
地 質	シルル紀のサンゴ化石等、デボン紀の化石	数点
	日出島産アンモナイト パラホブリテスの一種？、浄土ヶ浜流紋岩	2
生 物	ハマグリ	1
	クロコシジロウミツバメ	2
考 古	大日向Ⅱ遺跡出土ガラス玉	1
	北上市臥牛遺跡出土資料（小田島禄郎コレクション）	20
	江釣子古墳群五条丸 51 号墳出土轡	1
	二戸市馬立Ⅱ遺跡出土狩猟文土器	1
歴 史	三閉伊日記、南部領閉伊郡之図、明治三陸津波ガラス乾板（末崎仁平撮影：赤十字救援看護師の写真）	4
	佐々木藍田資料	43
	吉田家文書デジタル画像（天保 11 年・文政 2 年・嘉永 2 年）	3
	盛岡藩参勤交代御道具覆	6
	佐々木藍田「道中記」	1
	奥羽寒図記（No.2、第 4～6 巻）（川口月村）、スケッチ帳（川口月村）	2
	野田家文書	1
	太田コレクション中国古印	45
蒔絵師山口家資料、刀 銘 備州長船盛光 應永二十九年十二月日	62	

担当部門	資 料 名	点数
歴 史	佐々木藍田「道中記」(文化 15 年)	1
	黒漆塗笛 (田鶴子等)	5
	大型置時計、三陸大津浪惨状之実況、大海嘯極惨状之図	3
	平澤屏山「アイヌ風俗画」、東山道陸奥松前千島及方州掌覧之図、蝦夷全図、三国通覧図説、エトロフ絵図、エトロフ海浜図	6
	奥羽寒図記 (No.2、第 4～6 巻) (川口月村)、スケッチ帳 (川口月村)	2
	陸奥日記 (一卷～三巻)	3
民 俗	又兵衛まつり人形	1
	盛岡竿	14
	指遣い人形 (鈴江家人形)	8
	神楽面 (早池峰神楽ほか)	11
	紫雲石硯	29

計 25 件 (部門をまたがるものあり) 合計 278 点

(ウ) 収蔵資料目録の刊行

当館収蔵資料を外部の機関や個人が有効利用できるようにすることを目的として、整理・検討が完了した登録資料について、目録を刊行している。しかしながら今年度は、登録数は多かったものの目録作成までは至らなかった。次年度以降、計画的に進めていく予定である。

ウ. 文化財科学部門

岩手県立博物館には、先人から伝えられた貴重な文化財や、自然界の営みを知るうえで重要な自然史標本をはじめとする数多くの学術資料が収蔵・展示されている。これらの資料をできるだけ長くそのままの状態の後世に伝えるとともに、資料が有するさまざまな情報を自然科学的方法で解析し読み解くことを目的として、文化財科学部門が設置されている。

(ア) 資料の保管・管理

博物館資料をできるだけ長く後世に伝えるためには、資料の素材に適した保存環境を整える必要がある。岩手県立博物館では、収蔵庫及び展示室に温湿度記録計を設置し、継続的に温湿度変化を観察している。その結果にもとづき空調機を制御し、さらに必要に応じて除湿機や加湿器を使用しながら、展示室、収蔵庫内の温度を 21～23℃、湿度を 50～60%に維持することに努めている。なお、特に精密な湿度管理を施す必要がある資料については、調湿剤をセットしたエアタイトケースを活用している。

また、資料劣化に関係する化学物質 (ギ酸、酢酸、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、アンモニア) の濃度を定期的に確認し、基準値を超過する箇所については活性炭等の吸着剤を使用して低減を図るなど安定化に努めている。

なお、劣化が進んだ出土金属製品や木製品については、脱酸素剤、調湿剤を入れた透湿抵抗の高いガスバリアフィルムに封入し、劣化の進行防止を図っている。

(イ) 生物学的劣化からの防除

紙製品、木製品、繊維製品、自然史標本等有機物を素材とする資料は、虫やカビにより汚損される心配がある。新たに博物館に搬入される資料には有害な虫やカビが付着している可能性があり、有害生物を駆除することなく収蔵庫や展示室に運び込んだ場合、急激に繁殖する恐れがある。有害な虫やカビから資料を守るため、岩手県立博物館では新規に搬入された資料について、必ず滅菌装置でくん蒸を行っている。令和3年度の滅菌装置によるくん蒸実施状況は、表5(4)-8に示すとおりである。

表5(4)-8 滅菌装置によるくん蒸実施状況

部門	資料種別	数量	単位	備考
地 質	紙製資料	1	件	文書類
歴 史	紙製資料	6	件	文書類
	木製資料	4	件	漆器類
	その他	7	件	戦争関連資料
民 俗	紙製資料	3	件	文書類
	木製資料	14	件	民具、農具他
	その他	53	件	人形、藁製品、編み機、家電類他
生 物	植物標本	18	箱	ドイツ箱
	昆虫標本	156	箱	
	剥製、毛皮等	46	件	文書類
	紙製資料	13	件	
共 通	40周年展借受資料等	42	件	仏像、絵馬、染織品、面、文書他
	企画展借受資料等	3	件	
	トピック展借受資料等	2	件	
被災資料	陸前高田市立博物館所蔵紙製資料	76	箱	

令和3年9月1日から10日まで、密閉くん蒸法により、第1・第2・第3・第4収蔵庫、歴史・古美術整理室及び第2資料登録室、書庫、No4倉庫(第2書庫)、総合展示室、いわて文化史展示室、特別展示室、いわて自然史展示室をくん蒸した。その後、有害な虫やカビの発生源となる空調機の送排風口、収蔵庫の棚及び展示ケース上部に固着する塵埃の除去を行った。なお、令和3年6月及び10～11月には館内の害虫生息調査及び浮遊菌調査を、同年12月及び令和4年2月には浮遊菌調査を実施している。

令和4年度についても、有害な虫やカビの発生を抑制する良好な展示・収蔵環境の確立を図るため、労働安全衛生法および関連諸規則を順守しつつ、生物学的劣化防除のための対策を施す予定である。

エ. 旧藤野家住宅及び旧佐々木家住宅耐震補強工事

岩手県立博物館敷地内に移設されている旧藤野家住宅と旧佐々木家住宅(いずれも重要文化財)の耐震補強工事を下記により実施した。詳細は令和4年度年報にて報告する。

○ 工期

令和3年7月27日～ ※令和4年4月15日引渡し

○ 施工業者

株式会社三衡設計舎、株式会社熊谷工務店、株式会社小松組

○ 会議経過

令和元年8月30日 耐震診断業務打ち合わせ

令和元年9月20日～9月28日 ボーリング調査

令和2年2月12日 耐震基礎診断中間報告

令和 2 年 3 月 16 日	診断報告完了
令和 2 年 7 月 16 日	耐震補強工事方針会議
令和 2 年 12 月 2 日	耐震補強工事第 1 回総合工程会議
令和 3 年 9 月 1 日	耐震補強工事第 2 回総合工程会議
令和 3 年 8 月 3 日~4 月 6 日	耐震補強工事定例会議 (10 回)

(5) 総務企画調整

ア. 総括出版広報

(ア) 印刷物

a. 博物館だより

169号 目次／開館40周年記念特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」表紙／展覧会案内
開館40周年記念特別展 p.2-5／事業報告 博学連携 岩手県立平舘高等学校の生徒さんによる大漁バンテンづくり／活動レポート チャレンジ！はくぶつかん p.6／活動レポート 「縄文いわての環状列石（ストーンサークル）」展の“スピノフ”（関連）展示／活動レポート トピック展 宮古盛岡横断道路 新区界トンネルの石 p.7／インフォメーション p.8

170号 目次／移動展「みる！しる！わかる！三陸再発見 in 宮古」表紙／いわて文化ノート 繰り返す災禍と博物館—世紀を超えた記憶の継承の場として— p.2-3／展覧会案内 移動展「みる！しる！わかる！三陸再発見 in 宮古」 p.4-5／活動レポート 第1回地質観察会「1億年前のサンゴ礁の海を見てみよう！」／活動レポート 第81回自然観察会「干潟の生き物を観察しよう」 p.6／解説員室より 博物館で映像をたのしもう！／事業案内 第1回博物館で学ぶ岩手の歴史講座 p.7／インフォメーション p.8

171号 目次／テーマ展「教科書と違う岩手の歴史—岩手の弥生～古墳時代—」表紙／いわて文化ノート 紙資料への脱酸処理の有効性 p.2-3／展覧会案内 「教科書と違う岩手の歴史—岩手の弥生～古墳時代—」 p.4-5／事業報告 開館40周年記念特別展関連事業 高校生による郷土芸能特別公演／事業報告 ナイトミュージアム～くらやみの中から語りかける資料を探る～ p.6／活動レポート トピック展「岩手と世界のカブトムシ・クワガタムシ」／活動レポート 令和3年度博物館館園実習 p.7／インフォメーション p.8

172号 目次／テーマ展「金田一家収蔵資料展—金田一勝定を中心に—」表紙／いわて文化ノート 「館蔵品で見る江戸時代のヒット本」 p.2-3／展覧会案内 「金田一家収蔵資料展—金田一勝定を中心に—」 p.4-5／開館41年目 入館者300万人達成に思うこと／事業報告「ICOM-DRMC年次大会および陸前高田シンポジウム等の開催」 p.6／事業報告 秋の学びイベント「たいけん！むかしのからし」／事業報告 博物館でまなぶ岩手の歴史講座 p.7／インフォメーション p.8

b. 令和2年度岩手県立博物館年報

令和3年6月1日発行（A4判相当PDF版、80頁、ホームページ掲載）

c. 行事案内リーフレット

令和3年度下半期分（B4変形・巻四ツ折、26,000部、令和3年9月発行）

令和4年度上半期分（B4変形・巻四ツ折、26,000部、令和4年4月発行）

d. 子供向け行事案内リーフレット

（令和元年に、「冬休み子ども新聞」・「春休み子ども新聞」と統合し、「いわはく子ども新聞」として発行している）

e. いわはく子ども新聞（旧 冬・春休み子ども新聞）

令和3年7月発行（A4・65,000部）

令和3年12月発行（A4・65,000部）

令和4年3月発行（A4・65,000部）

*これまで二戸～奥州市の小学生を対象に配付していたが、令和2年度より全県の小学生を対象に配付している。

（イ）広報活動

a. 当館独自の広報

① 定期発行

イベントガイド（毎月、市内外公共施設および松園地区配布、約1,500部）

行事案内リーフレット（年2回、公共施設および観光施設等配布、26,000部）

「いわはく子ども新聞」（年3回、全県の小学校等に配布、65,000部）

② 不定期発行

展覧会等、各事業別ちらし（随時） ほか

③ その他

令和3年度は「岩手県立博物館広報業務」に関わる企画コンペを実施し、株式会社東広社に広報業務委託を行った。期間は、令和3年5月19日（水）～令和4年3月31日（木）で博物館の存在そのものをアピールする広報「通年広報」を実施。広報コンセプトを「“発見のワクワク”と“探検のドキドキ”しっかりと楽しく学べて、触れあえる・そして、岩手のことがもっと知りたくなる場所。それが『けんぱく』岩手県立博物館。」として、キャッチコピー「はっけん！けんぱく たんけん隊」を掲げた。コンセプトに基づき、モーションロゴ・CMを制作。テレビ岩手で15秒ワースポットCMを200本、テレビパブリシティ4回、全10回シリーズのラジオ番組コーナー、ラジオによるコーナー告知CM40秒×30本/月×10か月で300本、夏・冬休みTwitter広告を展開。

CMについては、岩手広告賞第3位を受賞した（令和4年3月17日新聞発表）。

b. その他の公所への情報提供

日本博物館協会、全国科学博物館協議会、県観光協会、盛岡観光コンベンション協会、県庁広聴広報課、教育記者クラブ 等

c. 新聞各社への情報提供

胆江日日新聞、東海新報、岩手日日新聞、デーリー東北、盛岡タイムス、秋田魁新報、岩手日報ぼらん、いわにちりビング 等

d. ミニコミ誌等への情報提供

acute、Amuse、AREAi、情報誌悠悠、rakra、松園新聞、まいぶれ盛岡編集部、岩手の子育て情報誌fam 等

e. テレビ・ラジオによる広報

テレビ・ラジオ（テレビパブリシティ、CM放送、テレビスポット、FM岩手特設番組、ラジオ番組中継等）

（ウ）博物館ホームページ及びSNSの運営

岩手県立博物館公式ホームページ <http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

公式ホームページは、平成13年3月1日に正式公開された。平成24年度末に委託製作によりデザインを刷新し、またウェブサーバのcgiプログラムを介して内容を更新できるシステムを導入することにより、更新頻度を高めた。令和元年度、全てのページの閲覧回数合計は725,880回、トップページの閲覧回数は91,177回だった。現在は閲覧回数を記録していない。

I.B.Museum SaaSを利用した当館収蔵資料の公開システム「デジタルアーカイブ」への令和3年度のアクセス実績は、11,804回である。

SNSの利用としては、開館30周年を機に平成22年9月30日からツイッターアカウントを運用しているほか、平成28年1月5日からフェイスブックの正式運用を開始した。令和3年度内のツイート回数は293回であった。年度末時点のツイッターアカウントのフォロワー数は5,736人と、前年度に比べて約9.2%増加した。

イ. 情報機器の管理

令和3年度は、総務課及び学芸部共用デスクトップパソコンを1年間の再リースとした。また、ネットワークファイル共有サーバー及び無停電電源装置を更新した。その他、個人貸与のノートパソコン2台の修理を行った。

ウ. 委員会等職員派遣

県や市町村などからの依頼に応じて学芸員を派遣している。令和3年度の派遣回数は45回であった。

表5(5)-1 委員会等職員派遣

	月 日	委嘱元	委員会等名称	内 容	派遣職員
1	4月27日	滝沢市教育委員会文化振興課	滝沢市文化財調査委員会	チョウセンアカシジミ調査	渡辺 修二
2	5月13日	岩手県環境生活部自然保護課	いわてレッドデータブック検討委員会	同左	鈴木まほろ 渡辺 修二 高橋 雅雄
3	6月3日	八幡平市博物館	第1回八幡平市博物館協議会	昨年度の報告と令和3年度八幡平市博物館の事業予定について	木戸口俊子
4	6月16日	岩手県環境生活部環境保全課	岩手県環境影響評価技術審査会	第88回環境影響評価技術審査会	鈴木まほろ
5	6月23日	岩手県環境生活部自然保護課		道路整備工事に先立つ希少植物調査	鈴木まほろ
6	6月24日	岩手県南広域振興局北上農村整備センター	北上地区公共事業等に係る希少野生動植物保護検討委員会	農村整備事業に先立つ希少種調査	鈴木まほろ
7	7月2日	盛岡市子ども科学館	第1回子ども科学館協議会	事業報告など	濱田 宏
8	7月2日	滝沢市教育委員会文化振興課	滝沢市文化財調査委員会	同左	渡辺 修二
9	7月7日	滝沢市教育委員会文化振興課	滝沢市文化財調査委員会	チョウセンアカシジミ調査	渡辺 修二
10	7月7日	北上山地民俗資料館	第1回宮古市北上山地民俗資料館運営委員会	昨年度の事業実績と今年度事業予定について	木戸口俊子
11	7月9日	青森県環境生活部環境保全課	青森県環境影響評価審査会	風力発電1件の審査	高橋 雅雄

	月 日	委嘱元	委員会等名称	内 容	派遣職員
12	7月9日	岩手県知事（担当部局：総務部）	第2回岩手県東日本大震災津波関連行政文書保存検討委員会	東日本大震災関連行政文書保存のガイドライン策定	目時 和哉
13	7月15日	釜石市教育委員会	釜石市橋野高炉跡史跡整備検討委員会	同左 令和3年度第1回	丸山 浩治
14	8月16日-18日	自然環境研究センター	令和3年度国指定大瀧草原鳥獣保護区草索性鳥類の繁殖状況調査業務	現地視察と助言	高橋 雅雄
15	8月17日	岩手県環境生活部環境保全課	岩手県環境影響評価技術審査会	松川地熱発電所更新計画の審査に係る現地視察	鈴木まほろ
16	8月26日	青森県環境生活部環境保全課	青森県環境影響評価審査会	風力発電2件の審査	高橋 雅雄
17	9月8日	岩手県環境生活部環境保全課	岩手県環境影響評価技術審査会	第90回県環境影響評価技術審査会	鈴木まほろ
18	10月13日	岩手県沿岸広域振興局大船渡土木センター	大船渡地区公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会	河川工事に先立つ希少種確認調査	鈴木まほろ
19	10月14日	宮古市教育委員会	第1回宮古市文化財保存活用地域計画策定協議会	計画内容および宮古市の文化財の概要について	濱田 宏
20	10月15日	岩手県沿岸広域振興局大船渡土木センター	大船渡地区公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会	調整池造成に先立つ希少種確認調査	鈴木まほろ
21	10月28日	岩手県環境生活部自然保護課	岩手県環境審議会自然・鳥獣部会	同左	鈴木まほろ
22	11月4日	青森県農林水産部水産局水産振興課	青森県カワウ対策協議会	同左 令和3年度	高橋 雅雄
23	11月26日	青森県環境生活部環境保全課	青森県環境影響評価審査会	風力発電1件の審査	高橋 雅雄
24	12月1日	岩手県高等学校教育研究会理科部会 岩手県高等学校文化連盟自然科学専門部	第67回岩手県高等学校理科研究発表会及び第43回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門理科研究発表会	論文の事前審査	渡辺 修二
25	12月10日	岩手県高等学校教育研究会理科部会 岩手県高等学校文化連盟自然科学専門部	第67回岩手県高等学校理科研究発表会及び第43回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門理科研究発表会	発表の審査	渡辺 修二
26	12月15日	環境省東北地方環境事務所長	東北カワウ広域協議会	同左 令和3年度	高橋 雅雄
27	12月22日	岩手県環境生活部環境保全課	岩手県環境影響評価技術審査会	第91回環境影響評価技術審査会	鈴木まほろ
28	1月21日	宮古市教育委員会	第2回宮古市文化財保存活用地域計画策定協議会	進捗状況と今後の事業計画について	濱田 宏
29	1月21日	「劇団モリオカ市民」公演実行委員会	「劇団モリオカ市民」公演実行委員会公演関連展示検討会	じゃじゃ麺の歴史をテーマとした展示作成に関する協議・助言	目時 和哉
30	1月24日	岩手県沿岸広域振興局大船渡保健福祉環境センター	大船渡地区公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会	第33回大船渡地区公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会	鈴木まほろ
31	1月25日	岩手県環境生活部環境保全課	岩手県環境影響評価技術審査会	第92回環境影響評価技術審査会	鈴木まほろ
32	1月25日	岩手県教育委員会	第1回津波石碑調査検討委員会	津波石碑の保存と活用に関する検討会議	目時 和哉
33	1月27日	岩手県環境生活部自然保護課	岩手県環境審議会自然・鳥獣部会	同左	鈴木まほろ
34	2月3日	岩手県環境生活部環境生活企画室	岩手県環境審議会	第48回環境審議会	鈴木まほろ

	月 日	委嘱元	委員会等名称	内 容	派遣職員
35	2月4日	岩手県環境生活部自然保護課	早池峰地域保全対策事業推進協議会シカ対策部会	同左	鈴木まほろ
36	2月9日	岩手県環境生活部自然保護課	県希少野生動植物保護検討委員会	同左	鈴木まほろ
37	2月9日	岩手県環境生活部自然保護課	いわてRDB改訂検討委員会	同左	鈴木まほろ
38	2月9日	岩手県環境生活部自然保護課	いわてレッドデータブック検討委員会	同左	鈴木まほろ 渡辺 修二 高橋 雅雄
39	2月14日	岩手県環境生活部自然保護課	いわてレッドデータブック検討委員会部会	同左	渡辺 修二 高橋 雅雄
40	2月15日	八幡平市博物館	第2回八幡平市博物館協議会	令和3年度八幡平市博物館の事業成果および次年度以降の主な予定について	木戸口俊子
41	2月21日	釜石市教育委員会	釜石市橋野高炉跡史跡整備検討委員会	同左 令和3年度第2回	丸山 浩治
42	2月22日	岩手県環境生活部環境保全課	岩手県環境影響評価技術審査会	第93回環境影響評価技術審査会	鈴木まほろ
43	3月4日	盛岡市子ども科学館	第2回子ども科学館協議会	次年度事業計画など	濱田 宏
44	3月14日	青森県内水面漁業協同組合連合会	令和3年度内水面水産資源被害対策事業広域連携カワウ被害管理対策事業に係る津軽地区検討会	同左	高橋 雅雄
45	3月14日	滝沢市教育委員会文化振興課	滝沢市文化財調査委員会	同左	渡辺 修二

エ. 外部助成

○研究助成

新規採択はなかったが、令和2年に採択された科学研究費助成事業1件が令和5年度まで継続中である。

表(5)－3 令和3年度外部助成金採択状況

	氏 名	部門	関連事業・研究テーマ名等	助成の名称	金額	申請先
1	高橋 雅雄	生物	湿性草原の生物多様性保全における耕作放棄地の生態的価値：越冬鳥類を指標とした評価	科学研究費助成事業	429万円 (R3年度117万円)	独立行政法人日本学術振興会

(6) 新型コロナウイルスへの対応について

新型コロナウイルス感染症の流行拡大に対応し、令和2年度から当館ではさまざまな感染拡大防止策を講じてきた。令和3年度もまた、岩手緊急事態宣言（令和3年8月12日～9月16日、令和4年1月23日～3月31日現在継続中）と感染症の拡大状況に応じて下記の対応を行った。

〈臨時休館〉

令和3年8月12日の岩手緊急事態宣言発出により「県施設の原則休館・利用制限等」「県主催イベントの原則禁止・利用制限等」の指針が示されたため、令和3年8月16日から9月17日まで臨時休館とした。ただし、臨時休館中に予定していた館園実習は一部カリキュラムを変更し受け入れを行った。

〈入館者への対応〉

博物館入口（総合受付前）での手指消毒、サーモグラフィーによる検温とマスクの着用及び連絡先の提出をお願いした。

〈各種展示室での対応〉

総合展示室や特別展示室の入口、ハンズオン展示（イヌワシのたまご）設置箇所や地形模型付近に手指消毒用アルコールを設置した。

来館者が直接触れるような場所（タッチパネルやタブレット、ボタン型スイッチ、ハンズオンなど）は解説員が随時消毒を行った。

毎週土曜日に実施していた解説員による定時解説は令和2年7月から休止とした。ただし、一般来館者への対応（質問や依頼解説）は「1人の来館者に対し1人の解説員が対応できる時間を10分程度」に制限し適宜実施した。

団体の受け入れは上限100名、解説員による団体解説付きの見学は上限を30名程度までとし、30分以内の解説時間と定めた。

感染状況が低水準に抑制されつつあった令和3年12月1日から団体解説付きの見学や一般来館者への対応に係る時間制限を解除したが、令和4年1月23日の岩手緊急事態宣言発出を受けて従前の形に戻した。

〈体験学習室の対応〉

一度に利用できる人数を大人子ども合わせて15名程度に制限し、団体での利用は不可とした。

令和2年度から土日祝日と県内小中学校の長期休業期間中に限り閉室としていたが、感染状況が低水準に抑制されつつあった令和3年11月には土曜の開室を、12月には日祝日の開室も再開した。しかし、令和4年1月23日に岩手緊急事態宣言が発出されたことにより、再び平日のみの開室に戻した。

令和2年度にハンズオン資料の一部を撤収し消毒作業の徹底を図ったが、令和3年度も取り組みを継続した。主な消毒方法として、おもちゃ等はアルコール、身につけるコーナーの布製品は除菌剤を用いた。

〈映像室の対応〉

令和2年度から定員の上限を20名（収容人数50名）とし、換気と消毒作業のため1日3回（10:10、13:10、15:10）の定時上映とした。感染が抑制されてきた11月には1日5回に上映を増やしたが、翌年1月の岩手緊急事態宣言を機に3回上映に戻した。

〈その他の施設利用について〉

受付およびミュージアムショップカウンター、サービスコーナーに透明シートまたはアクリル板を設置した。

館内の来館者が直接触れるような場所（記念スタンプコーナー、連絡先記入用机など）は随時消毒を行った。また、貸し出し用の車椅子やベビーカー、手押し車、老眼鏡、VR、視聴用器具、筆記具、クリップボードなども使用後に消毒を行った。

各階トイレ前などに手指用アルコールを設置し、常時利用できるようにした。

喫茶「ひだまり」では、手指消毒用アルコール設置をはじめ、机の配置の変更やアクリル板の設置などを行った。

〈展覧会〉

岩手緊急事態宣言発出に伴う臨時休館により、開館 40 周年記念特別展の終了日を 1 週間繰り上げた。また、8 月 21 日に予定していた展示解説会と 8 月 22 日の関連講演会（県博日曜講座を兼ねる）を中止とした。

〈イベント〉

岩手県文化振興事業団自主事業として計画していた下記の集客イベントを中止した。

- ・ 5 月 2 日、3 日 ゴールデンウィークスペシャルイベント
- ・ 10 月 11 日 博物館まつり
- ・ 10 月 24 日 ヒストリックカー&クラシックカーミーティング in 岩手県立博物館

博物館まつりは 9 月中旬に開催困難と判断し中止を決定。代替事業として屋外で実施する小規模イベントを行うこととし、博物館近隣の教育機関に限定して広報した。

また、岩手緊急事態宣言発出に伴う臨時休館中には予定していた下記のイベントを中止した。

- ・ 8 月 21 日 開館 40 周年記念特別展展示解説会
- ・ 8 月 21 日～22 日 チャレンジ！はくぶつかん
- ・ 8 月 22 日、9 月 12 日 県博日曜講座
- ・ 8 月 15 日、22 日、29 日 たいけん教室～みんなでためそう～

県内小中学校の長期休業中に予定していた子供向け定時解説「ワクワク！こどもツアー」は、感染拡大が抑制されつつあった冬期をのぞき中止した。夏期は早くから中止を決定したため、代替として開館 40 周年記念特別展ワークシートの配布を行った。春期は直前まで実施する予定であったが、児童生徒の感染が拡大していたため中止した。

当館講堂（収容人数 140 名）で開催する講演会や鑑賞会は定員の上限を 50 名程度とした。特に混

雑が予想された文化講演会とコンサートに関しては事前申込による参加受付とした。当日受付の回は、参加者へ連絡先の提出をお願いした。

狭小な展示室などで実施するイベント（展覧会展示解説会、県博バックヤードツアー、ワクワク！こどもツアー、ナイトミュージアム）も厳しく人数制限を行い、密な環境とならないように人員整理要員を配し参加者の誘導を行った。

現地見学会（考古学セミナー、自然観察会、地質観察会）は前年度と同様に感染状況を見ながら限定的に広報し、募集人数も例年より減らすなどの措置を講じて実施した。

また、たいけん教室及び冬のワクワク！ワークショップも前年度と同様に人数制限を行い実施した。特に、コロナ禍以前のたいけん教室は毎回 50 名前後（子ども 20～30 名と付き添いの保護者）が参加していたが、感染リスク軽減のため定員を 5～10 名に減じた。また、会場にアクリル板を設置したり、参加者ごとに消毒液を配布したりした。プログラム内容も指導を担当する解説員と参加者が適切な距離を保てるように見直しを行った。

上記のように、種々の感染拡大防止策を講じながら事業の運営にあたり、幸いにも当館の利用に起因する入館者・利用者の感染はこれまで報告されていないが、新型コロナウイルス感染症に対する効果的な感染防止策と博物館事業実施の両立を図るべく検討を重ねているところである。

6 被災文化財等再生活動

(1) はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に発災した東日本大震災によって、東日本太平洋沿岸部に在った膨大な数の文化財、自然史標本、その関連資料等が被災した。当館ではこの未曾有の大規模自然災害発生を受け、平成 23 年 4 月 2 日以降、岩手県太平洋沿岸部で被災した様々な資料の救出とその再生に取り組んできた。救出された資料は概ね 50 万点にのぼり、その約 46 万点は本県内で最も被害の大きかった陸前高田市の所管資料である。

救出された資料を再生するには、津波によってもたらされた資料劣化を誘因する有害物質（塩分やタンパク質、脂質など）を除去し、資料を長期にわたり安定した状態で保管できる状態にする安定化処理が不可欠である。そこで当館では、全国の博物館、大学、文化財科学の研究者等と連携しながら試行錯誤を重ね、その安定化処理方法を構築し、被災資料の再生を図ってきたところである。

本章では、当館が令和 3 年度に行った取り組みについて報告する。

(2) 被災文化財の再生

当館では、陸前高田市立図書館から最初に救出された岩手県指定文化財『吉田家文書』及びその関連資料に対し、除泥、除菌、脱塩を基本とする安定化処理を平成 23 年 4 月 5 日に開始して以来、紙を素材とする資料などに対して今日まで継続的に安定化処理を行ってきた。当館に搬入された被災資料のうち、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市の 5 市町の資料については令和元年度末で措置を完了した。しかし、最も被害の大きかった陸前高田市所管の資料約 20 万点が未処理のまま残されており、その処理を日々進めている。

令和 3 年度に当館で実施した安定化処理及び修理は、表 6(2)-1 に示すとおりである。

表 6 (2)-1 令和 3 年度の安定化処理及び修理の実施状況

	件名	件数
1	被災紙製資料安定化処理及び修理業務	1
2	被災考古資料安定化処理業務	1
3	被災鳥羽源藏コレクション安定化処理及び修理業務	1
4	被災自然史関連資料修理業務	1
5	被災昆虫標本修理業務	1

平成 27 年、それまでに安定化処理を実施した紙製資料と民俗資料の一部に異臭や変色等の異常が確認され、その原因と対処法を東京文化財研究所の指導の下で共同調査・検討し、平成 28 年度より新たに医療用中性洗剤を用いたタンパク質や脂質の洗浄・除去工程を加えた。これ以降、同様の異常発生は確認されていない。しかし、中性洗剤の使用はその残留を防ぐための十分なすすぎ工程が不可欠であり、場合によっては資料に負担をかけることに繋がる。このため、中性洗剤の使用量は極力少ないほうがよい。同工程導入当初は濃度 0.5% を基本としてきたが、令和元年度末に再度の共同調査を行い、令和 2 年度からは 0.3% に減じて洗浄作業を実施している。これによる不具合は現在までのところ確認されていない。今後も経過観察を実施し、より安全で効率的な安定化処理方法の構築に努めていく。

また東日本大震災以降、台風や集中豪雨による水害が多発しており、これにより文化財等が水損する被害が全国各地で発生している。令和 2 年 7 月豪雨では球磨川が大規模に氾濫し、熊本県人吉市で

大量の植物標本が被災した。当館ではこの資料の一部を受け入れて冷凍保管し、洗浄作業を今年度までに完了した。

(3) 文化復興へ向けた被災文化財等の活用

平成26年度以来、当館を中核館として、東京国立博物館、陸前高田市立博物館、公益財団法人日本博物館協会、NPO法人文化財保存支援機構を主要構成機関とする「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会」(プロジェクト通称：大津波プロジェクト、会長：岩手県立博物館長)が結成された。この組織は、「被災文化財の再生を効率的に進めるための組織連携の構築」、「活動に対する理解の醸成」、「技術の共有と普及」、「大規模自然災害への備え」、「被災した博物館の復興支援」を主な活動の目標に掲げ、文化庁の助成を受けながら、特別展、ワークショップ、講演会・シンポジウムをはじめとする様々な事業を行ってきた。

東日本大震災から10年という節目を経た令和3年度には、大津波プロジェクトに対する文化庁からの助成期間が満了することもあり、博物館を拠点とする文化活動を通じた持続可能な復興のあり方を追求するとともに、その成果を自然災害被災地における文化復興のモデルケースとして国内外に発信することを目的とした「博物館と市民による持続可能なふるさと再生プロジェクト」(中核館：岩手県立博物館、会長：岩手県立博物館長)を新たに立ち上げ、被災資料の再生の先を見据えた形で事業を展開した。

今年度の主要事業の概要とその成果を以下に略述する。

① 陸前高田市立博物館新館における市民対象講座

令和4年秋の開館に向けた準備が進められている陸前高田市立博物館新館を舞台とした初の教育普及事業として、資料搬入前の、現在しか見られない博物館の風景を一般市民に公開するイベント(「からっぽ博物館」)を令和4年2月16日、20日の2日間、計4回にわたり開催した。県独自の緊急事態宣言発令に伴い、規模と内容を大幅に縮小し、参加者の上限を計80人に抑えざるをえなかったが、参加がかなわなかった方や、市内の各種学校の児童・生徒への配布を念頭に置き、陸前高田市立博物館の震災後10年の歩みをまとめた小冊子を、各種資料の再生活動に携わった専門家の監修の下で制作・配布することで、本事業の効果の最大化と博物館開館に向けた機運の全市的な向上をはかった。

② 漁撈に関連する民俗技術を記録した映像作品の制作

震災後の人口減や産業構造の変化に伴い、衰退や喪失が危惧される三陸沿岸部の伝統文化について、船大工の和船制作工程をつぶさに記録した映像作品を制作することで、その記録保存を行うと同時に、今後郷土のアイデンティティの一つである漁撈文化を市内外に発信していく上で活用可能なコンテンツを整備した。納船時の儀礼の撮影や、その後のワークショップ(船大工道具を用いた和船の設計図づくり)には一般からも広く参加者を募り、市民が地元の伝統文化を体感する機会を提供した。



図6(3)-1 陸前高田市民の参画を得て行われた撮影風景

③ 文化財等の被災と再生をテーマにした協働展の開催

長野市立博物館との協働により、東日本大震災と令和元年東日本台風を対置し、それぞれで被災した資料の再生過程と、資料が持つ価値を広く紹介する展覧会を、令和4年1月15日～3月29日までの間、同館において開催した。

オミクロン株のまん延に伴い、開催館が長期にわたり臨時休館を余儀なくされるという苦況に置かれたが、その間 SNS を介して個別の資料紹介を行うなど情報発信に努めた。

④ 長野市と陸前高田市・川崎市を結んで行うワークショップ

長野市立博物館における協働展関連事業として、長野市立博物館、陸前高田市立博物館、川崎市市民ミュージアムにおいて、被災資料再生活動に従事する市民ら 40 名をつなぐワークショップをオンライン（資料処置の実演に関する部分は川崎市にて行うハイブリッド）形式で開催した。地域や災害種を超え、かけがえのない文化財の再生という同一の目標に向かって協働していく上で必要となるスキルとノウハウの共有をはかった。

⑤ 博物館と文化財防災をテーマとしたシンポジウムの開催及び陸前高田市と盛岡市をフィールドとしたエクスカーショの実施

令和 3 年 11 月 4 日に開催された ICOM-DRMC（博物館防災国際委員会）年次大会関連事業として、岩手県をフィールドとするエクスカーショんと、陸前高田市を会場とするシンポジウムを開催した。45 名が参加したエクスカーションは原則国内居住者のみの参加であったが、シンポジウムについては 30 の国と地域からの参加を得て、事後のオンデマンド配信を含めると、のべ約 460 名の方に聴講いただき（令和 4 年 3 月 1 日現在）、東日本大震災発災から 10 年目における被災地の姿を国内外に発信する機会となった。



図 6(3)-2 当館も訪問先の一つとなったエクスカーションの一幕

（４）今後の課題

発災から 11 年が経過した現在も、陸前高田市の津波被災資料は約 4 割が未処理のまま保管されている。それらの中には、水への浸漬が困難なために新たな措置方法を構築して対処しなければならない資料が相当数存在する。また、安定化処理を施した資料であっても、津波で被災した資料の再生法は国際的に未確立であるため、保管の過程で状態に変化が生じないかどうかを当分の間注意深く経過観察する必要がある。課題は依然として多く、被災文化財等の再生活動には今後も長期的な対応が求められる。

一方で、震災後頻発している自然災害によって、残念ながら毎年のようにどこかで文化財等が被災している。

当館では、これまで被災資料再生に従事してきた専門機関との連携を今後も図りつつ、残された資料の再生と被災した博物館の復興支援を図るとともに、今後も起こり得る大規模自然災害に対する備えの啓発と、被災資料を安全に処理しうる汎用的な方法の構築にさらに取り組んでいきたいと考えている。皆様には引き続き御支援をお願いしたい。

7 文化財への不適切行為事案について

(1) 本事案の経緯

- 1 平成26年8月に岩手県立埋蔵文化財センターからの受託業務及び同年11月に野田村教育委員会からの受託業務において、受託者に無断で受託資料からの切取りによるサンプル採取が行われていたことが職員の申し出により発覚した。
- 2 さらに、野田村教育委員会からの受託業務において、受託資料の一つが所在不明となり、受託者に無断でそのレプリカを作製したことや無断でサンプル採取した痕跡をX線写真撮影でも分からないように他の金属で充填する行為があったことが判明した。
- 3 これらの事案が判明したことにより、内部調査を実施し、平成27年3月に県教育委員会へ事故報告書を提出した。そして、平成27年6月には、金属製資料に係る保存処理及び科学分析業務の実施を見合わせることを関係機関へ通知した。その後、上記1、2の不適切行為事案について、研究機関や有識者から聞き取り調査を行い、平成28年2月に県教委に追加報告した。
- 4 県教委への報告後、再発防止のために、「決裁過程でのチェック体制の強化」、「職員間の情報共有と不祥事再発防止等の意識付け」、「不祥事案が発生した場合の対策会議の設置による早期解決」、「受託研究業務取扱要領の見直し」等の対策を講じ、平成29年4月から受託研究業務を再開した。
- 5 令和元年6月5日、元職員による報道機関への情報提供等が発端となり、新聞紙面に「博物館学芸員が所有者に無断で金属製の文化財の一部を切り取る行為を繰り返していた」との記事が掲載され、他の報道機関も相次いで報道したことから、(公財)岩手県文化振興事業団では6月14日付けで調査作業チームを設置し、県教委の指示のもと、博物館が中心となって館内に残っている資料の調査を実施した。なお、本事案発生後は、資料消毒・被災資料の安定化処理及び修理を除く一切の受託を停止した。
- 6 県教委の重要文化財の調査を優先的に進める方針に基づき、博物館では、調査対象資料のリストを作成し、県教委に提出した。そのリストに基づき、県教委において、対象となる重要文化財を調査した結果、平泉町柳之御所遺跡・平泉遺跡群出土の火舎、花瓶の2点に対して、重要文化財指定(H22)後に無断切取り行為が行われていたことが判明した。
- 7 一般文化財については、博物館において、契約書類が保存されている平成16年度以降の調査を進め、採取されたサンプル、作業記録カードなどの資料を基に、依頼者毎の文化財資料のリスト化を行い、保存処理等を行った点数を確定した。なお、契約書類が保存されていない平成15年度以前であっても、依頼者側に契約書類が残っており、切取りの承諾の有無が明確に判断できる場合は調査対象とした。館内の調査作業は令和3年10月末をもって終了した。

博物館が作成した資料を基に、県教委が依頼者に事実関係を確認した結果、調査対象資料5,301点のうち、サンプル行為がなされていた資料点数は1,479点、そのうち無断切取りの有無が判断できないもの(不明)が31点、無断切取りと判断されたものは101点であった。
- 8 県教委では、これらの調査結果をまとめた「岩手県立博物館における文化財への不適切行為事案」調査結果(最終報告)を令和4年3月15日に公表した。

(2) 再発防止の更なる対策

再発防止対策の形骸化を防止するため、次の事項について定期的に対策の実効性の確認と見直しを図る。

- 1 複数体制による業務推進や情報共有の場作り等、互いの業務内容の見える化
- 2 外部からの依頼の受入から完了報告までの一連の業務について、専門職員のみならず、行政職員等もチェック可能な部署の枠を超えた体制作り
- 3 文化財等の資料の取扱いにあたり、最新の情報収集や専門職員としての研修研鑽に努めながら倫理観の醸成を図り、その内容を全体で共有できる仕組み作り
- 4 不祥事案が発生した際、組織として迅速かつ適切に対応できる体制作り
- 5 文化振興事業団における、県立博物館の運営状況の把握と適切な指導助言が可能な体制作り

8 岩手県立博物館友の会

(1) 概要

本年度は、コロナ禍の中、様々な制約があったが、「自然観察会」や「地質観察会」「話のサロン（講演会）」など多彩な事業を実施した。賛助会員、高齢会員の退会などがあり、会員数は減少傾向にあるが、小中高会員、40歳代～60歳代の新規会員も少数ではあるが入会している。また、団体会員・賛助会員の増員を今後も望むところである。

友の会活動は博物館の支援と生涯学習の場としても期待されており、事業内容の厳選と更なる充実が求められている。

(2) 会員数

令和3年度会員数	合計	210件	383人	(令和2年度 229件・427人)
一般会員	132件・132人		(令和2年度 143人)	
家族会員	61件・202人		(令和2年度 66件・227人)	
小中高会員	1人		(令和2年度 0人)	
終身会員	25人		(令和2年度 25人)	
賛助会員	11件・18口		(令和2年度 15件・27口)	
団体会員	5件		(令和2年度 5件)	

(3) 主催事業

ア. 現地見学会

中止

イ. 野外観察会

(ア) 第1回 「自然観察会」 博物館行事に参加
「干潟の生き物を観察しよう」

5月30日(日) 参加者20人

講師 岩手医科大学教授 松政 正俊 氏

(イ) 第1回 「地質観察会」 博物館行事に参加
「一億年前のサンゴ礁の海を見てみよう！」

6月26日(土) 参加者40人

講師 名古屋大学博物館教授 大路 樹生 氏

(ウ) 第2回 「地質観察会」 博物館行事に参加

「三畳紀の魚竜・モノティス：日本最初の三畳紀化石発見の地を探る」

10月31日(日) 参加者27名

講師 東北大学総合学術博物館 永広 昌之 氏

(エ) 第2回 「自然観察会」 博物館行事に参加
「ハクチョウとカモ類を観察しよう」

11月21日(日) 参加者15人

講師 岩手県立博物館学芸員

ウ. 話のサロン (講演会)

(ア) 第1回「岩手山の江戸時代の噴火－古文書と火山灰から復元する(後編)－」

5月22日(土) 参加者30人

講師 岩手大学客員教授 土井 宣夫 氏

(イ) 第2回「石碑に刻まれた三陸津波の記憶」(県博日曜講座)

9月12日(日) 臨時休館のため中止

講師 博物館学芸員 日時 和哉

(ウ) 第3回「ビアクの戦いと遺骨収集の現状」

令和4年2月19日(土) 参加者20人

講師 NPO法人 太平洋戦史館専務理事 小原 守夫 氏

エ. 会報発行等

(ア)「友の会会報」発行(A4版8頁、300部)

年3回(No.121~123)発行 (4,9,2の各月)

(イ)「友の会通信」発行(A4版両面刷り2頁、300部)

年2回(No.126・127)発行 (6,12の各月)

(ウ)「岩手県立博物館だより」発送

年4回発送(No.165~168)(6,9,12,3の各月)

(エ)「岩手県立博物館行事案内」発送

年2回(4,9各月)

※県博の行事等の案内、要項を年8回開催の友の会企画委員会で随時発送。

オ. 博物館事業への協力

県博日曜講座の一部と博物館行事への参加。

9 博物館利用者入館状況

開館以来の入館者数（総利用人数）

年 度	総 利 用 人 数			計	開館 日数	1日平均 利用人員
	一 般	高・学生	小中学生			
昭55	95,469	6,563	22,960	124,992	146	856
昭56	145,756	10,908	50,621	207,285	298	696
昭57	106,400	8,673	44,210	159,283	297	536
昭58	87,531	8,903	34,405	130,839	298	439
昭59	81,247	8,451	36,357	126,055	299	422
昭60	78,701	10,825	36,703	126,229	297	425
昭61	69,226	9,765	37,551	116,542	298	391
昭62	65,570	9,500	40,731	115,801	299	387
昭63	58,908	9,526	36,922	105,356	296	356
平元	56,379	11,139	37,960	105,478	297	355
平2	65,021	11,049	34,432	110,502	299	370
平3	60,880	11,917	30,926	103,723	298	348
平4	55,309	10,793	28,354	94,456	298	317
平5	98,842	9,995	32,034	140,871	298	473
平6	42,164	6,246	19,460	67,870	297	229
平7	52,296	5,546	19,038	76,880	298	258
平8	44,719	4,855	16,773	66,347	297	223
平9	34,682	4,123	14,435	53,240	289	184
平10	43,966	4,980	12,669	61,615	298	207
平11	26,762	4,576	9,997	41,335	298	139
平12	24,315	3,624	12,175	40,114	297	135
平13	24,436	2,780	11,709	38,925	300	130
平14	28,859	2,219	12,281	43,359	297	146
平15	23,742	1,852	11,741	37,335	298	125
平16	27,149	1,337	10,099	38,585	297	130
平17	39,795	2,090	12,081	53,966	299	180
平18	23,947	1,644	12,649	38,240	303	126
平19	24,473	1,515	13,221	39,209	304	129
平20	25,341	837	14,905	41,083	302	136
平21	25,010	1,279	15,051	41,340	300	138
平22	23,510	1,293	11,276	36,079	292	124
平23	16,021	1,018	13,604	30,643	301	102
平24	21,069	1,027	15,309	37,405	302	124
平25	25,006	960	18,244	44,210	303	146
平26	19,181	1,227	12,438	32,846	303	108
平27	24,048	1,605	14,605	40,258	302	133
平28	26,620	1,417	16,931	44,968	304	148
平29	31,074	1,631	17,614	50,319	303	166
平30	27,889	1,419	18,575	47,883	304	158
令元	27,743	1,399	18,097	47,239	303	156
令2	12,384	1,014	9,101	22,499	291	77
令3	16,292	1,091	10,909	28,292	282	100
総 計	1,907,732	202,611	899,153	3,009,496	12,382	-
平 均	45,422	4,824	21,408	71,655	295	243

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で4/25から5/6まで臨時休館
令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で8/16から9/17まで臨時休館

令和3年度月別入館者数

区分 月	総利用人数				開館日数	1日平均 利用人員
	一般	高・学生	小中学生	計		
4	1,472	42	565	2,079	26	80.0
5	1,579	67	791	2,437	26	93.7
6	1,199	151	1,237	2,587	26	99.5
7	1,870	199	1,125	3,194	27	118.3
8	1,746	99	1,315	3,160	15	210.7
9	497	45	411	953	11	86.6
10	1,239	90	1,521	2,850	27	105.6
11	1,788	127	1,463	3,378	25	135.1
12	1,330	68	657	2,055	24	91.3
1	1,367	73	642	2,082	24	86.8
2	978	50	549	1,577	24	65.7
3	1,227	80	633	1,940	27	71.9
計	16,292	1,091	10,909	28,292	282	100.3

開館以来の入館者数（利用区分別）

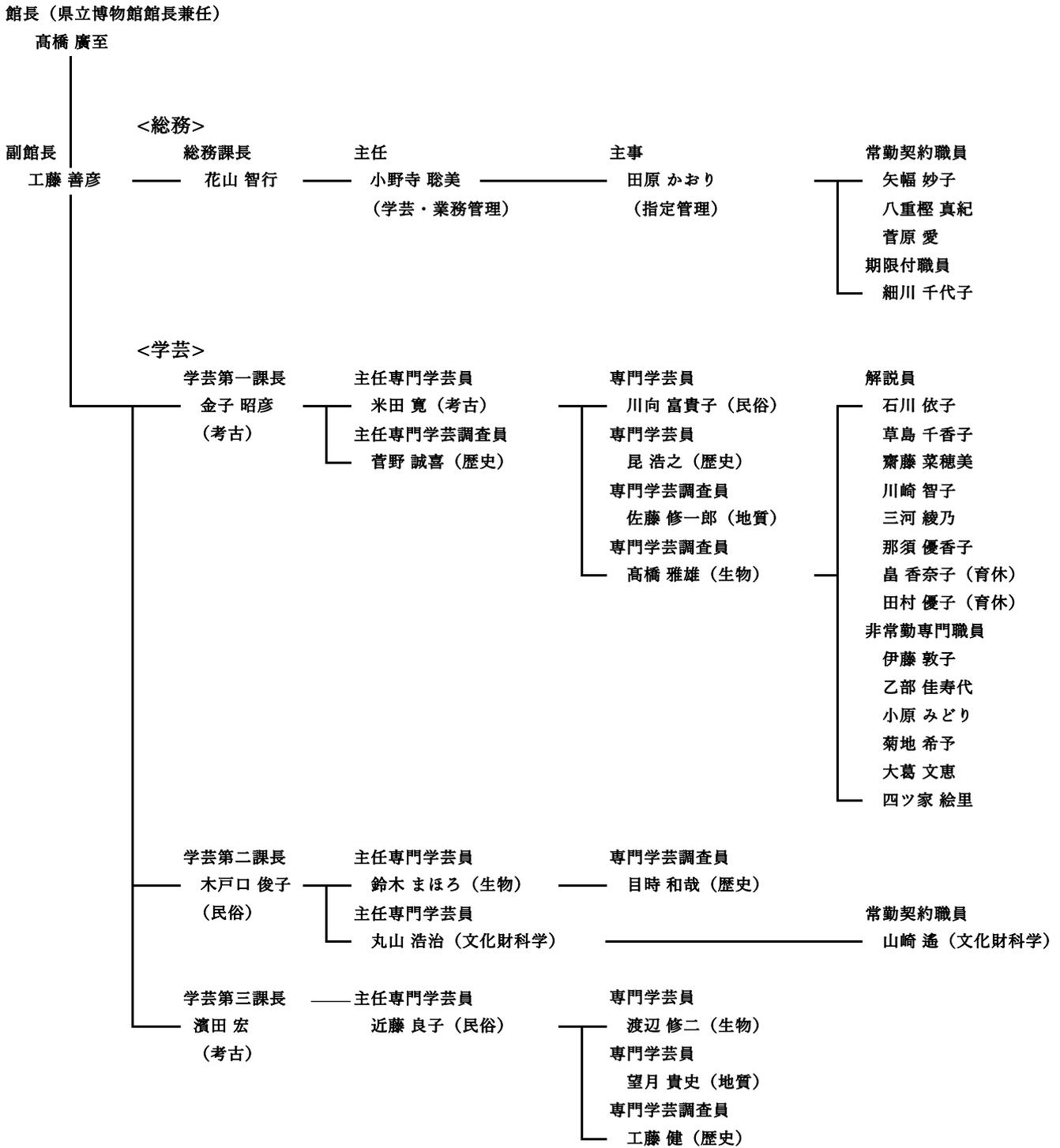
区分 年度	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計
昭55	69,259	4,275	16,657	90,191	24,506	465	2,036	27,007	1,704	1,823	4,267	7,794
昭56	87,659	5,233	21,762	114,654	54,724	637	4,458	59,819	3,373	5,038	24,401	32,812
昭57	66,727	3,275	16,722	86,724	35,538	648	3,498	39,684	4,135	4,750	23,990	32,875
昭58	51,058	2,348	11,723	65,129	33,072	775	2,743	36,590	3,401	5,780	19,939	29,120
昭59	48,286	2,195	11,338	61,819	28,982	635	2,378	31,995	3,979	5,621	22,641	32,241
昭60	46,054	2,137	10,007	58,198	29,308	411	2,104	31,823	3,339	8,277	24,592	36,208
昭61	39,516	1,911	8,830	50,257	25,888	445	2,010	28,343	3,822	7,409	26,711	37,942
昭62	39,761	1,803	8,647	50,211	22,645	339	1,860	24,844	3,164	7,358	30,224	40,746
昭63	37,362	1,910	8,018	47,290	18,817	551	2,155	21,523	2,729	7,065	26,749	36,543
平元	34,617	1,866	7,386	43,869	18,465	208	1,224	19,897	3,297	9,065	29,350	41,712
平2	38,272	2,034	8,334	48,640	21,014	827	1,046	22,887	5,735	8,188	25,052	38,975
平3	35,073	1,851	6,993	43,917	18,810	1,026	2,031	21,867	6,997	9,040	21,902	37,939
平4	33,581	1,743	6,735	42,059	15,239	1,423	1,190	17,852	6,489	7,627	20,429	34,545
平5	36,726	2,018	8,406	47,150	10,300	844	1,197	12,341	51,816	7,133	22,431	81,380
平6	26,121	1,415	5,588	33,124	9,112	755	673	10,540	6,931	4,076	13,199	24,206
平7	30,654	1,768	5,980	38,402	9,193	947	610	10,750	12,449	2,831	12,448	27,728
平8	25,328	1,464	4,674	31,466	7,597	559	593	8,749	11,794	2,832	11,506	26,132
平9	21,204	1,463	4,277	26,944	4,955	314	483	5,752	8,523	2,346	9,675	20,544
平10	20,459	1,211	4,189	25,859	6,477	749	276	7,502	17,030	3,020	8,204	28,254
平11	15,532	928	4,055	20,515	4,808	207	292	5,307	6,422	3,441	5,650	15,513
平12	14,262	1,149	4,564	19,975	4,174	299	184	4,657	5,879	2,176	7,427	15,482
平13	12,301	833	3,548	16,682	6,491	42	213	6,746	5,644	1,905	7,948	15,497
平14	18,160	1,012	6,704	25,876	4,147	208	362	4,717	6,552	999	5,215	12,766
平15	13,957	676	5,335	19,968	2,660	60	348	3,068	7,125	1,116	6,058	14,299
平16	13,897	661	4,033	18,591	3,850	138	363	4,351	9,402	538	5,703	15,643
平17	26,603	1,164	6,935	34,702	3,417	128	218	3,763	9,775	798	4,928	15,501
平18	14,019	666	7,102	21,787	1,479	298	335	2,112	8,449	680	5,212	14,341
平19	14,436	622	7,226	22,284	1,739	119	381	2,239	8,298	774	5,614	14,686
平20	14,361	512	6,975	21,848	1,822	71	320	2,213	9,158	254	7,610	17,022

区分 年度	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計
平21	12,914	547	7,055	20,516	1,516	82	374	1,972	10,580	650	7,622	18,852
平22	14,016	634	6,448	21,098	1,536	443	286	2,265	7,958	216	4,542	12,716
平23	8,833	374	6,135	15,342	830	110	806	1,746	6,358	534	6,663	13,555
平24	12,603	458	7,437	20,498	1,084	251	521	1,856	7,382	318	7,351	15,051
平25	14,799	532	9,106	24,437	1,169	230	638	2,037	9,038	198	8,500	17,736
平26	10,928	538	6,218	17,684	861	247	104	1,212	7,392	442	6,116	13,950
平27	15,213	716	8,190	24,119	880	130	228	1,238	7,955	759	6,187	14,901
平28	17,703	687	10,974	29,364	967	192	128	1,287	7,950	538	5,829	14,317
平29	20,101	945	10,266	31,312	1213	281	333	1,827	9,760	405	7,015	17,180
平30	18,504	685	11,867	31,056	696	98	244	1,038	8,689	636	6,464	15,789
令元	17,592	805	10,244	28,641	578	29	157	764	9,573	565	7,696	17,834
令2	9,091	522	5,844	15,457	116	116	161	393	3,177	376	3,096	6,649
令3	11,975	679	7,408	20,062	176	42	16	234	4,141	370	3,485	7,996
総計	1,129,517	58,265	339,935	1,527,717	440,851	16,379	39,577	496,807	337,364	127,967	519,641	984,972
平均	26,893	1,387	8,094	36,374	10,496	390	942	11,829	8,032	3,047	12,372	23,451

令和3年度月別入館者数（利用区分別）

区分 月	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計
4	1,031	42	519	1,592	20	0	0	20	421	0	46	467
5	1,233	54	695	1,982	57	0	3	60	289	13	93	395
6	765	45	380	1,190	0	0	0	0	434	106	857	1,397
7	1,420	59	911	2,390	24	39	0	63	426	101	214	741
8	1,511	76	1,217	2,804	0	0	0	0	235	23	98	356
9	393	45	258	696	0	0	0	0	104	0	153	257
10	879	74	594	1,547	25	0	0	25	335	16	927	1,278
11	1,066	39	635	1,740	28	3	13	44	694	85	815	1,594
12	977	66	553	1,596	22	0	0	22	331	2	104	437
1	967	50	571	1,588	0	0	0	0	400	23	71	494
2	740	50	461	1,251	0	0	0	0	238	0	88	326
3	993	79	614	1,686	0	0	0	0	234	1	19	254
計	11,975	679	7,408	20,062	176	42	16	234	4,141	370	3,485	7,996

10 令和3年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織



学芸部門職員の部門別人員

地質	考古	歴史 (古美術)	民俗	生物	文化財科学	計
2人	3人	4(1)人	3人	3人	2人	17人

1 1 岩手県立博物館使命書

(平成 20 年 3 月 25 日制定)

私たち岩手県立博物館は、岩手県が誇る豊かな自然史及び文化史に関する資料と情報を収集保管して、調査研究によりその資料価値を見出し、成果を展示や教育普及などの事業で公開する全県的な機関として、教育・学術・文化の振興・発展に大きく貢献してきました。

近年の地球環境保全に対する危機意識の高まり、急速に進む国際化及び生活様式の多様化といった社会情勢の変化の中で、県民の学習意欲に応える生涯学習中核機関として、より一層充実した役割を果たすことが期待されています。

このため、私たち岩手県立博物館は、5 億年にわたる大地、多様な生物相、縄文・平泉などの歴史の変遷、地域性豊かで多彩な民俗事象を背景とし、広大な岩手の地域的特性を活かしながら新たな価値の発見に努め、県民の要請に応じて県民とともに歩む博物館としての機能を強化し、新たな地域文化の創造を目指して博物館の使命を次のようにまとめました。

1 ユニークで多彩な資料の蓄積とその活用に基づく岩手の自然史・文化史の拠点

- (1) 岩手県及び関連する地域の自然や人間の営みの証拠となる資料と情報を継続的に収集・整理して適切に保管・管理し、県民共有の知的財産として次世代に確実に継承していきます。
- (2) 収集した自然史・文化史資料と情報について、自らの研究を通して岩手の地域的特性を明らかにするとともに、グローバルな視点に立って資料の価値を新たに見出します。
- (3) ユニークで多彩な質の高い資料とその情報を各種の事業によって公開・活用し、県民の知的欲求を刺激する場を提供します。

2 幅広い交流による知的活動への寄与と新たな地域文化の創造

- (1) さまざまな機関との資料の相互交流を進めながら、県民はもとより国内外に情報を発信し、自然環境や文化遺産の保全を支援して県民の知的活動に寄与することにより、岩手県の教育・学術・文化の振興・発展に貢献していきます。
- (2) 開かれた博物館として県民との積極的な交流を進めながら、自主的な学習の場を提供することにより、県民の生涯学習活動と次世代の育成のための学校教育活動を積極的に支援します。
- (3) 資料を公開・活用する各種の事業について県民の要請に応え、わかりやすく伝える方法を探り、ともに学び、楽しみを分かちあいながら、新たな地域文化の創造と発展に県民とともに取り組んでいきます。

3 社会から託された博物館の役割を実現するための基盤整備

- (1) 使命書に基づいて活動計画を立案し、実績を点検しながら、さらによりよい博物館活動を目指します。
- (2) 社会から託された博物館の役割を積極的に実現するために、機能的で効果的な組織と財務基盤を整備し、優れた人材の育成に努めます。
- (3) 県民が集い、交流・活動し、やすらぎと潤いのある、安全・安心で、清潔な、また来たいと感じてもらえる快適空間を提供し、県民の共有財産である収蔵資料の保管・管理機能の整備を図ります。

1 2 関係条例・規則等

(1) 博物館条例

昭和 55 年 7 月 15 日 条例第 41 号

(設置)

第 1 条 歴史、芸術、民俗等に関する資料の収集、保管、展示等を行い、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
岩手県立博物館	盛岡市

(指定管理者による管理)

第 1 条の 2 博物館の管理は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 3 項の規定に基づき教育委員会が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に行わせる。

(指定管理者が行う業務の範囲)

第 1 条の 3 指定管理者は、この条例の規定により指定管理者が行うこととされた業務のほか、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 施設及び設備の維持管理に関する業務
- (2) その他博物館の利用の促進に関する業務

(入館等の許可)

第 2 条 博物館に入館しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の入館が次の各号のいずれかに該当する場合は、同項の許可をしてはならない。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失するおそれがあるとき。
- (3) その他博物館の管理上適当でないと認めるとき。

3 指定管理者は、博物館の管理上必要があると認めるときは、第 1 項の許可に条件を付することができる。

第 3 条 博物館において、館内の資料の撮影、模写、模造等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前条第 3 項の規定は、前項の許可について準用する。この場合において、同条第 3 項中「指定管理者」とあるのは、「教育委員会」と読み替えるものとする。

(行為の禁止)

第 4 条 博物館においては、次に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失すること。
- (2) 指定された場所以外の場所にはり紙若しくははり札をし、又は広告を表示すること。
- (3) 静粛を害し、他人に迷惑をかけること。
- (4) 指定された場所以外の場所で喫煙し、又は飲食をすること。
- (5) 立入禁止区域に立ち入ること。

(入館許可の取消し等)

第 5 条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第 2 条第 1 項の許可を受けた者に対し、当該許可を取り消し、その効力を停止し、同条第 3 項の条件を変更し、又は行為の中止、原状の回復若しくは博物館からの退去を命ずることができる。

- (1) この条例又はこの条例の規定による処分に違反したとき。
- (2) 第 2 条第 3 項の条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他の不正な手段により第 2 条第 1 項の許可を受けたとき。
- (4) 博物館の管理上必要があると認めるとき。
- (5) その他公益上やむを得ない必要が生じたとき。

2 前項の規定は、第 3 条第 1 項の許可について準用する。この場合において、前項中「指定管理者」とあるのは「教育委員会」と、「同条第 3 項」とあり、及び「第 2 条第 3 項」とあるのは「第 3 条第 2 項において読み替えて準用する第 2 条第 3 項」と読み替えるものとする。

(入館料)

第 6 条 第 2 条第 1 項の許可を受けた者（以下「入館者」という。）は、別表に掲げる入館料を納付しなければならない。

2 前項の入館料は、許可の際に徴収する。

(入館料の免除)

第 7 条 知事は、次の各号のいずれかに該当する場合は、入館料を免除することができる。

(1) 教育課程に基づく教育活動として、小学校児童、中学校生徒又は高等学校生徒を引率する者が入館するとき。

(2) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者（15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者）、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者その他規則で定める者が入館するとき。

(3) その他知事が適当と認めるとき。

(入館料の不還付)

第8条 既納の入館料は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、その全部又は一部を還付することがある。

(1) 第5条第1項第4号又は第5号の規定に基づき指定管理者が入館の許可を取り消したとき。

(2) 入館者の責めに帰することができない理由により利用することができなかつたとき。

(3) その他知事が特別の理由があると認めるとき。

(損害賠償等)

第9条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、指定管理者の指示するところにより原状に回復し、又は損害を賠償しなければならない。

2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは「知事」と読み替えるものとする。

(博物館協議会)

第10条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、博物館に岩手県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織し、委員は次に掲げる者のうちから任命する。

- (1) 学校教育の関係者
- (2) 社会教育の関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験のある者

3 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補則)

第11条 この条例の実施に関し、第6条から第9条までについて必要な事項は知事が、博物館の管理その他について必要な事項は教育委員会が定める。

附 則

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

別表（第6条関係）

区 分	個 人	20人以上の団体
学生	140円	1人につき70円
一般	310円	1人につき140円

備考1 特別な資料を展示した場合において、その資料を観覧しようとする者については、特別な資料の展示を行うのに要した費用を勘案してその都度知事が定める額（以下「特別入館料」という。）を別に徴収する。

2 幼児に係る入館料並びに小学校児童、中学校生徒及び高等学校生徒に係る入館料（特別入館料を除く。）は、無料とする。

(2) 博物館条例施行規則

昭和55年9月26日 規則第78号

(趣旨)

第1条 この規則は、博物館条例（昭和55年岩手県条例第41号。以下「条例」という。）の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

(領収書)

第2条 条例第6条第1項に規定する入館料の領収書については、岩手県立博物館管理運営規則（昭和55年岩手県教育委員会規則第9号）第4条第2項に規定する入館券をもってこれに代えるものとする。

(条例第7条の規則で定める者)

第3条 条例第7条第2号の規則で定める者は、次のとおりとする。

(1) 知事の定めるところにより療育手帳の交付を受けている者（知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けている時は、当該知的障害者又は知的障害児）及びその介護を行う者

(2) 条例第7条第2号の身体障害者手帳の交付を受けている者（15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者）若しくは精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者又は前号の療育手帳の交付を受けている者（知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けているときは、当該知的障害者又は知的障害児）と同等以上の障害があると知事が認める者及びこれらの介護を行う者

(3) 条例第7条第2号の身体障害者手帳の交付を受けている者（15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者）又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者の介護を行う者

（入館料の免除及び還付）

第4条 条例第7条又は第8条の規定により入館料の免除又は還付を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、別に定める様式による入館料免除（還付）申請書を知事に提出しなければならない。ただし、知事が別に定める場合にあつては、この限りではない。

2 知事は、前項の入館料免除（還付）申請書を受理したときは、その内容を審査し、入館料を免除し、又は還付することを適当と認めるときは、別に定める様式による入館料免除（還付）承認書を申請者に交付するものとする。

附 則（平成21年3月13日規則第7号）

- 1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の県立学校授業料等条例施行規則、学校施設設備基金条例施行規則、高等学校定時制課程及び通信制課程等修学資金貸付条例施行規則、博物館条例施行規則、岩手県に所有権が帰属する埋蔵文化財の取扱いに関する規則及び美術館条例施行規則（以下「県立学校授業料等条例施行規則等」という。）に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書についてはなお従前の例による。
- 3 この規則による改正前の県立学校授業料等条例施行規則等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

（3）岩手県立博物館管理運営規則

昭和55年9月26日 教育委員会規則第9号

（趣旨）

第1条 この規則は、岩手県立博物館（以下「博物館」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（休館日）

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その翌日以後の日であつて当該休日に最も近い休日でない日）
- (2) 資料整理日（資料の整理、点検等を行う9月1日から9月10日までの10日間をいう。）
- (3) 12月29日から翌年1月3日まで

2 博物館条例（昭和55年岩手県条例第41号。以下「条例」という。）第1条の2に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）は、必要があると認めるときは、博物館の館長（以下「博物館長」という。）の承認を得て、前項の休館日以外の日において臨時に休館し、又は同項の休館日において臨時に開館することができる。

（開館時間）

第3条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館時間は、午後4時までとする。

2 指定管理者は、必要があると認めるときは、博物館長の承認を得て、前項の開館時間及び入館時間を臨時に変更することができる。

（入館許可の申請）

第4条 条例第2条第1項の規定による許可を受けようとする者は、指定管理者が定めるところにより申請しなければならない。

2 指定管理者は、条例第2条第1項の規定による許可をしたときは、指定管理者が別に定める入館券を交付するものとする。

（撮影、貸出等の許可）

第5条 条例第3条第1項の規定による許可を受けようとする者は、別に定める様式による資料撮影等許可（変更）申請書又は別に定める様式による資料貸出許可（変更）申請書を博物館長に提出しなければならない。

- 2 博物館長は、条例第3条第1項の規定による許可をしたときは、別に定める様式による資料撮影等許可書又は別に定める様式による資料貸出許可書を交付するものとする。
- 3 資料の貸出期間は、30日以内とする。ただし、博物館長が特に必要と認めるときは、その期間を延長することができる。
- 4 資料の貸出しを受けた者が、当該資料を汚損し、損傷し、又は亡失したときは、速やかに、別に定める様式による資料汚損（損傷、亡失）報告書を博物館長に提出し、その指示を受けなければならない。

（汚損等の届出）

第6条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、速やかに、指定管理者に届け出なければならない。

- 2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは、「博物館長」と読み替えるものとする。

（協議会の所掌）

第7条 条例第10条の規定による岩手県立博物館協議会（以下「協議会」という。）は、博物館長の諮問に応じ、次に掲げる事項に関し、調査審議するとともに、博物館長に対して意見を述べることができる。

- （1）資料の収集、保管、展示等に関すること。
- （2）資料の調査研究、利用等に関すること。
- （3）その他博物館の運営に関すること。

（会長）

第8条 協議会に会長を置き、委員の互選とする。

- 2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

（会議）

第9条 協議会は、会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（補則）

第10条 この規則の実施に関し必要な事項は、博物館長が定める。

附 則（平成21年3月6日教育委員会規則第2号）

- 1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。

- 2 この規則による改正後の岩手県教育教員免許状に関する規則、学校教育法施行細則、岩手県立高等学校の管理運営に関する規則、博物館の登録に関する規則、教育財産管理規則、岩手県文化財保護条例施行規則、岩手県立図書館管理運営規則、岩手県立博物館管理運営規則、岩手県立総合教育センター宿泊施設の利用に関する規則、技能教育施設の指定等の手続きに関する規則、岩手県教育委員会が行う聴聞の手続に関する規則、岩手県教育委員会の所管に属する公益信託の引受けの許可及び監督に関する規則、岩手県教育委員会が保有する個人情報の保護等に関する規則、岩手県立美術館管理運営規則及び岩手県教育委員会行政組織規則の一部を改正する等の規則附則第3項の規定によりなおその効力を有することとされる廃止前の岩手県教育委員会の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則（以下「岩手県教育職員免許状に関する規則等」という。）に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書等について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書等については、なお従前の例による。
- 3 この規則による改正前の岩手県教職員免許状に関する規則等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

令和3年度岩手県立博物館年報

令和4年6月1日

編集：岩手県立博物館

〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34

Tel 019-661-2831 Fax 019-665-1214

発行：公益財団法人岩手県文化振興事業団

〒020-0023 盛岡市内丸13-1

Tel 019-654-2235